

2018年度
春学期入学
大学院入学試験要項

2018
CHUKYO UNIVERSITY

* 2018年度学内特別選抜の入学試験要項は別の冊子となります。

* 2018年度秋学期入学の入学試験要項は別の冊子となります（国際英語学研究科及び経済学研究科経済学専攻のみ実施）。

CONTENTS

| 研究科共通ページ〈出願者全員が確認してください〉 | |
|---|--------------------------------|
| 1. 中京大学大学院入学受入の方針 1ページ | 5. 受験票の受け取り 7ページ |
| 2. 入学定員と試験区分（選抜方式）一覧 4ページ | 6. 試験当日の注意事項（持ち物含む） 8ページ |
| 3. 2018年度春学期入学試験日程一覧 5ページ | 7. 合格発表 8ページ |
| 4. 出願について 7ページ | 8. 入学手続 8ページ |
| （1）出願方法 7ページ | 9. 学費等 9ページ |
| （2）検定料 7ページ | （長期履修制度について） 10ページ |
| （3）修学及び受験に際して 特別な配慮を要する方へ 7ページ | 10. 個人情報の取り扱いについて 10ページ |
| | 11. キャンパスマップ（集合場所） 11ページ |

| 各研究科ページ〈出願する研究科のページを確認してください〉 | | | |
|-------------------------------|---------------------|---------------|---------|
| 研究科 | 専攻 | 課程 | 設置キャンパス |
| 文学 | 日本文学・日本語文化 | 博士前期（修士）・博士後期 | 名古屋 |
| | 歴史文化 〈2018年4月開設〉 | 修士 | |
| 国際英語学 | 国際英語学 | 修士 | 名古屋 |
| | 英米文化学 | 修士 | |
| 心理学 | 実験・応用心理学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 名古屋 |
| | 臨床・発達心理学 | 博士前期（修士）・博士後期 | |
| 社会学 | 社会学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 豊田 |
| 法学 | 法律学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 名古屋 |
| 経済学 | 経済学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 名古屋 |
| | 総合政策学 | 博士前期（修士）・博士後期 | |
| 経営学 | 経営学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 名古屋 |
| 工学 | 機械システム工学 | 修士 | 名古屋 |
| | 電気電子工学 | 修士 | |
| | 情報工学 | 修士 | 豊田 |
| 情報科学 | 情報認知科学 | 博士後期 | 豊田 |
| | メディア科学 | 博士後期 | |
| 体育学 | 体育学 | 博士前期（修士）・博士後期 | 豊田 |

〈主な掲載内容〉

- ・入学定員と試験区分（選抜方式）
- ・出願資格
- ・入試日程一覧
- ・選抜方法
- ・試験科目・時間等
- ・試験当日集合場所・時間
- ・出願書類
- ・研究科概要及び特色
- ・教員組織
- ・教員の研究分野の紹介

●巻末書類〈出願書類所定用紙〉

- 身元保証書〈外国人留学生のみ〉
- 志願書〈研究科別、一部専攻別〉
- 研究計画書表紙〈経営学研究科博士後期課程志願者のみ〉

●同封書類

- 受験票・写真票・検定料払込票
- 検定料払込用紙
- 宛名シール
- 出願用封筒

入学試験に関する問い合わせ先

中京大学 教学部 大学院事務課
 E-mail gs-office@mng.chukyo-u.ac.jp
 名古屋キャンパス
 〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2
 TEL：(052) 835-9863
 豊田キャンパス
 〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101
 TEL：(0565) 46-6141

目次

研究科共通

文学

国際英語学

心理学

社会学

法学

経済学

経営学

工学

情報科学

体育学

巻末書類

1. 中京大学大学院入学者受入の方針

| | 博士前期（修士）課程 | 博士後期課程 |
|--------|---|---|
| 文学研究科 | <p>日本文学・日本語文化専攻</p> <p>本課程は、学部で修得した日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学のいずれか、又はその関連領域の、一般的ならびに専門的教養のうえに、批判的精神と犀利な問題意識をもって、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学等の諸分野を研究しようとする学生を受け入れる。</p> | <p>日本文学・日本語文化専攻</p> <p>本課程は、博士前期課程で修得した人文学の諸領域における高い専門能力と基礎文献の活用能力のうえに、日本文学、日本語学、日本文化学、漢文学の分野において自律した研究者に相応しく高度で独創的な研究を行おうとする学生を受け入れる。</p> |
| | <p>歴史文化専攻（修士課程）（2018年4月開設）</p> <p>本課程は、文献史学又は民俗学の方法を用いて日本の歴史文化研究を志し、以下の要件を備えた学生を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の人間社会が直面する課題について、広く関心を有している。 ・関連な議論を経ることによってみずからを成長させていく自覚と、そのためのコミュニケーション能力を有している。 ・研究について明確なテーマと計画を有し、研究しようとする事象について、日本の歴史文化の中に位置付けながら研究意義を説明できる。 ・研究しようとする時代や分野を中心に、日本の歴史文化全体に及び基本的知識を有している。 ・歴史資料を読み解くことを喜びとし、それを歴史研究に活用するための基本的な技能と知識を有している。 ・日本の歴史文化に関する専門知識を生かして社会に貢献する意欲を有している。 | |
| 心理学研究科 | <p>心理学研究科は、「実験・応用心理学」と「臨床・発達心理学」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | <p>本課程では一般選抜のほか、社会人選抜を設けて入学試験を実施する。 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の人間及び人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。 | <p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において心理学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。 |
| 社会学研究科 | <p>社会学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生起する諸現象、諸問題を認識し、それを分析・洞察する能力を、一定の研究実績として示していること。 ・専門教育を受けるに適した社会学及び隣接諸科学に関する基礎知識、ならびに外国語の能力を有していること。 ・自ら設定した課題を遂行する意欲を有していること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において社会学及び隣接諸科学に関する高度な学識や、外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。 ・自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。 |
| 法学研究科 | <p>法学研究科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、そして、本研究科が定める「教育上の目的（理念、目的）」に賛同し、これまで培ってきた知識や技能を土台として、真理を探求する研究心の旺盛な且つ真摯な態度で法律学及び政治学を学び、昇華させようとする意欲的な人を広く求める。</p> | |
| | <p>本課程は、学部の教育課程において修得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の基礎的な読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をもって、法学及び政治学その他の関連する諸分野を研究することを志す学生を受け入れる。</p> | <p>本課程は、博士前期課程（修士課程）において修得した一般的教養、法律学並びに政治学の専門的知識、その他の関連する諸分野の知識、及び、外国文献の読解力のうえに、これらによって培った鋭敏な問題意識及び問題発見能力をさらに研ぎ、今後、法律学及び政治学の学問水準を高める研究業績を博士論文において示しうる学生を受け入れる。</p> |

| | 博士前期（修士）課程 | 博士後期課程 |
|---------|--|---|
| 経済学研究科 | <p>経済学研究科は、「経済学専攻」と「総合政策学専攻」の2専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 本課程経済学専攻では一般選抜のほか、税理士選抜、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 2. 本課程総合政策学専攻では一般選抜のほか、社会人選抜、留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 3. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有していること。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。 | <p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において経済学又は総合政策学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。 |
| 経営学研究科 | <p>経営学研究科は、「研究科の人材の養成に関する目的」にある高度な専門家を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人材を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・経営に関する諸現象、諸問題を認識し、それを分析・洞察する能力を示していること。 ・専門教育を受けるに適した経営学及び隣接諸科学に関する基礎知識を有していること。 ・自ら適切な研究課題を設定できる能力とそれを遂行する意欲を有していること。 ・外国人留学生には、日本語能力試験N1レベル級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において経営学及び隣接諸科学に関する高度な学識や、外国語能力を含む研究遂行のための基礎能力を有していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するための基本的資質を示すものとして、自ら設定した課題についての質の高い研究成果をあげていること。 ・自ら設定した課題について高い水準の研究活動を遂行する意欲を有していること。 ・外国人留学生には、日本語能力試験N1レベル級、あるいはそれに準ずる日本語能力を求める。 |
| 工学研究科 | <p>〔修士課程〕</p> <p>工学研究科修士課程は、「機械システム工学専攻」「電気電子工学専攻」「情報工学専攻」の3専攻を設け、学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の人間及び人間社会が直面する諸課題について、明確な問題意識を有する者。 ・専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有する者。 ・自ら設定した課題について遂行する意欲を有する者。 | |
| 情報科学研究科 | <p>情報科学研究科博士後期課程においては「情報認知科学」、「メディア科学」の2専攻を設けて学生を募集する。「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。</p> | |
| | | <p>本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において情報科学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・学術研究・教育者あるいは高度専門実務家として活躍するために、自ら設定した課題について研究活動を遂行する意欲を有していること。 |

| | 博士前期（修士）課程 | 博士後期課程 |
|--------|---|--|
| 体育学研究科 | 体育学研究科は、「教育研究上の目的（人材養成の目的）」にある人材を輩出するため、以下のような方針で広く学生を募集し受け入れる。 | |
| | 1. 本課程では一般選抜のほか、社会人選抜と外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育学・健康科学の領域における基礎的な知識を有し、さらなる専門知識を修得する意欲を有していること。 ・ 体育学・健康科学研究の専門職を目指す者については、特に高度な学術研究を遂行するための研究能力を修得する意欲を有していること。 ・ スポーツ指導者を目指す者については、特に高度な技術と指導力を修得する意欲を有していること。 | 本課程は2か年の博士前期課程（修士課程）の上に3か年の博士後期課程を乗せるという積み上げ方式をとり、国外を含む他大学院の修士課程修了者を積極的に受け入れる方針を取っている。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 本課程では一般選抜のほか、外国人留学生選抜を設けて入学試験を実施する。 2. 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士前期課程において体育学についての高度な学識や問題処理能力を修得していること。 ・ 学術研究者・教育者あるいは高度な技術と専門知識を有するスポーツ指導者として活躍するために、独創性と論理性を備えた研究を遂行し、学術的あるいは教育的に意義のある研究論文を執筆する基礎的能力と意欲を有していること。 |

| | 修士課程 | |
|----------|---|---|
| 国際英語学研究科 | 国際英語学研究科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、及び専攻科が定める教育研究上の目的（理念・目的）にある人材を育成するために、以下のような能力と意欲ある人を広く求め、受け入れる。 | |
| | 国際英語学専攻 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 研究に必要とされる十分な英語力を有していること。 ・ 自ら設定した研究課題について遂行する意欲を有していること。 ・ 文化を異にする人達と良好な人間関係を構築できること。 | 英米文化学専攻 本課程では以下の能力と態度を有する者を受け入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する明確な問題意識を有していること。 ・ 語学力を含めて、専門教育を受けるに適した学識や問題処理能力を有していること。 ・ 自ら設定した課題について遂行する意欲を有していること。 |

2. 入学定員と試験区分（選抜方式）一覧

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 入学定員 | 試験区分（選抜方式） | | | | |
|--------|---------------------|----------|------|------------|-------|-------|-------|--------|
| | | | | 一般選抜 | 社会人選抜 | 留学生選抜 | 税理士選抜 | 学内特別選抜 |
| 文学 | 日本文学・日本語文化 | 博士前期（修士） | 5名 | ○ | ○ | ○ | — | ○ |
| | | 博士後期 | 2名 | ○ | — | — | — | — |
| | 歴史文化 〈2018年4月開設〉 | 修士 | 3名 | ○ | ○ | ○ | — | ○ |
| 国際英語学※ | 国際英語学 | 修士 | 5名※ | ○ | — | — | — | — |
| | 英米文化学 | 修士 | 3名※ | ○ | — | — | — | — |
| 心理学 | 実験・応用心理学 | 博士前期（修士） | 5名 | ○ | ○ | — | — | — |
| | | 博士後期 | 2名 | ○ | — | — | — | — |
| | 臨床・発達心理学 | 博士前期（修士） | 15名 | ○ | ○ | — | — | — |
| | | 博士後期 | 2名 | ○ | — | — | — | — |
| 社会学 | 社会学 | 博士前期（修士） | 5名 | ○ | — | ○ | — | — |
| | | 博士後期 | 2名 | ○ | — | ○ | — | — |
| 法学 | 法律学 | 博士前期（修士） | 10名 | ○ | ○ | ○ | — | ○ |
| | | 博士後期 | 3名 | ○ | — | ○ | — | — |
| 経済学 | 経済学※ | 博士前期（修士） | 5名※ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 博士後期 | 2名※ | ○ | — | — | — | — |
| | 総合政策学 | 博士前期（修士） | 5名 | ○ | ○ | ○ | — | ○ |
| | | 博士後期 | 2名 | ○ | — | — | — | — |
| 経営学 | 経営学 | 博士前期（修士） | 10名 | ○ | ○ | — | — | ○ |
| | | 博士後期 | 3名 | ○ | — | — | — | — |
| 工学 | 機械システム工学 | 修士 | 7名 | ○ | — | — | — | ○ |
| | 電気電子工学 | 修士 | 7名 | ○ | — | — | — | ○ |
| | 情報工学 | 修士 | 8名 | ○ | — | — | — | ○ |
| 情報科学 | 情報認知科学 | 博士後期 | 4名 | ○ | — | — | — | — |
| | メディア科学 | 博士後期 | 2名 | ○ | — | — | — | — |
| 体育学 | 体育学 | 博士前期（修士） | 12名 | ○ | ○ | ○ | — | — |
| | | 博士後期 | 4名 | ○ | — | ○ | — | — |

※国際英語学研究科及び経済学研究科経済学専攻のみ、2018年度秋学期入学試験を実施します。表中の定員は2018年度秋学期入学試験の定員との合算人数です。

3. 2018年度春学期入学試験日程一覧

博士前期（修士）課程

| | 研究科 | 試験区分 | 出願期間 (最終日消印有効) | 試験日 | 可否通知 発送日 | 第一次入学 手続期間 | 最終入学 手続期間 | 入学辞退 手続締切日 |
|------|------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------|-------------|--|-----------------------------------|-------------------|
| 前期日程 | 経済学 (経済学専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生/税理士/ 学内特別 | 2017年 6月12日(月) } 6月22日(木) | 7月8日(土) | 7月18日(火) | 7月18日(火) } 7月25日(火) | 2018年 3月2日(金) } 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 工学 | 一般/学内特別 | 2017年 6月12日(月) } 6月16日(金) | 6月30日(金)・ 7月1日(土) | 7月14日(金) | 7月14日(金) } 7月21日(金) | | |
| | 心理学 | 一般/社会人 | 2017年 8月18日(金) } 8月25日(金) | 9月9日(土)・ 10日(日) | 9月20日(水) | 9月20日(水) } 9月27日(水) | | |
| | 法学 | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | 2017年 8月21日(月) } 8月30日(水) | 9月14日(木) | 9月25日(月) | 9月25日(月) } 10月2日(月) | | |
| | 社会学 | 一般/留学生 | 2017年 8月28日(月) } 9月6日(水) | 9月23日(土) | 10月3日(火) | 10月3日(火) } 10月10日(火) | | |
| | 文学 (日本文学・日本語文化専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生 | 2017年 8月30日(水) } 9月8日(金) | 9月30日(土) | 10月10日(火) | 10月10日(火) } 10月17日(火) | | |
| | 文学 (歴史文化専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | | | | | | |
| | 国際英語学 | 一般 | | | | | | |
| | 経済学 (総合政策学専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | | | | | | |
| | 経営学 | 一般/社会人/ 学内特別 | | | | | | |
| 体育学 | 一般/社会人/ 留学生 | | | | | | | |
| 後期日程 | 心理学 | 一般 | 2018年 1月9日(火) } 1月17日(水) | 2月1日(木)・ 2日(金) | 2月13日(火) | 2018年 合格発表日 } 3月13日(火) ※二段階納入方式ではありません | | |
| | 工学 | 一般/学内特別 | 2018年 1月15日(月) } 1月25日(木) | 2月9日(金)・ 10日(土) | 2月22日(木) | | | |
| | 法学 | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | 1月25日(木) | 2月9日(金) | | | | |
| | 社会学 | 一般/留学生 | 2018年 1月22日(月) } 1月31日(水) | 2月17日(土) | 2月27日(火) | | | |
| | 文学 | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | 2018年 1月22日(月) } 2月1日(木) | 2月16日(金) | | | | |
| | 体育学 | 一般/社会人/ 留学生 | 2月1日(木) | 2月17日(土) | | | | |
| | 国際英語学 | 一般 | | | | | | |
| | 経済学 (経済学専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生/税理士/ 学内特別 | 2018年 1月29日(月) } 2月8日(木) | 2月24日(土) | 3月6日(火) | | | |
| | 経済学 (総合政策学専攻のみ) | 一般/社会人/ 留学生/学内特別 | | | | | | |
| | 経営学 | 一般/社会人/ 学内特別 | | | | | | |

外国人の方及び外国在住日本人の方で日本国外から出願される場合は、出願期間以前の受付も可能です。事前に教学部大学院事務課にご相談ください。

国際英語学研究科及び経済学研究科経済学専攻のみ、2018年度秋学期入学試験を実施します。2018年度秋学期入学試験要項は2018年4月に本学公式ホームページ上で公表します。

博士後期課程

| | 研究科 | 試験区分 | 出願期間 (最終日消印有効) | 試験日 | 可否通知 発送日 | 第一次入学 手続期間 | 最終入学 手続期間 | 入学辞退 手続締切日 |
|------|------|--------|------------------------------------|-------------------|-------------|--|-----------------------------------|-------------------|
| 前期日程 | 情報科学 | 一般 | 2017年 6月12日(月) } 6月16日(金) | 6月30日(金) | 7月14日(金) | 7月14日(金) } 7月21日(金) | 2018年 3月2日(金) } 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 体育学 | 一般/留学生 | 2017年 8月30日(水) } 9月8日(金) | 9月30日(土) | 10月10日(火) | 10月10日(火) } 10月17日(火) | | |
| 後期日程 | 心理学 | 一般 | 2018年 1月9日(火) } 1月17日(水) | 2月1日(木)・ 2日(金) | 2月13日(火) | 2018年 合格発表日 } 3月13日(火) ※二段階納入方式ではありません | | |
| | 法学 | 一般/留学生 | 2018年 1月15日(月) } 1月25日(木) | 2月9日(金) | 2月22日(木) | | | |
| | 情報科学 | 一般 | 2018年 1月22日(月) } 1月31日(水) | 2月17日(土) | 2月27日(火) | | | |
| | 社会学 | 一般/留学生 | 2018年 1月22日(月) } 2月1日(木) | 2月16日(金) | | | | |
| | 文学 | 一般 | 2018年 1月22日(月) } 2月1日(木) | 2月17日(土) | 3月6日(火) | | | |
| | 体育学 | 一般/留学生 | 2018年 1月29日(月) } 2月8日(木) | 2月24日(土) | | | | |
| | 経済学 | 一般 | | | | | | |
| | 経営学 | 一般 | | | | | | |

外国人の方及び外国在住日本人の方で日本国外から出願される場合は、出願期間以前の受付も可能です。事前に教学部大学院事務課にご相談ください。

経済学研究科経済学専攻のみ、2018年度秋学期入学試験を実施します。2018年度秋学期入学試験要項は2018年4月に本学公式ホームページ上で公表します。

4. 出願について

(1) 出願方法

【郵送・窓口持参共通事項】

- ① 所定の封筒に必要な事項を記入し、出願書類を入れてください。
- ② 論文等が大きく、所定の封筒に入らない場合は、所定の封筒の表面を切り取り、出願書類が入る大きさの任意の封筒に貼付してください。
- ③ 出願書類に不備がある場合は出願を受け付けません。

【出願書類を郵送する場合】

- ・ 出願期間最終日の消印有効とします。
- ・ 「速達の簡易書留郵便」で送付してください。
- ・ 豊田キャンパス設置研究科・専攻に出願される場合も、名古屋キャンパス教学部大学院事務課宛（所定の封筒に印刷された宛先）に送付してください。

【出願書類を大学窓口を持参する場合】

- ・ 名古屋・豊田両キャンパスの大学院事務課窓口（以下）にて出願を受け付けます。
〈大学院事務課のご案内〉
名古屋キャンパス：名古屋市昭和区八事本町101-2 14号館1階
豊田キャンパス：豊田市貝津町床立101 11号館1階
※両キャンパスとも受付時間は平日の9:00～17:00です。時間外の受付はいたしかねますのでご注意ください。

(2) 検定料

- ① 入学検定料（35,000円）は同封の検定料払込用紙を用いて、ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口にて払い込んでください。
※本学在学生のうち《大学院進学奨励》制度で大学院進学を志望する者は、入学検定料を払い込む前に教学部大学院事務課に申し出てください。
- ② 「振替払込受付証明書（願書貼付用）」は、ゆうちょ銀行又は郵便局の日附印を確認の上、検定料払込票の所定欄に貼付してください。
- ③ 現金や為替を封入したり、他の金融機関での振込、及びATMによる振込は受け付けることができません。
- ④ 振込手数料は個人負担となります。払い込まれた入学検定料は返還いたしませんのでご了承ください。
- ⑤ 「振替払込請求書兼受領証」は大学発行の領収書とみなしますので、大切に保管してください。
- ⑥ 払込用紙裏面の収入印紙については貼付する必要はありません。
- ⑦ 入学検定料納入期間は、出願開始日の一週間前から、出願締切日までです。

(3) 修学及び受験に際して特別な配慮を要する方へ

中京大学では、障がい等により、受験及び修学に際して配慮を希望する方からの相談を随時受け付けています。なお、相談の内容によっては、出願前に志願者ご本人（及び保護者）に面談を依頼することがありますので予めご承知ください。
※この面談は、受験上及び修学上の配慮について確認するものであり、合否判定等とは一切関係ありません。出願の検討段階での相談でも構いませんので、できる限り早めに教学部大学院事務課までお申し出ください。特に、受験に際しての配慮を希望される方は、各試験の出願開始の4週間前までに必ずご連絡ください。

5. 受験票の受け取り

- ① 受験票は出願期間締切後、随時郵送します。
- ② 受験票が試験日の3日前になっても届かない場合は、教学部大学院事務課 TEL(052)835-9863へ連絡してください。
- ③ 受験票を紛失した場合や忘れた場合は、試験当日に中京大学大学院入試担当係員に申し出て、「仮受験票発行」の手続きをとってください。

6. 試験当日の注意事項

(1) 持参するもの

- ① 受験票 ● 受験票を忘れた場合、又は出発時までには受験票が届かなかった場合は、試験当日に中京大学大学院入試担当係員に申し出てください。
- ② 筆記用具 ● HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、プラスチック消しゴム
※下敷き、定規、コンパス等の使用は認めません。
- ③ 時計 ● 試験会場（試験室）には時計がありません。
● 時計以外の機能が付いたものの使用は認めません（タイマーや大型時計の使用も認めません）。
また、携帯電話（スマートフォン含む）・PHS等を時計として使用することもできません。

※研究科・専攻により、辞典・辞書等の持込を許可している場合があります。詳細は各研究科ページを参照してください。

(2) 試験室への案内

- ① 試験開始30分前までに、各研究科・専攻が指定する場所に集合してください。なお、試験室への案内は、掲示・大学院入試担当係員の誘導などにより行います。
※集合場所は各研究科ページを参照してください。
※前日に試験室を下見することはできません。
- ② 試験開始10分前までに所定の試験室、座席に着くようにしてください。
- ③ 各試験会場内は禁煙とします。

(3) 遅刻について

私的な理由による遅刻については試験開始後30分まで入室を認めます。それ以降の遅刻は一切認めません。なお、時間延長等の特別措置はありません。公共交通機関の遅延によって試験に遅れる場合は、遅延証明書をお持ちください。

7. 合格発表（合否通知発送）

- ① 合否通知発送日（前述「3. 2018年度春学期入学試験日程一覧」参照）に合否通知を発送します。
- ② 合格者の入学手続書類は、合格通知書とともに郵送します。

8. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

入学手続は「**第一次入学手続**」と「**最終入学手続**」の二段階納入方式です。詳しくは合格通知書同封の『入学手続要項』で確認してください。

※後期日程は、二段階納入方式ではなく、第一次入学手続と最終入学手続が同一期間となります。詳細は前述「3. 2018年度春学期入学試験日程一覧」を参照してください。

〈第一次入学手続〉

入学金のみ納入することで、第一次入学手続が完了となります。

※一旦納入した入学金は、いかなる理由があっても返還できません。予めご了承ください。

〈最終入学手続〉

第一次入学手続を完了された方は、最終入学手続期間に授業料等の納入及び、入学手続書類の送付をすることで最終入学手続が完了となります。

〈入学辞退〉

最終入学手続完了後、入学辞退締切日までに「入学辞退届」を提出した場合は、入学金を除く入学時納付金（授業料等）を返還いたします。

※入学辞退締切日は前述「3. 2018年度春学期入学試験日程一覧」を参照してください。

外国人留学生のみ

外国人留学生の入学手続者は、最終入学手続完了後ただちに、中京大学国際センターまで必ず連絡してください。
中京大学国際センター TEL (052) 835-7133

心理学研究科博士前期（修士）課程入学者のみ

有職者については、入学時に人事部長又は所属長の大学院通学承諾書を提出していただきます。予めご了承ください。

9. 学費等

※この学費は2017年度入学生のもので、2018年度入学生の場合は、事情により改定することがあります。

I：文学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | ※学会費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------------------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 200,000 | 440,000 | 200,000 | 1,000 | 841,000 | 521,000 |
| 博士後期課程 | 200,000 | 400,000 | 150,000 | 1,000 | 751,000 | 476,000 |

II：心理学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 実験実習費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------------------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 200,000 | 440,000 | 220,000 | 30,000 | 890,000 | 545,000 |
| 博士後期課程 | 200,000 | 400,000 | 170,000 | 30,000 | 800,000 | 500,000 |

III：工学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 実験実習費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| 修士課程 | 200,000 | 505,000 | 245,000 | 100,000 | 1,050,000 | 625,000 |

IV：情報科学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 実験実習費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 博士後期課程 | 200,000 | 400,000 | 200,000 | 100,000 | 900,000 | 550,000 |

V：体育学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 実験実習費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------------------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 200,000 | 440,000 | 245,000 | 50,000 | 935,000 | 567,500 |
| 博士後期課程 | 200,000 | 400,000 | 200,000 | 50,000 | 850,000 | 525,000 |

VI：国際英語学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | ※学会費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|
| 修士課程 | 200,000 | 440,000 | 200,000 | 1,000 | 841,000 | 521,000 |

VII：社会学・法学・経済学・経営学研究科

(単位：円)

| | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 実験実習費 | 年額計 | 入学時納付金 |
|------------------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 200,000 | 440,000 | 200,000 | — | 840,000 | 520,000 |
| 博士後期課程 | 200,000 | 400,000 | 150,000 | — | 750,000 | 475,000 |

【補足事項】

- ①博士前期（修士）課程の2年次納付金は、1年次と同額です（入学金を除く）。
※体育学研究科の2年次納付金は、授業料・教育充実費については1年次と同額ですが、実験実習費については年20,000円減額になります。
- ②博士後期課程の2年次及び3年次の納付金は、1年次と同額です（入学金を除く）。
- ③「入学金」は入学時のみ納入、「授業料、教育充実費及び実験実習費」は春学期・秋学期の2回に分けて納入していただきます。ただし、入学時の春学期分については、入学時納付金に含まれます。
- ④中京大学卒業の博士前期（修士）課程入学者は、入学金 20,000円、教育充実費は入学時の1年次春学期分のみ半額です（この取り扱いの詳細は、別表を参照してください）。
- ⑤本学博士前期（修士）課程から、同一の研究科の博士後期課程への進学者は、入学金を免除します。
- ⑥入学後、いくつかの特定科目の履修に際して別途履修費及び実習費を徴収することがあります。
- ⑦学費は「学則」の改定にともない在学中に変更することがあります。
- ⑧外国人留学生は、学費のうち「授業料」について3割減免措置を、博士前期（修士）課程に対しては入学後2年間、博士後期課程に対しては入学後3年間の各期間適用いたします。
- ⑨入学辞退締切日までに入学辞退手続をした場合、入学時納付金のうち、入学金を除くその他の納付金を返金いたします。
- ⑩文学研究科・国際英語学研究科は「学会費」を春学期に納入していただきます。
- ⑪法学研究科博士前期（修士）課程社会人選抜の合格者で修学期間3・4年を選択した入学者の授業料については、標準修学期間（2年間分）の授業料を、選択した修学期間（3・4年）で納入していただきます。
- ⑫経済学研究科経済学専攻博士前期（修士）課程及び体育学研究科博士前期（修士）課程の社会人選抜の合格者で修学期間3年を選択した入学者の授業料については、標準修学期間（2年間分）の授業料を、選択した修学期間（3年）で納入していただきます。

別表

| | 入学金 | 教育充実費 | |
|--------|---------|------------|--------|
| | | 春学期入学者 | 秋学期入学者 |
| 春学期入学者 | 20,000円 | 入学時の1年次春学期 | 半額 |
| 秋学期入学者 | 20,000円 | 入学時の1年次秋学期 | 半額 |

【長期履修制度について】

博士前期（修士）課程「社会人選抜」志願者対象
（法学研究科、経済学研究科経済学専攻、体育学研究科のみ）

本学大学院学則において、博士前期（修士）課程の標準修業年限は2年間と定められていますが、職業を有している等の事情により、十分な学習・研究時間が確保できない場合、経済学研究科経済学専攻及び体育学研究科は3年間、法学研究科は3年間又は4年間での計画的な教育課程の履修を可能としています。前述の研究科・専攻における社会人選抜志願者のうち、長期履修制度の適用を希望する場合には、志願書の「在学期間」欄にて申請してください。

※長期履修は、申請すれば必ず認められるものではありません。審査により不可となる場合もありますのでご注意ください。

※入学後に長期履修制度の適用申請はできません。また、この制度は学業不振などの理由により修了が延期となる者を救済するためのものではありません。

※いずれの在学期間を選択しても、4年を超えて在学することはできません。

※学費の納入については、上記【補足事項】の⑪・⑫を参照してください。

10. 個人情報の取り扱いについて

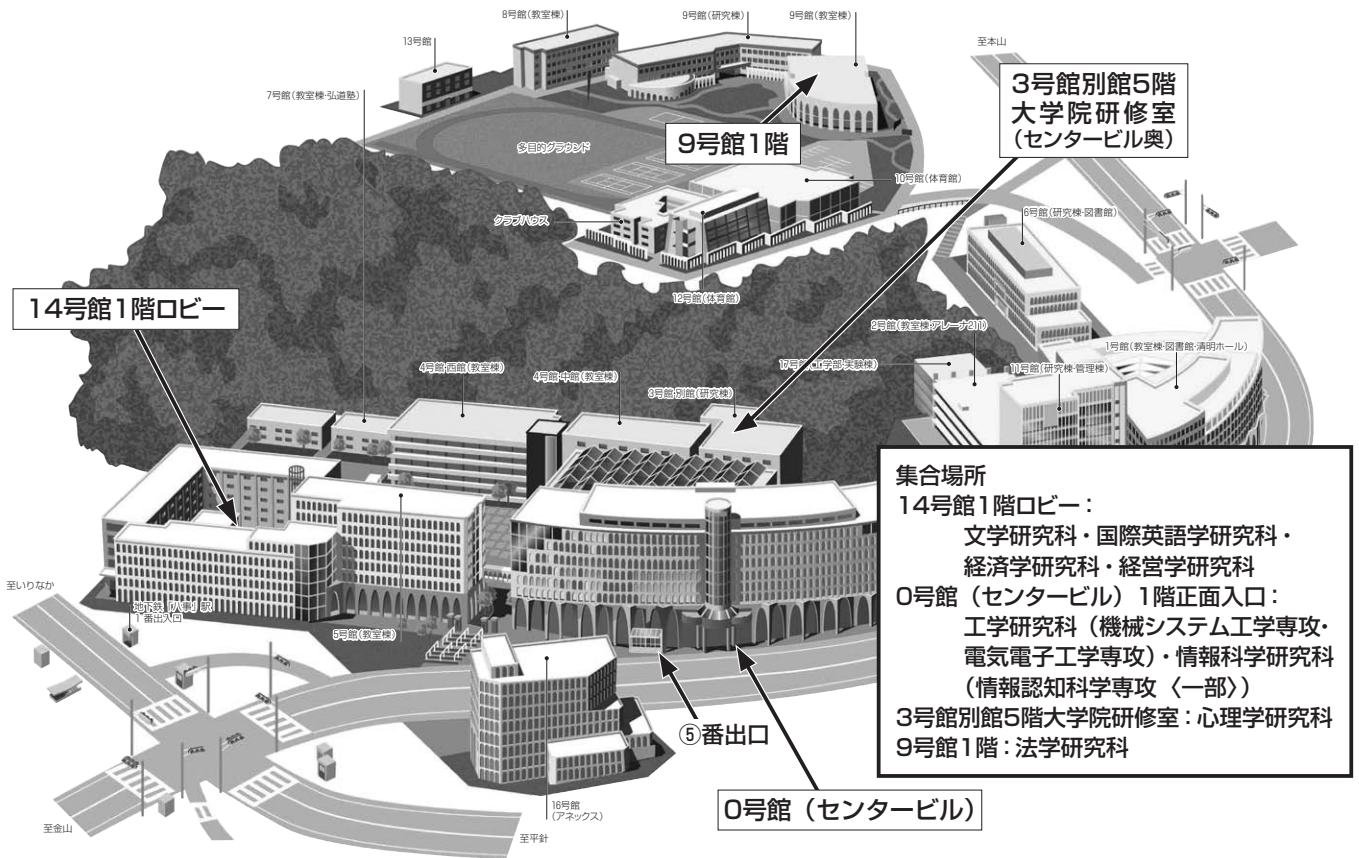
- ①志願書等に記入された住所・氏名・その他個人情報については、合否結果通知及び合格者・入学手続者への各種案内の発送に利用します。
- ②大学が業務を委託した会社に、個人情報の全部又は一部を提供しますが、目的以外の用途に使用することはありません。予めご了承ください。

11. キャンパスマップ (集合場所)

名古屋キャンパス

〒466-8666

名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-9863

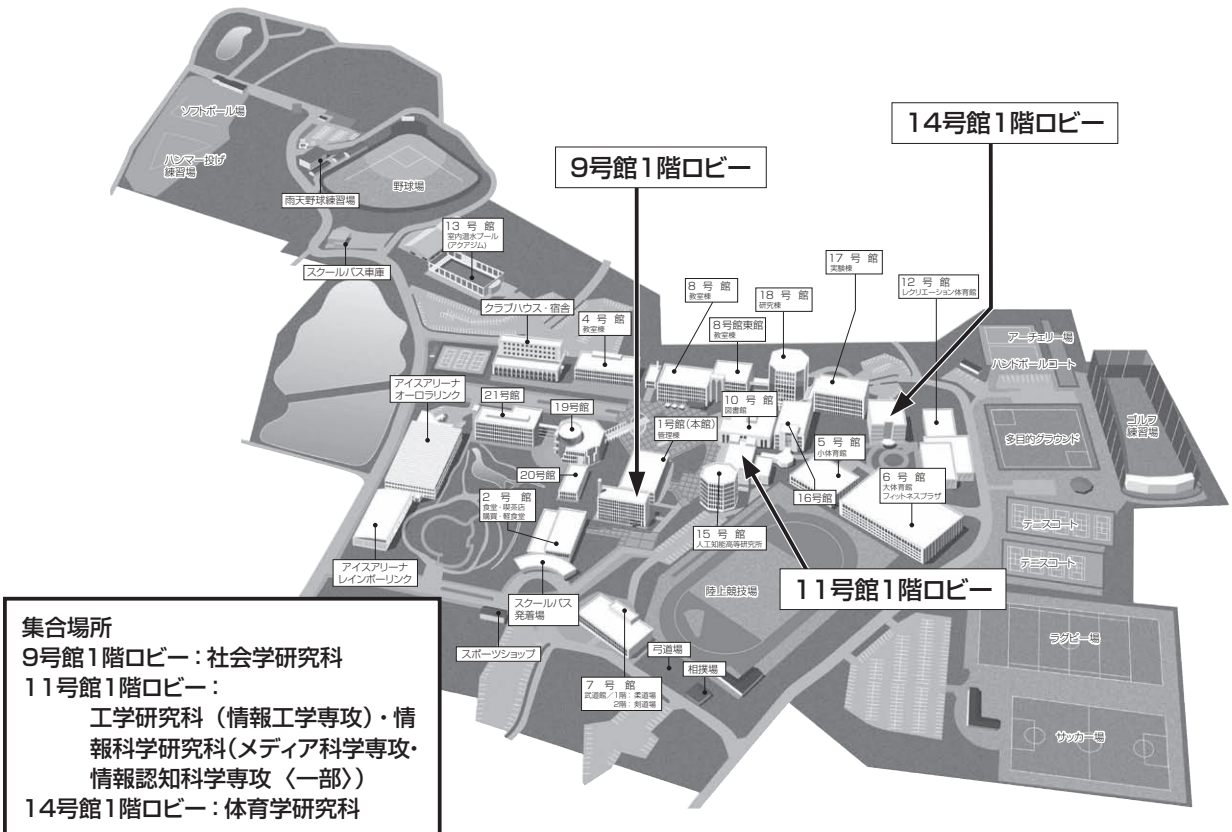


集合場所
 14号館1階ロビー：
 文学研究科・国際英語学研究科・
 経済学研究科・経営学研究科
 0号館（センタービル）1階正面入口：
 工学研究科（機械システム工学専攻・
 電気電子工学専攻）・情報科学研究科
 （情報認知科学専攻〈一部〉）
 3号館別館5階大学院研修室：心理学研究科
 9号館1階：法学研究科

豊田キャンパス

〒470-0393

豊田市貝津町床立101 TEL(0565)46-6141



集合場所
 9号館1階ロビー：社会学研究科
 11号館1階ロビー：
 工学研究科（情報工学専攻）・情
 報科学研究科（メディア科学専攻・
 情報認知科学専攻〈一部〉）
 14号館1階ロビー：体育学研究科

文学研究科

日本文学・日本語文化専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

歴史文化専攻〈2018年4月開設〉

【修士課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）は**巻末**を確認してください。

- 博士前期（修士）課程学内特別選抜については別冊子『**2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項**』（**教学部大学院事務課窓口にて配付**）を参照してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分 ^{*1} | 入学定員 |
|-----|---------------------|----------|----------------------------------|------|
| 文学 | 日本文学・ 日本語文化 | 博士前期（修士） | 一般・社会人・留学生・学内特別 ^{*2} 選抜 | 5名 |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 2名 |
| | 歴史文化 （2018年4月開設） | 修士 | 一般・社会人・留学生・学内特別選抜 | 3名 |

※1…同一日程における複数の試験区分の併願不可。

※2…日本文学・日本語文化専攻の学内特別選抜は年1回（後期日程のみ）の実施。

学内特別選抜については別冊子『2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|---|--|
| <p>一般選抜</p> <p>日本文学・日本語文化専攻</p> <p>歴史文化専攻</p> | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者</p> <p>②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者</p> <p>③外国において学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者</p> <p>⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>⑧文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】</p> <p>出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> <p>対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| <p>社会人選抜</p> <p>日本文学・日本語文化専攻</p> <p>歴史文化専攻</p> | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・入学時において、大学（短期大学も含む。）卒業後7年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない。</p> |
| <p>留学生選抜</p> <p>日本文学・日本語文化専攻</p> <p>歴史文化専攻</p> | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者。</p> |

博士後期課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">一般選抜</p> <p style="text-align: center;">日本文学・日本語文化専攻</p> | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者</p> <p>②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者</p> <p>⑦文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認められた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|----------------|--------------------|------------------|-----------------------------------|-------------------|--------------------|---------------------------------|---------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | | | 消印有効 | |
| 前期日程 | 日本文学・ 日本語文化 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2017年 8月30日(水) ∟ 9月8日(金) | 2017年 9月30日(土) | 2017年 10月10日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月17日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 歴史文化 | 修士 | | | | | 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| 後期日程 | 日本文学・ 日本語文化 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2018年 1月22日(月) ∟ 2月1日(木) | 2018年 2月16日(金) | 2018年 2月27日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | 歴史文化 | 修士 | | | | | | |
| | 日本文学・ 日本語文化 | 博士後期 ^{※1} | 一般 | | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

志願にあたっては、志望指導教員との事前面談及び出願承諾が必要となります。出願期間前に期日の余裕をもって教学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

一般選抜——①当日の試験、②出身大学の成績、③その他出願書類（研究計画の内容を重視する）によって行います。

社会人選抜——①当日の試験、②その他出願書類（研究計画の内容を重視する）によって行います。

留学生選抜——①当日の試験、②その他出願書類（研究計画の内容及び日本語能力を重視する）によって行います。

博士後期課程

一般選抜——①当日の試験、②出身大学院の成績、③修士論文等、④その他出願書類（研究計画の内容を重視する）によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 | |
|----------------|------|---------------------|--|--|
| 日本文学・ 日本語文化 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 専門科目 ●必須科目：日本語学 ・日本語学に関する基本的な知識を問うもの。 ●選択科目：日本文学 ①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 比較文学 ⑥比較文学（日中） 日本語文化 ⑦書学 ⑧出版論 ⑨著作権論 日本語学 ⑩日本語史 ⑪現代日本語 ・上記①～⑪の科目の中から、専攻の1科目及びそれ以外の任意の1科目の計2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 | |
| | | 13:00 } 14:00 | 英語 ・英和辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 | |
| | | 14:30* } | 口頭試問 ・研究計画を中心とする。 | |
| | 社会人 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 専門科目 ●必須科目：日本語学 ・日本語学に関する基本的な知識を問うもの。 ●選択科目：日本文学 ①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 比較文学 ⑥比較文学（日中） 日本語文化 ⑦書学 ⑧出版論 ⑨著作権論 日本語学 ⑩日本語史 ⑪現代日本語 ・上記①～⑪の科目の中から、専攻の1科目及びそれ以外の任意の1科目の計2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 |
| | | | 13:30* } | 口頭試問 ・研究計画を中心とする。 |
| | | 社会人 | 一般 | 13:30* } |

※口頭試問の試験時間は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|----------------|------------|---------------------|---|
| 日本文学・ 日本語文化 | 留学生 | 10:00) 12:00 | 専門科目 ●選択科目： 日本文学 ①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 比較文学 ⑥比較文学（日中） 日本語文化 ⑦書学 ⑧出版論 ⑨著作権論 日本語学 ⑩日本語史 ⑪現代日本語 ・上記①～⑪の科目の中から、専攻の1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 |
| | | 13:00) 14:00 | 日本文化一般 |
| | | 14:30*) | 口頭試問 ・研究計画を中心とする。 |
| 歴史文化 | 一般 | 10:00) 11:30 | 専門科目 ①古代史 ②中世史（織豊期含む） ③近世史 ④近現代史 ⑤思想史 ⑥民俗学 ・上記①～⑥の科目の中から、専攻の1科目及びそれ以外の任意の1科目の計2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 |
| | | 13:00) 14:00 | 「英語」又は「古文書（くずし字）読解」 ・いずれかを出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること。 ・英和辞典又はくずし字辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 14:30*) | 口頭試問 ・研究計画を中心とする。 |
| | 社会人 留学生 | 10:00) 11:30 | 専門科目 ①古代史 ②中世史（織豊期含む） ③近世史 ④近現代史 ⑤思想史 ⑥民俗学 ・上記①～⑥の科目の中から、専攻の1科目及びそれ以外の任意の1科目の計2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 |
| | | 13:30*) | 口頭試問 ・研究計画を中心とする。 |

※口頭試問の試験時間は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|----------------|------|---------------------|--|
| 日本文学・ 日本語文化 | 一般 | 10:00) 12:00 | 専門科目 ①日本文学 ②日本語文化 ③日本語学 ・上記①～③の科目の中から、1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 |
| | | 13:00) 14:00 | 外国語 ①英語 ②漢文 ③資料解読 ・上記①～③の科目の中から、1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・英語のみ英和辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 16:00*) | 口頭試問 ・研究計画及び提出論文を中心とする。 |

※口頭試問の開始時刻は早まる場合がある（試験当日に通知）。

6. 試験当日集合場所・時間

名古屋キャンパス14号館1階ロビー 9:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類（別紙等）はA4判サイズのものを出してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。
- ⑥博士前期（修士）課程の志願にあたっては、志望指導教員との事前面談及び出願承諾が必要となります。出願期間前に期日の余裕をもって教育学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|--|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ①日本文学・日本語文化専攻志願者は巻末－日本文学・日本語文化・志願書を、歴史文化専攻志願者は巻末－歴史文化・志願書を使用すること。 ②博士前期（修士）課程志願者は、<u>出願前に志望指導教員に連絡をとり面談を受け、出願承諾を得ること。出願承諾が得られない場合は、出願することはできない。</u>出願承諾を得たら、志望指導教員に「志望指導教員出願承諾印」欄の記入・捺印を依頼すること。 ※志望指導教員は、後掲「教員組織」を参照のこと。 ※日本文学・日本語文化専攻学内特別選抜志願者は、面談及び承諾は不要。 ③「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。 ④「推薦書」欄の記入は任意（無記入可）。 ※推薦書記入者は、博士前期（修士）課程志願者においては出身大学の学部長又は指導教員、博士後期課程志願者においては出身大学院の研究科長又は指導教員を原則とする。 ※中京大学出身者及び社会人選抜志願者は推薦書の記入不要。 ⑤「修士論文」欄は、博士前期（修士）課程修了者のみ修士論文の題目と概要を記入すること（作成途中の場合は予定を記入）。 ⑥「入学後の研究計画」欄は博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。 ※博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。 |
| 卒業証明書 （含見込） | <p>〈博士前期（修士）課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 （含見込） | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-------|--|
| 論文 | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉 次の①～③を提出すること（②は該当するものがあれば提出）。 ①修士論文又はこれに代わる業績（作成途中のものでも可）。 ②学術雑誌・紀要・学会発表論文集等に掲載された業績。 ③上記の業績目録（別紙にて提出）。 ※上記①～③いずれもコピー可。返却はしない。</p> |
| 研究計画書 | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉 ・博士後期課程における研究計画について記載した書類を提出すること。 ・書式自由、400字詰原稿用紙10枚程度。</p> |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉 ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。</p> |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------|---|
| 日本語の学力に関する書類 | <p>・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。</p> |
| 住民票 | <p>・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。</p> |
| 身元保証書【巻末書類】 | <p>・巻末－身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。</p> |
| パスポートのコピー | <p>・顔写真のページのコピーを提出すること。</p> |

8. 研究科概要及び特色

1. 沿革

- 1966年4月 文学部国文学科設置
- 1973年4月 文学研究科国文学専攻修士課程設置
- 1982年4月 文学研究科国文学専攻博士課程設置
- 2003年4月 文学部言語表現学科設置、文学部国文学科を日本文学科に名称変更
- 2009年4月 文学研究科国文学専攻を日本文学・日本語文化専攻に名称変更
- 2014年4月 文学部歴史文化学科設置
- 2018年4月 文学研究科歴史文化専攻修士課程開設予定

2. 教育課程の特色

日本文学・日本語文化専攻

上代・中古・中世・近世・近代・漢文学（日本文学の分野）、及び日本語学、出版論、著作権論、書道（日本語文化の分野）などの科目をそろえる。日本文学はもとより、広く日本語文化に関連した研究に対応できる陣容を整えている。

歴史文化専攻

以下の7つの特色を有する。

①古代史から近現代史まで切れ目のない科目の配置、②近現代史科目を厚く配置、③日本及び地域社会の伝統と文化に関する科目を配置（民俗学・日本思想史）、④本学が立地する東海地域の特性を重視、⑤国際的な視野の醸成に配慮し、国際関係史科目を配置、⑥修了後の進路に配慮し、歴史資料（archives）の保存と活用に関する科目を配置、⑦歴史研究と歴史教育の連携に関する科目を配置

3. 施設・設備

本学は名古屋・豊田両キャンパスの図書館に約100万冊の図書を蔵している。そのうち文学部・同研究科のある名古屋キャンパスにおける文学・芸術・語学・歴史の図書は17万冊である。大学院増設以来、図書の充実につとめ、特に明治以前の写本・刊本の蒐集では中部地区屈指の蔵書となっている。貴重本や叢書などを写したマイクロ・フィルムも市販されているものは殆ど揃え、院生の要望にこたえている。

4. 資格

日本文学・日本語文化専攻

博士前期（修士）課程において、高等学校及び中学校国語科、高等学校書道科の専修免許状を取得することができる。高等学校及び中学校国語科、高等学校書道科の1種免許状を取得している者が、日本文学・日本語文化専攻博士前期（修士）課程の修了要件を満たし、かつ、専攻が指定する科目の単位を24単位以上修得することで、修了と同時に専修免許状を受け取ることができる（ただし、専修免許状の取得申請が必要）。

歴史文化専攻

高等学校地理歴史科及び中学校社会科の専修免許状を取得することができる。高等学校地理歴史科及び中学校社会科の1種免許状を取得している者が、歴史文化専攻修士課程の修了要件を満たし、かつ、専攻が指定する科目の単位を24単位以上修得することで、修了と同時に専修免許状を受け取ることができる（ただし、専修免許状の取得申請が必要）。

5. 課程修了後の進路

日本文学・日本語文化専攻

教育関連分野や公務員、さらに文書作成を中心としたサービス業等への進路が期待できる。

専門職としては、博士前期（修士）課程修了者においては、中学校・高等学校の国語科教員や図書館司書等があり、特に学校教員はこれまでも多く輩出しており、これからも期待できる。また、正確で美しい日本語運用能力（読み、書

き、話す)を活用し、出版やマスコミ、さらには編集や広告、放送等の分野でも活躍が期待できる。博士後期課程修了者においては、大学教員、短期大学教員、大学研究所員等が想定され、留学生の修了者の中には、母国の大学教員になった者もいる。

歴史文化専攻

日本の歴史文化に関する高度にして幅広い知識、地域への深い理解を糧に、伝統文化を活かした企画や事業、歴史の知識を広める業務に従事する人材として、コンサルタント会社、観光関連会社、教育関連会社などの各種サービス業、博物館関連業界、公務員などの進路が期待できる。

専門職としては、中学校社会科・高等学校地理歴史科教員や図書館司書、博物館・資料館・文書館の学芸員などが期待できる。また、歴史資料を読み解くことで得た、豊富な語彙力に基づく日本語運用能力を活かし、出版やマスコミ、編集などの分野でも活躍が期待できる。

6. 院生による研究活動

大学院と学部には、共通の研究組織として「中京大学文学会」があり、毎年、内外の研究者に呼びかけて大会を開いている。なかでも秋の大会では、各分野で活躍する方々に講演をお願いするとともに、さらに本専攻所属の院生たちも、自分の研究成果を発表している。院生たちにとっては大変な試練だが、この発表によって研究への自覚が生じ、研究者としての自己を点検することにもなる。大会の参加者には、学外からの研究者も多く、中部地区の学会として広く認知されている。また30年以上、学会誌を刊行して研究成果を公表し、学界に貢献しつづけている。

本学は、よりよい教育研究のため、各研究科・専攻の「人材養成の目的」を定めています。

●文学研究科の「人材の養成に関する目的」

文学研究科

日本の文学や言語、歴史に関する広範な専門知識を身につけ、それを高度情報社会のなかで適切に活用し、生起する諸問題に実証的に対処することのできる、高度専門職業人及び研究者を養成する。また職業人、研究者として高い倫理観をもち、社会生活において適切かつ模範的な言動がとれる人材を養成する。

日本文学・日本語文化専攻

- (1) 日本文学・日本語文化専攻博士前期課程は、長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移り行く流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を追究している。こうした追究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代の者に伝えてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、上代から現代までの日本文学、日本語、漢文学、書道など多様な方面への専門的研究をおこない、日本語や日本文学の研究者や教員、さらには豊かな日本語や文学的教養を有した人材の社会への輩出を図る。
- (2) 日本文学・日本語文化専攻博士後期課程は、日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながらその普遍的な意義を追究してゆく。こうした追究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置付けてゆくことを目的とする。その目的を達成するため、専攻する各分野の文献や原典を正確に解析する高度な能力を錬磨してゆき、広範な視野から日本の文学や言語の価値を判断しうる研究者等の社会への輩出を図る。

歴史文化専攻

歴史文化専攻修士課程は、日本の歴史文化に関する広範な専門知識及び史資料の読解力を有し、その知識・能力をもって史資料や史跡を今の時代に保存・管理・活用する者として、あるいは広く歴史や伝統を踏まえた地域社会の発展を推進する者として、博物館その他の社会教育、自治体史編纂、まちづくり、学校教育、出版、観光などの場において、指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

9. 教員組織

文学研究科長 福井佳夫

日本文学・日本語文化専攻

| | | | |
|------------------|-------|-------------|--------------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 専任教授 | 佐藤隆★ | 古典文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 徳竹由明 | 古典文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 柳沢昌紀 | 古典文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 酒井敏 | 近代文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 後藤英次 | 日本語学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 浅岡邦雄★ | 日本語文化演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 甘露純規 | 日本語文化演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 大池茂樹 | 書道演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 福井佳夫 | 漢文学演習・研究指導 |
| | 専任准教授 | 宮内佐夜香 | 日本語文化演習・研究指導 |
| 専任准教授 | 勝亦志織 | 古典文学演習・研究指導 | |

| | | | |
|--------|------|-------|--------------|
| 博士後期課程 | 専任教授 | 佐藤隆★ | 古典文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 柳沢昌紀 | 古典文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 酒井敏 | 近代文学演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 浅岡邦雄★ | 日本語文化演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 甘露純規 | 日本語文化演習・研究指導 |
| | 専任教授 | 福井佳夫 | 漢文学演習・研究指導 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

歴史文化専攻

| | | | |
|------|-------|--------|-----------------------|
| 修士課程 | 専任教授 | 村岡幹生 | 日本中世史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任教授 | 播磨良紀 | 戦国・織豊期史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任教授 | 小川和也 | 日本思想史史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任教授 | 白根孝胤 | 日本近世史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任准教授 | 中元崇智 | 日本近現代史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任准教授 | 小原嘉記 | 日本古代史料研究・日本歴史文化特殊研究 |
| | 専任准教授 | 小早川道子★ | 地域社会の伝統と文化資料研究 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2018年4月開設時に予定されている教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

日本文学・日本語文化専攻

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

SATO, Takashi

佐藤 隆

上代文学・万葉集
Japanese Ancient Literature
(Man'yo-shu)

日本文学の中の上代文学は、韻文学と散文学とに大別できるが、専攻分野としては、特に韻文学の代表である『万葉集』を中心とする。現在力を注いでいるのは、後期万葉の代表歌人である大伴家持や大伴坂上郎女についてである。奈良時代には確立しはじめた歌学についても興味を持って研究している。

(参考)『大伴家持作品論説』(おうふう)、『大伴家持作品研究』(おうふう)、『東海の万葉歌』(おうふう)

TOKUTAKE, Yoshiaki

徳竹 由明

日本中世文学
Japanese Middle period
Literature

専攻分野は、もともとは『平家物語』、『義経記』等の軍記物語及び伝承文芸であったが、最近はお伽草子や寺社縁起類にも興味を持っている。特定のテキストを読み込むというよりは、ある人物や寺社等に纏わる伝承が、時間の経過や取り巻く環境の変化によってどのように変容していくかを考察することに興味がある。

YANAGISAWA, Masaki

柳沢 昌紀

近世文学
Japanese Edo period Literature

専攻分野は、近世文学及び板本書誌学。特に仮名草子や『信長記』『太閤記』等の近世軍書を中心に伝本調査を行いつつ、個々の作品の読みの可能性を探っている。また、近世前期の出版書肆の動向にも関心を持ち、書物が生産され、流通してゆく過程の諸相を明らかにすべく、研究を進めている。

(参考)『仮名草子集成』40巻, 43巻, 45巻, 49巻 (いずれも共編)
『江戸時代初期出版年表』(共編)

SAKAI, Satoshi

酒井 敏

近代文学
Modern Literature

もともとの専攻分野は、森鷗外を中心とする明治・大正時代の文学の研究であり、今日までの研究業績の中核をなす。現在では、新美南吉を中心とする近現代の児童文学・文化、メディア研究なども含め、漫画やライトノベルにも及ぶ近現代の文学・文化を幅広く研究対象としている。

(参考)『森鷗外とその文学への道標』(新典社)、『鷗外近代小説集』第6巻(共編・岩波書店)、『森鷗外と美術』(共編・双文社、編集長)、『〈東海〉を読む』(共編・風媒社、編集長)、『メディアの中の子ども』(共編・勁草書房) 他

GOTO, Eiji

後藤 英次

日本語学
Japanese Philology

専攻分野は日本語学(日本語史)。主に中古～近世の変体漢文(公家日記等に見られるもの。和化漢文、記録体ともいう)の語彙・語法・文体について調査・研究を進めている。変体漢文の語彙・語法の共時的変種、通時的変化、また、その和漢混淆文(軍記や説話等)への影響の解明等が、目下の課題である。

ASAOKA, Kunio

浅岡 邦雄

出版論
Study of Publishing

近代日本の出版史・出版文化全般を研究対象としている。最近では、著者と出版社との経済・権利関係の諸相について、及び出版法制とそれに関連する検閲の動向について研究を進めている。出版物が読者に流通するまでの過程における諸問題を、実証的に解明することをめざしている。

(参考)『明治の出版文化』(臨川書店)2002年、『日本出版関係書目—1868-1996』(日本エディタースクール出版部)2003年、『〈著者〉の出版史』(森話社)2009年

KANRO, Junki

甘露 純規

著作権論
Study of Copyright and
Plagiarism

著作権と盗作事件について、文化的背景を参照しながら研究を行なっている。関連する研究領域は、文学研究・出版研究・法制史研究と多岐にわたる。

(参考)『剽窃の文学史』(森話社)2011年

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

OIKE, Shigeki

大池茂樹
書道
Calligraphy

漢字書道を専門としているが、仮名についても研究する。実技実践を踏まえた上で、書道の歴史・理論及びその周辺の学にも及びたい。また、書道教育についても考える。(書道専修免許状取得予定者は履修してほしい。)

FUKUI, Yoshio

福井佳夫
漢文学
Chinese Literature

中国六朝期の文学を研究しているが、この時期の文学が日本の上代・中古に強い影響を与えた関係で、日中の文学交流にも関心を寄せている。具体的にいえば六朝の四六駢儷文とそれを模した日本上代の漢文学、さらに六朝志怪とそれを模した日本靈異記などの文学交流である。最近では、唐代伝奇小説の『広異記』を院生と一緒に講読しながら、この書が日本へ与えた影響を考察している。

(参考)『六朝美文学序説』、『六朝の遊戯文学』、『六朝文体論』、『六朝文評価の研究』(いずれも汲古書院)

MIYAUCHI, Sayaka

宮内佐夜香
現代日本語学
Present-day Japanese
Linguistics

日本語の接続表現が主な研究対象。特に逆接表現形式の通時的变化について、形態、機能、文体等さまざまな観点から記述し、実証的な解明を目指す。近世以降の文献(現代も含む)を調査資料としており、近年整備されつつある日本語の言語コーパス(電子的な日本語データベース)を利用して、接続表現形式の実態の計量的な調査も進めている。

KATSUMATA, Shiori

勝亦志織
平安文学
Japanese Heian Literature

平安時代から鎌倉時代までの王朝物語文学が研究対象である。平安時代に多く作成された物語は様々な変容をとげながら中世においても作り続けられる。その物語史の変遷を女性や語りといった視点から考察を進めている。現在では特に『源氏物語』以前の作品がどのように『源氏物語』の達成を促したのかという点に興味があり、950年代以降に成立した歌物語と勅撰集・私家集の関係がどのように長編物語に影響しているのかについて研究を進めている。

(参考)『物語の〈皇女〉—もうひとつの王朝物語史—』(笠間書院)

歴史文化専攻

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

MURAOKA, Mikio

村岡幹生
日本中世史
Japan Medieval History

日本の中世後期(室町・戦国期)が専門で、近年はとくに、松平氏の研究を核に、戦国期三河・尾張の政治史を研究している。また、愛知県下各自治体史編纂事業とのかかわりのなかで、史料の発掘・調査に従事することが多くなった。わけでも、従来、「雑史」などと分類されて研究の進んでいなかった、江戸時代に作成された三河・尾張の軍記・史書・系譜などを担当する機会が多く、それらの書誌学的考察及び史料としての価値を研究している。

(参考)『新編安城市史』(安城市、2007年)、『家康研究の最前線』(洋泉社、2016年)などを共同執筆。

HARIMA, Yoshinori

播磨良紀
日本中・近世史
Japan Medieval and
Early Modern History

日本中世・近世の移行期の政治史・地域史研究、及び食文化史を研究対象としている。特に、移行期に登場した織田・豊臣政権を対象とした研究を行い、その政治動向などを探究し、また中央政権の動向が、地域にいかん影響を及ぼすかなど、地域における近世社会成立を考える。近年では、豊臣政権の政治構造、特に秀吉独裁政権とそれを支えた彼の一族の関係を研究している。

(参考)「豊臣政権と豊臣秀長」(『織豊期の政治構造』吉川弘文館、2000年)、「織田信長の長島一向一揆攻めと「根切」」(『戦国期の真宗と一向一揆』(吉川弘文館、2010年))、「戦国期伊勢・尾張国境地域の歴史的展開」(『年報中世史研究』38号、2013年)など。

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

OGAWA, Kazunari

小川和也

日本思想史

Japanese Intellectual History

①儒学及び近世の領主・政治思想を中心とした研究。②書物・出版・読書の視点から「牧民」思想を探る研究。③越後長岡藩をフィールドにした藩学と藩政改革の研究。④大佛次郎・鞍馬天狗を対象とした「戦争と知識人」の研究。

(参考)『儒学殺人事件—堀田正俊と徳川綱吉』(講談社、2014年)、『牧民の思想—江戸の治者意識』(平凡社、2008年)、『文武の藩儒者 秋山景山』(角川学芸出版、2011年)、『鞍馬天狗とは何者か—大佛次郎の戦中と戦後』(藤原書店、2006年)、『大佛次郎の「大東亜戦争」』(講談社、2009年)など。

SHIRANE, Koin

白根孝胤

日本近世史

Japan Early Modern History

日本近世において、長期にわたる平和な時代を築いた幕藩制国家の構造について、とくに徳川将軍家と大名家との関係(幕藩関係)や尾張藩政史の展開をテーマに研究を進めている。また、図譜や写真史料の分析にもとづく将軍・大名間の儀礼や交流の様相など、文化史・社会史の側面からも研究に取り組んでいる。

(参考)『徳川幕臣人名辞典』(東京堂出版、2010年、共編)、「将軍養女をめぐる尾張徳川家と幕藩関係」(岸野俊彦編『尾張藩社会の総合研究』第六篇(清文堂出版、2015年)など。

NAKAMOTO, Takatoshi

中元崇智

日本近現代史

Japan Modern History

専門は日本近現代史、とりわけ明治期の自由民権運動と、それをリードした板垣退助ら自由党「土佐派」の研究をしている。近年は、板垣退助・西郷隆盛像など、ある人物がどのように伝説化されたのか、そして、その歴史観がどのように定着したのかを政治的意図を含めて解明することを目指している。

(参考)「『土佐派』の『明治維新観』形成と『自由党史』」(『明治維新史研究』6号、2009年)、「板垣退助岐阜遭難事件の伝説化」(『日本史研究』629号、2015年)、「光永眠雷『西郷隆盛肖像』の成立」(『中京大学文学会論叢』1号、2015年)、「板垣退助の天皇・華族観と政党指導の展開」(『日本史研究』642号、2016年)など。

KOHARA, Yoshiki

小原嘉記

日本古代・中世史

Japan Ancient Times and Medieval History

9世紀～14世紀の地方行政機構と地方支配制度の研究を行っている。具体的には律令制下の国司・郡司といった地方行政官人や収取制度などを考察し、その変容過程の中から中世荘園制の形成を見通すことを試みている。また近年は東大寺大勧進を中心に、南都寺院造営事業や禅律僧の研究も手掛けており、宗教史の分野にも関心をもっている。

(参考)「平安後期の官物と収取機構」(『日本史研究』641号、2016年)、「鎌倉初期の東大寺再建と栄西」(『論集中世東大寺の華嚴世界』東大寺、2014年)など。

KOBAYAKAWA, Michiko

小早川道子

日本民俗学

Japan Folklore

愛知県の年中行事や食生活に関する民俗を主な研究対象としている。近年は子供が関わる行事について、特に日進市周辺の「お月見どろぼう」や、西三河平野部のボラ利用の習俗などに注目している。古老からの聞き取り等、フィールドワークをもとにした従来の民俗学的手法と同時に、古文書など文献資料を使った民俗研究も模索している。

(参考)『日進市史 民俗編』(日進市、2015年)、『新修豊田市史 別編 民俗2 平地のくらし』(豊田市、2015年)など。

国際英語学研究科

国際英語学専攻【修士課程】

英米文化学専攻【修士課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。
- 国際英語学研究科国際英語学専攻及び英米文化学専攻は2018年度秋学期入学試験を実施します。2018年度秋学期入学試験要項は2018年4月に本学公式ホームページ上で公表します。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 入学定員* |
|-------|-------|----|------|-------|
| 国際英語学 | 国際英語学 | 修士 | 一般選抜 | 5名 |
| | 英米文化学 | 修士 | 一般選抜 | 3名 |

※入学定員は2018年度秋学期入学試験の定員との合算人数を示す。

2. 出願資格

| 試験区分 | 出願資格 |
|---|--|
| <p>一般選抜</p> <p>国際英語学専攻</p> <p>英米文化学専攻</p> | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者</p> <p>②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者</p> <p>③外国において学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者</p> <p>⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>⑧文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】</p> <p>出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> <p>対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※1} | 試験日 | 可否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※2} | 入学辞退 手続締切日 |
|------|-------|----|------|-------------------------------|-------------------|--------------------|---------------------------------|-------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | | | 消印有効 | |
| 前期日程 | 国際英語学 | 修士 | 一般 | 2017年 8月30日(水) | 2017年 9月30日(土) | 2017年 10月10日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月17日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 英米文化学 | | | 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | | | | |
| 後期日程 | 国際英語学 | 修士 | 一般 | 2018年 1月29日(月) | 2018年 2月24日(土) | 2018年 3月6日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | 英米文化学 | | | 2018年 2月8日(木) | | | | |

※1…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※2…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

4. 選抜方法

①当日の試験、②出身大学・大学院の成績、③その他出願書類によって行います。

5. 試験科目・時間等

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-------|------|-------------------------|--|
| 国際英語学 | 一般 | 10：00 } 12：00 | 国際英語学 ・英語学、社会言語学、外国語教育学、地域研究等の基本的知識の有無をみる。 ・辞書等の持込は不可。 |
| | | 13：30 } 15：00 | 英語 ・辞書等の持込は不可。 ・TOEFLスコア88点（iBT基準）以上又はTOEIC L&Rスコア800点以上（IPテスト可）又は英検準1級以上の者は英語の試験を免除。 |
| | | 15：30 [※] } | 口頭試問 ・志望領域の関心と学識、入学後の研究計画等について試問を行う。 |
| 英米文化学 | 一般 | 10：00 } 12：00 | 英語 ・電子辞書を含め、辞書持込可。 ・TOEFLスコア173点（CBT基準）／500点（PBT基準）／61点（iBT基準）以上又はTOEIC L&Rスコア700点以上（IPテスト可）又は英検準1級以上の者は英語の試験を免除。 |
| | | 13：30 [※] } | 口頭試問 |

※口頭試問の試験時間は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

名古屋キャンパス14号館1階ロビー 9:30集合

〈英米文化学専攻で英語の試験を免除する場合のみ〉

名古屋キャンパス14号館1階ロビー 13:00集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 国際英語学専攻 | 英米文化学専攻 |
|--------------------------------|---|---|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 | |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 | |
| 志願書 【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 巻末—国際英語学・志願書を使用すること。 ② 「卒業論文又は修士論文」欄には、論文の題目と概要を記入すること（400字程度、作成途中の場合は予定を記入）。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 ※卒業論文等を作成していない場合は、その旨を記入。 ③ 「入学後の研究計画案」欄には、研究計画や研究したい内容を記入すること（400字程度）。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 | <ul style="list-style-type: none"> ② 「卒業論文又は修士論文」欄には、論文の題目と概要を記入すること（400字程度、作成途中の場合は予定を記入）。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 ※卒業論文等を作成していない場合は、研究計画書を提出すること（後掲「卒業論文（修士論文）研究計画書」参照）。 |
| 卒業証明書 （含見込） | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 | |
| 成績証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 | |
| 検定試験証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「英語」試験の免除を希望する者は、各検定試験の成績証明書（コピー可）を提出すること。 | |
| 志望理由書 | <ul style="list-style-type: none"> ・当専攻を志望する理由を書面にまとめ、提出すること（書式自由、800字程度）。 | |
| 卒業論文 （修士論文） 研究計画書 | <ul style="list-style-type: none"> 次の①②のいずれかを提出すること。 ①卒業論文又は修士論文 ②研究計画書（書式自由、2,000字程度） ※いずれもコピー可。返却はしない。 | |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 | |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|---|
| 日本語の学力に関する書類 | <ul style="list-style-type: none"> 日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 |
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> 外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末—身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | <ul style="list-style-type: none"> 顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

国際英語学研究科 国際英語学専攻

修士課程

1. 沿革

1966年4月に設立された文学部英文学科を改組転換し、国際英語学部が国際英語学科と英米文化学科を擁して2002年4月に設立された。2006年3月にその第1期生を送り出すのを期に、文学研究科英文学専攻を改組転換し、国際英語学研究科を開設することとなった。本研究科は国際英語学専攻と英米文化学専攻の2専攻で構成されている。

2. 専門分野・教員組織

国際英語学専攻は、国際英語学、異文化間コミュニケーション、国際英語教育学の3つの主分野を核にして構成され、国際社会で活躍できる高度な知識と能力を有する人材の育成を目指している。教育組織は、専任教授・准教授・講師を中心に構成されていて、多彩な研究と総合的な研究指導を展開している。

3. 教育理念及びカリキュラム

英語が世界に広まり「国際共通語」とまで言われる現在、英語を使う非英語母語話者は英米などの母語話者の数倍に達し、様々な英語変種を生み出している。それに伴い、英米をはじめとする英語圏の英語も変種の一つと考える新しい国際英語の概念が注目されている。国際英語学専攻では、この国際英語論の更なる理解を深め、様々な分野で活躍できる人材の育成を基本的な目的としている。

教育課程は、「国際英語学特殊演習」の研究科目の他、「国際英語学」、「言語政策」、「国際英語教育学」、「異文化理解」、「社会言語学」などの多彩な研究教育科目で構成されている。

4. 施設・設備

中京大学図書館は、名古屋、豊田両キャンパスで約100万冊の図書を所蔵している。人文系の図書は約20万冊で、言語学、英語学、社会学関連の図書も充実しており、研究に資するようになっている。

5. 入学時期

春学期からだけでなく秋学期からの入学も可能である。学年暦がセメスター制であることや、外国の大学修了者の受験を考慮した入学システムを採用し、自己の研究計画に合った入学時期を選択することができるようになっている。

6. 院生の研究活動

大学院生は、それぞれの専攻とする分野を定めて研究を行い、機会を得てその成果を発表することが期待されている。特に国際英語学専攻では、国際英語学科の組織をも含む「中京大学国際英語学会」と称する研究機関を組織していて、研究発表の機会を定期的に設けている。また、院生の学術論文の公刊も積極的に勧めている。更に、世界国際英語学会、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会等の学外の学会に所属し、積極的な学会活動を行うよう奨励している。

7. 課程修了後の進路

高度な英語力を有する国際人、企業人、教育従事者を社会に送り出すことを想定している。具体的な進路としては、国連機関、多国籍企業、NGO、NPO等の外務省外郭団体、観光・旅行業関係、日本語教師、海外の日本人学校教員、外国人研修生指導員などを想定している。また、英語専修免許の資格を取得させ、国際英語の視点に立った英語教育者を育成し、さらに現在既に英語教育に携わっている教師を再研修し、現場に送り出すことも想定している。加えて、国際英語学における研究従事者の育成も視野に入れ、博士課程への進学者の研究指導も考慮している。

国際英語学研究科 英米文化学専攻

修士課程

1. 沿革

2002年4月に文学部英文学科を改組転換して発足した国際英語学部英米文化学科が、2005年度に完成年度を迎えるのを期に、文学研究科英文学専攻に代わり、2006年4月に、英米文化に関する高度専門職業人・企業人、研究員育成の高等教育研究組織として国際英語学研究科英米文化学専攻を設置した。

2. 専門分野・教員組織

組織は、イギリス文化、北米文化等を対象とする地域文化専攻、演劇文化、文化批評等を対象の表象文化専攻、言語デザイン・データ処理等を領域とする言語学専攻、アカデミック・ライティング等の高度英語能力養成を専門とするものを含めた専任教員から構成されていて、英米諸国のみならず環太平洋英語圏諸国における文化、言語・コミュニケーション、地域について多彩な研究、総合的教育・研究指導が行われる。

3. カリキュラム

教育課程は、専門教育科目と研究科目の二領域から構成され、専門教育科目では、基幹科目を7、地域文化科目を6、表象文化科目を4、言語文化科目を6それぞれ開設し、研究科目では、「特殊演習」科目を開設している。二領域は有機的に融合し、論文指導へ発展するよう編成されている。

本専攻のカリキュラムでは、狭義の英米文化研究のみならず、同時に実践的英語能力の向上も目指している。英語圏の地域研究、演劇や批評などの研究や、英米の言語にかかわるさまざまな科目群を開講している。これに加え、英語教育にも力を入れている。文化研究コースでは、文字媒体の他に視聴覚媒体を通して英米文化を多面的に研究することを目指している。また、言語研究コースでは、電子化された膨大な言語資料（BNCなどのコーパス）を駆使して、英語の語法・文法研究や言語使用域の観点からの社会言語学的研究を行う。

当カリキュラムでは、海外グラデュエート・ディプロマ・コース等海外留学を促進するため、高度英語能力向上を図る諸科目を配置したり、海外留学で取得した単位を読み替える（10単位まで）制度を設置している。

4. 施設・設備

国際英語学研究科英米文化学専攻は、文学研究科英文学専攻の所蔵資料の多くを引き継いでいることもあって、特にイギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、スコットランド、アイルランドの文化・文学に関する研究書、雑誌の蔵書が稀覯本を含め極めて豊富である。とりわけ演劇領域におけるシェイクスピアに関する蔵書は、テキスト、研究書、雑誌、関連文化資料等広範囲に及んでいる。

また、19世紀から20世紀アメリカのダイム・ノベルや新聞資料などのマイクロフィッシュも豊富に所蔵されている。

こうした研究資料の他に、英米文化圏で発行された多くの映画資料など、多様な視聴覚資料も整備され、さらに、言語研究及び実践的英語能力養成のためのコーパスも利用可能である。また、研究教育サポートのために多彩なデータベースも整備されており、多数のコンピュータの配備、インターネットの利用整備とともに、教育、研究の便宜が多角的に計られている。文化研究の諸分野をカバーするこれらのデータベースソフト以外にも、実際的な英語力の練成を目指す学習者のためには、TOEICなど英語資格試験対策のためのオンライン学習システムも整備され、英語運用能力拡充のための対策も整っている。

5. 入学時期

春学期からだけでなく秋学期からの入学も可能である。学年暦がセメスター制であることや、外国の大学修了者の受験を考慮した入学システムを採用し、自己の研究計画に合った入学時期を選択することができるようになっている。

6. 院生による研究活動

院生は、各自の専攻とする分野に従って独自の研究を行い、その成果を適宜公表する。国際英語学部英米文化学科を含めた「中京大学英米文化・文学会」に参加して、口頭発表を行ったり、学会機関誌『中京英文学』に投稿することが奨励される。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●国際英語学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 国際英語学専攻修士課程は、国際英語の視点に立ち、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野をもつ英語教育者を養成すること、及び、そのような英語教育者の養成に自ら貢献しうる国際英語学研究者を育てることを目的とする。また、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。
- (2) 英米文化学専攻修士課程は、国際英語の観点も視野に入れた高いコミュニケーション能力を有するとともに英米文化に関する専門性を持った高度専門職業人・企業人、研究員を養成することを目的とする。文化研究コースでは、旧来の英文学専攻に見られる文学偏重を排し、英米の音楽・映画等の現代文化も題材にして多面的な英米文化研究を目指す。また、言語研究コースでは、実際の言語運用の側面にも配慮した研究・教育を行う。こうした専門教育に加えて、実践的英語運用能力の向上を配慮した科目を配することで高度な専門知識を備えた国際人の養成を目的とする。

9. 教員組織

国際英語学研究科長 クリストファー・J・アームストロング

国際英語学専攻

| | | | |
|------|-------|---------------|---------------|
| 修士課程 | 専任教授 | ジェームズ・ダンジェロ | 国際英語学特論 |
| | 〃 | 榎木 蘭 鉄 也 | 言語政策特論 |
| | 〃 | 都 築 雅 子 | 国際英語学特殊演習 |
| | 〃 准教授 | リチャード・モリソン★ | 英語プレゼンテーション特論 |
| | 〃 講師 | 尾 和 潤 美★ | 異文化理解特論 |
| | 〃 | 松 元 洋 介★ | 英語論文作成法特論 |
| | 〃 | メリサンダ・ベルコウィッツ | 国際関係学特論 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

英米文化学専攻

| | | | |
|------|-------|--------------------|-------------|
| 修士課程 | 専任教授 | 細 川 眞 | 演劇文化特論 |
| | 〃 | 岩 田 託 子 | イギリス文化研究特論 |
| | 〃 | 足 立 公 也 | 言語システム研究特論 |
| | 〃 | クリストファー・J・アームストロング | 北アメリカ文化研究特論 |
| | 〃 | 森 有 礼 | 英米文化学特論 |
| | 〃 | 中 川 直 志 | 英米文化学特論 |
| | 〃 准教授 | 杉 浦 清 文★ | 比較地域文化特論 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

国際英語学専攻

| 教員名 及び 専攻分野 | 専攻分野の内容 |
|--|---|
| James D'ANGELO ジェームズ・ダンジェロ 応用言語学 Applied Linguistics, World Englishes | James D'Angelo's research interests focus on a world-Englishes-informed approach to defining and codifying an Educated Variety of Japanese English, and of identifying pedagogical practices — such as interdisciplinary studies — to help build such a variety. His most recent research is in the area of EIL and English as a lingua franca. He is editor-in-chief of the journal <i>Asian Englishes</i> . (参考) Curriculum and world Englishes: Additive language learning as SLA paradigm, in Low, E.L. & A. Hashim, <i>English in Southeast Asia</i> . John Benjamins. (2012) |
| ENOKIZONO Tetsuya 榎木 蘭 鉄也 社会言語学 Sociolinguistics | インドなど南アジアの①英語変種の記述、②言語政策、③言語選択、④教育制度（特に言語教育）の研究をしている。また、言語や文化の接触と伝播、英語・インド諸語・日本語間の語句の借用関係、多言語学習法等にも関心を持つ。 (参考) 『アジア英語辞典』三省堂（共著）、『事典アジアの英語事情』大修館書店（共著）、『世界の言語政策：第二集』くろしお出版（共著） |
| TSUZUKI Masako 都 築 雅 子 語彙意味論・コーパス言語学 Lexical Semantics and Corpus Linguistics | 語彙意味論・文法研究及び日本人の話す英語のインテリジェビリティに関する研究を行っている。英語の語彙や構文に関しては、現代英語の電子コーパス（実際の書き言葉や話し言葉をコンピュータ上で利用可能にしたテキストの集合体）を利用し、最近では、コーパスの英語学習や教育への活用にも興味がある。 (参考) 『認知文法論Ⅱ』大修館書店（共著） |
| Richard MORRISON リチャード・モリソン 英語教育学 Teaching English as a Foreign Language | Richard Morrison's research interests are based around curriculum development and reform. He works closely with teachers in finding the strengths and weaknesses of Japanese English language learners in the university setting, with regards to reading, listening, and speaking. His work centers on improving the English language learning opportunities in the classroom. His classes will be designed to learn about the best ways to promote quality English education in the Japanese English language classroom. |
| OWA Masumi 尾 和 潤 美 国際協力／グローバル・ガバナンス研究 International Cooperation/ Global Governance | 国際関係学の観点から国際協力分野の政策研究や国際機関研究を行っている。最近では、国際協力分野におけるグローバル・ガバナンスの在り方、アフリカの開発課題、日本の援助政策など、現地調査も含めた研究を実施している。 (参考) ・The Changing Global Aid Architecture: An opportunity for Japan to play a proactive global role?, in Asplund, A. & Söderberg, M., <i>Japanese Development Cooperation: The Making of an Aid Architecture Pivoting to Asia</i> , Routledge (2016) ・Is OECD DAC's aid effectiveness agenda based on evidence?, <i>Journal of Development Effectiveness</i> , Vol. 7 Issue4 (2015) |
| MATSUMOTO Yosuke 松 元 洋 介 史的統語論 Historical Syntax | 生成文法理論に基づき、現代英語のみならず英語史における言語事実の研究を行っている。最近では英語史における前置詞残留の使用拡大、現代英語の不定詞関係節におけるWH句の生起制限を研究対象とする。 (参考) 『言語変化：動機とメカニズム』開拓社（共著） |
| Melisanda BERKOWITZ メリサンダ・ベルコウィッツ 文化人類学と国際協力 Anthropology and Development | 健康をウェルビーイングとし、その社会・政治的要因をグローバルな視野で探る。特に、国際協力実践において文化相対主義の視点から自然科学をどのように考え、応用するかをテーマに、文化人類学的なフィールド調査やアーカイブ調査を行う。フィールドは、バングラデシュ、フィリピン、日本で、最近では障がい者家族の権利、住民の組織化（community organizing）の事例研究も行う。 |

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

HOSOKAWA Makoto

細川 眞

イギリス文学
(シェイクスピア)
English Literature
(Shakespeare)

主として、イギリス・ルネサンス演劇のW・シェイクスピア研究。シェイクスピア演劇と伝統的文化の関連、現代文化批評との関連に関心が深い。また、イギリス近現代演劇のオスカー・ワイルドや、ハロルド・ピンター等も研究対象としている。
(参考)『虚と実の狭間で—シェイクスピアのディスガイズの系譜—』英宝社

IWATA Yoriko

岩田 託子

イギリス研究
British Literary and
Cultural Studies

文学・映画・美術・音楽のみならず、ファッションやインテリアや広告をもふくむイギリス文化を研究対象とする。法改正、経済状況の変化などを視野におさめる。目下は19世紀の啓蒙運動においてエンタテインメントの果たした役割を、禁酒運動における幻灯機上映に探っている。
(参考)『イギリス式結婚狂騒曲』中公新書、『英国レディになる方法』河出書房(共著)

ADACHI Kimiya

足立 公也

英語統語論
English Syntax

研究の中心分野は生成文法に基づく英語の分析であるが、最近では、比較統語論の観点から日英語の、特に動詞の類似性と相違点に強い関心をもっている。また、言語というシステムにおいてルールを操作するという意味で、「ことば遊び」も重要な研究テーマになりつつある。
(参考)『一歩進んだ英文法』大修館書店(共著)、『右方移動と焦点化』研究社出版(共著)

Christopher J. ARMSTRONG

クリストファー・アームストロング

カナダ地域研究
Canadian Literary and
Cultural Studies

I am interested in questions of Canadian identity in literature, film, and other media. A focus of much of my recent work is on regional and multicultural identities in Canada, considered in a historical and social perspective.
(参考)
“Postcolonial Historicity: Halifax, Region and Empire in *Barometer Rising* and *The Nymph and the Lamp*.” *Downtown Canada*. Eds. Justin Edwards and Doug Ivison. Toronto: U Press, forthcoming in 2005.
“Migrant Imaginings and Atlantic Canadian Regionalisms.” *Canadian Migration Patterns*. Ed. Barbara Messamore. U Ottawa Press, 2002.

MORI Arinori

森 有礼

アメリカ文学
(南部文学)
American Literature
(Studies of Southern Literature)

ウィリアム・フォークナーを中心として、19世紀以降の南部文学を、小説作品を中心に研究している。特に関心があるのは南部における人種、性差、階級のイデオロギー性と、南部の歴史表象との関連である。また、精神分析を初めとした文学批評理論にも関心があり、非文字媒体を含めた文化的諸現象を、こうした理論的側面から批評する。
(参考)『ウィリアム・フォークナーと老いの表象』松籟社(共著)

NAKAGAWA Naoshi

中川 直志

英語統語論
English Syntax

英語の節構造、とりわけ、tough 構文と呼ばれる、難易を表す形容詞が不定詞節を補節にとる構文について、生成文法理論に基づく共時的・通時の研究を行ってきた。近年では対象を、不定詞節を含む他の構文にまで拡大すると共に、それらの不定詞節に現れるとされる空演算子やPROなどの空範疇の認可についても研究している。
(参考)『統語論』開拓社(共著)、『文法変化と言語理論』開拓社(共著)

SUGIURA Kiyofumi

杉浦 清文

英語圏ポストコロニアル文学
Postcolonial Literature
in English

既成のイギリス文学・文化概念をポストコロニアル研究の視点から再考している。カリブ海地域の文学を研究対象としてきたが、さらに現在では、研究の射程を日本の引揚者の文学にまで押し広げ、かつての植民地主義の「後腐れ」を地球・惑星規模で検証している。
(参考)『ポストコロニアル文学の現在』晃洋書房(共著)、『英語文学の越境—ポストコロニアル／カルチュラル・スタディーズの視点から—』英宝社(共著)

心理学研究科

実験・応用心理学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

臨床・発達心理学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分 ^{※1} | 入学定員 |
|-----|----------|------------------------|-------------------------|------|
| 心理学 | 実験・応用心理学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人 ^{※2} 選抜 | 5名 |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 2名 |
| | 臨床・発達心理学 | 博士前期（修士） ^{※3} | 一般・社会人 ^{※2} 選抜 | 15名 |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 2名 |

※1…同一日程における複数の試験区分の併願不可。

※2…社会人選抜は心理学の基礎を学修済であり、現在、心理学関連の業務に就いている方へのリカレント教育を主眼にしている。

※3…臨床・発達心理学専攻博士前期（修士）課程は、入学後に発達心理学領域から臨床心理学領域へ所属を変更することはできない。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|---|---|
| <p>一般選抜</p> <p>実験・応用心理学専攻</p> <p>臨床・発達心理学専攻</p> | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者</p> <p>②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者</p> <p>③外国において学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者</p> <p>⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>⑧文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】</p> <p>出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> <p>対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| <p>社会人選抜</p> <p>実験・応用心理学専攻</p> <p>臨床・発達心理学専攻</p> | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・入学時において、大学卒業後7年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない。ただし、心理学の基礎を学修済であり、心理学関連の業務に就いている者が望ましい。</p> |

博士後期課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">一般選抜</p> <p>実験・応用心理学専攻</p> <p>臨床・発達心理学専攻</p> | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者</p> <p>②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者</p> <p>⑦文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】</p> <p>出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} | | 試験日 | 可否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} | | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|----------|--------------|--------------------|-----------|-------------------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------------|-------------------|---------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | 消印有効 | | | 消印有効 | 消印有効 | |
| 前期 日程 | 実験・応用 心理学 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 | 2017年 8月18日(金) | 2017年 9月9日(土) ・ 9月10日(日) | 2017年 9月20日(水) | 2017年 9月20日(水) | 【第一次入学手続】 2017年 9月27日(水) | 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 臨床・発達 心理学 | | | 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | | | | | | |
| 後期 日程 | 実験・応用 心理学 | 博士前期 (修士) | 一般 | 2018年 1月9日(火) | 2018年 2月1日(木) ・ 2月2日(金) | 2018年 2月13日(火) | 2018年 2月13日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) | |
| | 臨床・発達 心理学 | | | 2018年 1月17日(水) | | | | | | |
| | 実験・応用 心理学 | 博士後期 ^{※1} | 一般 | | | | | | | |
| | 臨床・発達 心理学 | | | | | | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願を受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
- 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
- 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

一般選抜——①当日の試験（英語・心理学・口頭試問）、②出身大学の成績、③卒業論文又はこれに代わる研究成果、④研究計画 によって行います。

社会人選抜——①当日の試験（英語・小論文・口頭試問）、②出身大学の成績、③卒業論文又はこれに代わる研究成果（該当するものがない場合は除外）、④研究計画 によって行います。

博士後期課程

一般選抜——①当日の試験（英語・課題論述・口頭試問）、②出身大学院の成績、③修士論文又はこれに代わる研究成果、④研究計画によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | | 試験科目 |
|----------------------|------|------|-------------------------|---|
| 実験・応用心理学 臨床・発達心理学 | 一般 | 1日目 | 10:00 } 12:00 | 英語 ・心理学英語文献の読解力を試すもの。 ・英和辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | | 13:30 } 15:30 | 心理学 ・研究科共通問題と領域固有問題により構成。研究科共通問題は心理学全般にわたる基本的学識、領域固有問題は各専門領域に特化した基礎知識を試すもの。 |
| | | 2日目 | 10:00 [*] } | 口頭試問 ・志望領域への関心と学識、入学後の研究計画等について、志望領域の教員が中心になって試問を行う。 |
| | 社会人 | 1日目 | 10:00 } 12:00 | 英語 ・英語文献の読解力を試すもの。 ・英和辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | | 13:30 } 15:30 | 小論文 ・志望領域に関する課題について専門的知識や論述能力を試すもの。 |
| | | 2日目 | 10:00 [*] } | 口頭試問 ・志望領域への関心と学識、入学後の研究計画等について、志望領域の教員が中心になって試問を行う。 |

※…口頭試問の開始時刻は、受験者数により9:00～に変更になる場合がある。なお、口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる（詳細は1日目に通知）。

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | | 試験科目 |
|----------------------|------|-------------|--|--|
| 実験・応用心理学 臨床・発達心理学 | 一般 | 1日目 | 10:00 } | 英語 ・課題研究を行う上で必要な専門書（英語）の読解力を試すもの。 ・英和辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | | 12:00 } | |
| | | 2日目 | 13:30 } | 課題論述 ・心理学的問題を総括的に論じる力量を評価するもの。 |
| | | | 15:30 } | |
| | | 10:00* } | 口頭試問 ・自身の研究課題に即して今後の展開を中心に試問を行う。 | |

※…口頭試問の開始時刻は、受験者数により9:00～に変更になる場合がある。なお、口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる（詳細は1日目に通知）。

6. 試験当日集合場所・時間

1日目 — 名古屋キャンパス 3号館別館 5階 大学院研修室 9:30集合
2日目 — 1日目に通知

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|---|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ① 巻末一心理学・志願書 を使用すること。 ② 「学部・大学院在学時指導教員名」欄は、フルネームを記入すること。 ③ 「入学後の研究計画案」欄は、博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 ※博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため入学後の研究計画案は記入不要。 |
| 卒業証明書 (含見込) | <p>〈博士前期（修士）課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------------------|---|
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | 〈博士後期課程志願者のみ〉 ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | 〈博士前期（修士）課程志願者〉 ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 〈博士後期課程志願者〉 ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 論文 | 〈博士前期（修士）課程志願者〉 一般選抜志願者 ①卒業論文又はこれに代わる論文（必要に応じて図や表を含めてよい）を提出すること。 ②提出論文には別紙にて要約（1,500字程度）を添付すること。 ③前期日程志願者のうち、2018年3月卒業見込で卒業論文未完の者は、別紙にてその論文の概要（2,000字程度）を提出すること。 ④卒業論文を作成していない場合は、別紙にその旨を記入し提出すること。 ※上記①～④いずれもコピー可。返却はしない。 社会人選抜志願者 ・参考資料として、卒業論文又は大学卒業後に作成した論文等があれば、その要約（1,500字程度）を提出すること。 ※コピー可。返却はしない。 〈博士後期課程志願者〉 次の①～③を提出すること（②は該当するものがあれば提出）。 ①修士論文又はこれに代わる業績（修士論文作成中の場合は修士論文要旨、字数指定なし）。 ②学術雑誌・紀要・学会発表論文集等に掲載された業績。 ③上記の業績目録（別紙にて提出）。 ※上記①～③いずれもコピー可。返却はしない。 |
| 出願理由書 | 〈博士前期（修士）課程 社会人選抜志願者のみ〉 ・書式自由、1,500字程度。 |
| 研究計画書 | 〈博士後期課程志願者のみ〉 ・書式自由、4,000字程度。 |
| 戸籍抄本等 | 〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉 ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|---|
| 日本語の学力に関する書類 | ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 |
| 住民票 | ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得できます。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | ・ 巻末一身元保証書 を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

1. 経緯

本学では、1966（昭和41）年4月、文学部に心理学科が開設され、1971（昭和46）年に大学院文学研究科心理学専攻修士課程、1978（昭和53）年に同専攻博士後期課程が置かれて、心理学教育・研究体制が整備されました。そして、2000（平成12）年度の心理学部、2002（平成14）年度の心理学研究科の設置により、新たな展開の段階に入りました。

2. 組織

心理学研究科には、「実験・応用心理学」と「臨床・発達心理学」の2専攻があります。それぞれの専攻には、現代心理学の主要な領域である実験・応用・臨床・発達の4系を専攻する専任教員が配置され、さらに兼任講師及び兼任講師の協力をも得て、多岐にわたる教育研究活動が行われています。

3. 教育理念及びカリキュラム

誕生以来著しい発展を遂げてきた心理学は、現在では多くの領域に分化してそれぞれ固有の課題達成をめざしています。しかしながら、“心理”は複雑であり、その解明には異なる領域間の連携協力が欠かせませんし、それなくして心理学が真の学術的・社会的貢献を果たすことはできません。

本研究科の博士前期（修士）課程では、領域横断型の問題を扱う授業科目（研究科共通科目及び専攻共通科目）と各領域に特化した授業科目（領域固有科目）の双方を設け、カリキュラム構成をいっそう明確にしました。それによって、学問体系における心理学の位置づけやその特徴など現代心理学の全体像を把握するとともに、領域固有の理論や方法を理解して各自の課題研究を展開できるように指導が行われます。また、博士後期課程では、博士（心理学）学位取得に向けた課題研究指導を通じ、高度の専門性を具えた学術研究を担う人材の養成をめざしています。

本研究科は、明確な問題意識と旺盛な知的探究心をもつ人たちの入学を歓迎します。

4. 昼夜開講制

近年、現職者など社会人の大学院入学希望者が増えていますが、それに応じるために博士前期（修士）課程に限って社会人を受け入れ、特に有職者の履修を考慮して昼間（第1～5時限）と夜間（第6・7時限：18:20～21:30）の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施しています。

ただし、課程修了の要件に加えて臨床心理士の資格を得ようとする場合には、夜間開講の授業だけで所定の単位を充足することが困難です。さらに学外での臨床実習も昼間時間帯に行われ、毎週半日ないし全日をそれに費すことになる場合もあります。これらの点をあらかじめ承知しておいてください。

5. 修了要件

博士前期（修士）課程を修了するには、所定の単位を修得するとともに修士学位論文を提出して審査に合格することが、また博士後期課程を修了するには、所定の単位を修得するとともに博士学位論文を提出して審査に合格することが、それぞれ要件となります。

6. 入学定員及び志願状況

入学定員は、博士前期（修士）課程が20名、うち実験・応用心理学専攻5名、臨床・発達心理学専攻15名です。なお、各専攻の領域別定員については特に定めていませんが、臨床・発達心理学専攻（定員15名）については、臨床心理学領域10名、発達心理学領域5名を目途とします。また、博士後期課程は4名で、両専攻それぞれ2名となっています。

参考までに、最近数年間の入学試験出願者数は、一般選抜と社会人選抜を合わせて40～50名程度で、全国各地の大学等出身者が受験しています。

7. 課程修了後の進路

社会的状況の影響を受けて就職には厳しさがともないますが、過去の課程修了者はそれぞれの専攻に応じて社会の多方面で活躍しています。

なお、本研究科臨床・発達心理学専攻のうち臨床心理学領域は、日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士養成第一種指定を受けています。従って博士前期（修士）課程を修了した年に同協会が実施する臨床心理士の資格試験を受けることができます（専門性が特化されるため、入学後に発達心理学領域から臨床心理学領域へ所属を変更することはできません）。

8. 施設・設備

心理学部・心理学研究科は、名古屋市内の交通至便の地「八事」にある都市型の名古屋キャンパスに設置されています。大学院生の教育・研究用として、共同研究室、研修室、講義室、演習室、実験室・検査室、資料室・資料解析室が設けられており、附属図書館や情報センターなど全学施設も利用できます。

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●心理学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 実験・応用心理学専攻博士前期課程は、基本的心理過程に関する学識を有し、その応用により快適で安全な人間環境系の設計に寄与する専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。実験心理学領域では、実験・測定・解析等基礎と応用を繋ぐ多様な方法に精通した人材を養成し、応用心理学領域では、基礎研究の成果を踏まえ、現実的諸問題の解決を可能にする心理技術を修得し、社会的要請に応じて専門的実務に従事する人材を養成する。
- (2) 実験・応用心理学専攻博士後期課程は、人間の基本的な心理過程を解明するとともに、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。実験心理学領域では、人間の基本的心理過程を解明する先端的研究を推進する人材を養成し、応用心理学領域では、現実的諸問題の解決を可能にするための心理技術の高度化を行うとともに、社会的要請に応じて諸問題を解決する人材を養成する。
- (3) 臨床・発達心理学専攻博士前期課程は、心理学全般にわたる広い学識を有し、適応事象の基本を身につけた専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、心理的適応の困難な個人又は集団に対し適切な援助を行う人材を養成し、発達心理学領域では、重要な発達研究方法である観察・面接・質問紙調査等を駆使した行動の発達過程の追跡及び分析を通して、現実社会で生起する諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (4) 臨床・発達心理学専攻博士後期課程は、人間全般にわたる広い学識を有し、適応過程を解明するとともに、適切な援助を与えることのできる学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、適応、人格、心理査定等に関する基礎的研究及び臨床事象に関する研究に従事するとともに、適切な心理臨床を行う人材を養成し、発達心理学領域では、人間の生涯にわたる発達を体系的に解明するとともに、発達の諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。
- (5) 前各号の目的を達成するため、両専攻・各領域の連携及び協力を推進する。

9. 教員組織

心理学研究科長 向井希宏

| 博士前期課程 (修士課程) | 担当領域 | 職位 | 氏名 | 主要研究テーマ |
|------------------|-------|---------|-------------------|--------------------|
| | 実験心理学 | 教授 | 鬢 櫛 一 夫 | 視覚のメカニズム |
| | 〃 | 〃 | 近 藤 洋 史 | 知覚心理学、認知神経心理学 |
| | 〃 | 准教授 | 高 橋 康 介 | 認知心理学、認知科学、認知神経科学 |
| | 応用心理学 | 教授 | 向 井 希 宏 | 産業心理、技能習熟 |
| | 〃 | 〃 | 尾 入 正 哲 | 環境心理学、組織と安全 |
| | 〃 | 准教授 | 松 本 友 一 郎 | 組織心理学、職場の人間関係 |
| | 臨床心理学 | 教授 | 坂 井 誠 * | 行動療法、認知行動療法 |
| | 〃 | 〃 | 永 田 法 子 * | 学校教育臨床、心理療法 |
| | 〃 | 〃 | 神 谷 栄 治 * | 心理アセスメント、心理面接 |
| | 〃 | 〃 | 馬 場 史 津 * | 心理アセスメント、心理療法 |
| | 〃 | 准教授 | 明 翫 光 宜 * | 発達障害、心理アセスメント、心理療法 |
| | 発達心理学 | 教授 | 水 野 里 恵 | 発達心理学、気質、パーソナリティ |
| | 〃 | 〃 | 小 島 康 生 | 家族発達行動学 |
| 〃 | 准教授 | 川 島 大 輔 | 生涯発達心理学、死生学、自殺予防学 | |

| | | | | |
|--------|-------|-----|-------------|--------------------|
| 博士後期課程 | 実験心理学 | 教授 | 鬢 櫛 一 夫 | 視覚のメカニズム |
| | 〃 | 〃 | 近 藤 洋 史 | 知覚心理学、認知神経心理学 |
| | 〃 | 准教授 | 高 橋 康 介 ★ | 認知心理学、認知科学、認知神経科学 |
| | 応用心理学 | 教授 | 向 井 希 宏 | 産業心理、技能習熟 |
| | 〃 | 〃 | 尾 入 正 哲 | 環境心理学、組織と安全 |
| | 〃 | 准教授 | 松 本 友 一 郎 ★ | 組織心理学、職場の人間関係 |
| | 臨床心理学 | 教授 | 坂 井 誠 * | 行動療法、認知行動療法 |
| | 〃 | 〃 | 永 田 法 子 * | 学校教育臨床、心理療法 |
| | 〃 | 〃 | 神 谷 栄 治 * | 心理アセスメント、心理面接 |
| | 〃 | 〃 | 馬 場 史 津 * | 心理アセスメント、心理療法 |
| | 〃 | 准教授 | 明 翫 光 宜 ** | 発達障害、心理アセスメント、心理療法 |
| | 発達心理学 | 教授 | 水 野 里 恵 | 発達心理学、気質、パーソナリティ |
| | 〃 | 〃 | 小 島 康 生 | 家族発達行動学 |
| | 〃 | 准教授 | 川 島 大 輔 | 生涯発達心理学、死生学、自殺予防学 |

*…臨床心理士有資格者

★…指導教員として選択できません。

※上記は、2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

実験・応用心理学専攻

| 専攻領域 | 教員名 | 研究分野の内容 |
|-------|-------------------------|---|
| 実験心理学 | びん ぐし かず お 鬢 櫛 一 夫 | 知覚心理学を専攻。両眼立体視、仮現運動及び視野闘争について、対応問題という共通の問題構造をモデル化し、実験方法として共通に累積消失時間を測定することで、これらを効率的に検討している。視野闘争において従来考えられてこなかった刺激全体の大きさが対応づけられて視野闘争を起こしていることを示し、これに基づき両眼単一視については両眼対応と単眼系との相互作用を仮定し、両眼単一視に対する新たな理論化を試みている。 |
| | こん どう ひろ ひと 近 藤 洋 史 | 実験心理学を専攻。入力された視覚あるいは聴覚情報が意味のある知覚表象へと再構成される脳内処理過程を検討している。また、形成された知覚表象の操作に必要な記憶や注意といった認知機能にも興味を持っている。それらの心の働きの個人差を問題解明の糸口とし、心理実験、ニューロイメージング技術、遺伝子多型分析などを効果的に組み合わせた研究を展開している。自己意識の発生機序を明らかにすることが最終的な研究目標である。 |
| | たか はし こう すけ 高 橋 康 介 | 認知心理学を専攻。関連分野は認知神経科学、認知科学。心理学、脳神経科学の実験を通して心を生み出す脳の仕組みを探求している。現在は錯視や錯覚などの現象を利用して主観的な世界と物理的な世界をつなぐ脳の働きをモデル化することを目指し、文化人類学、霊長類学、計算機科学といった異分野研究者との学際的研究も進めている。研究のキーワード：錯視・アニメシー知覚・時間認知・意識・意思決定・選好形成・食認知・認知の異文化比較。 |
| 応用心理学 | むか い まれ ひろ 向 井 希 宏 | 産業心理学を専攻。技能習熟プロセスの解明を行い、動作時間分析法にもとづく詳細な作業行動分析によって、作業者の行動特性、作業への適応過程、動作錯誤の発生メカニズム、効果的な教示方法の検討などを進めるほか、最近では高齢者の作業特性・高齢ドライバーの運転行動特性の把握へと研究を展開している。 |
| | お いら まさ あき 尾 入 正 哲 | 産業心理学を専攻。特にヒューマンエラー、作業環境の快適性、職場のメンタルヘルスなどに関する実験・調査を行っている。また、リスクテイキング行動、安全文化、環境配慮行動といった、安全と環境に関わる個人差や組織・社会的要因にも注目している。 |
| | まつ もと ともいちろう 松 本 友一郎 | 組織心理学を専攻。組織における対人ストレスについて研究している。また、対人ストレスそのものだけでなく、職場に存在する他の問題との関連を検討している。たとえば、対人ストレスによって仕事の失敗が増えることはないのか、もしあるとすれば、どのような対人ストレスによってどのような失敗が増えるのか、ということにも関心がある。主に質問紙調査、面接調査、研修を実施している。 |

臨床・発達心理学専攻

| 専攻領域 | 教員名 | 研究分野の内容 |
|-------|-------------------------|---|
| 臨床心理学 | さか い まこと 坂 井 誠 | これまで病院臨床に従事してきた関係で、パニック障害や強迫性障害などの不安障害に対する行動療法・認知行動療法を専門としている。また最近では、学校領域、産業領域におけるストレスの問題に興味があり、自律訓練法や社会的スキル訓練などを援用したストレス・マネジメントを研究している。 |
| | なが た のり こ 永 田 法 子 | 本学着任前は病院臨床に従事し、幼児から成人までを対象として臨床実践を行ってきた。関心の中心は、幼児、児童から青年期の人たちとその家族の問題であり、スクールカウンセラーとしても活動している。ユング心理学を基盤としたイメージ表現や箱庭療法、遊戯療法なども取り組み、臨床場面における関係性に主眼をおいた研究・実践を行っている。 |
| | かみ や えい じ 神 谷 栄 治 | 心理アセスメント、心理療法面接、心理的支援を実践・研究してきた。アセスメントについては、疾病分類にとどまらない総合的見立てや、パーソナリティ構造の検討を行ってきた。心理療法面接は、力動的立場から、幼児から成人、健常者から重篤なケースへの対応を検討してきた。支援は、犯罪被害者の支援について活動している。 |
| | ば ば し づ 馬 場 史 津 | 臨床活動の中心は精神科・心療内科などの病院で、主に成人を対象とした心理療法、心理査定に携わってきた。心理療法は力動的な観点から実践しており、心理査定はロールシャッハ・テスト及び描画テストが専門である。特に母子画は、数量的研究に基づく解釈仮説の検討や、臨床群の描画特徴を研究している。 |
| | みょう がん みつ のり 明 翫 光 宜 | 臨床心理学的援助として自閉症スペクトラム障害の発達支援及び家族支援を行ってきた。心理アセスメントでは投射法に関心があり、ロールシャッハ・テストを発達障害の心理アセスメントに活かす研究に取り組んできた。最近では発達障害を対象にした怒り・不安のコントロールプログラムの開発やその介入研究にも取り組んでいる。 |
| 発達心理学 | みず の り え 水 野 里 恵 | 乳幼児期の子どもの社会化過程について、発達初期の子どもの気質が母親の心理面やしつけ方略とどのように影響し合うかの観点から実験的観察法・調査法を使用した縦断研究を行ってきた。現在は、発達初期の子どもの気質的個人差を要因に組み込み、自己制御行動の発達過程に焦点を当てた研究を展開している。また、同胞集団でのモラル、一般他者に対するモラルがどのように発達していくかの観点から青年期・成人期に焦点を当てた研究も行っている。 |
| | こ じま やす お 小 島 康 生 | 家族発達心理学が専門。子どもの誕生や成長に応じて家族関係や親の心理・行動がどのように変化していくかを観察法や質問紙法、面接法などにより調査してきた。最近では、家族ダイナミクスに関する文脈横断的な観察研究に関心がある。また、行政やNPO団体と連携しながら地域に根ざした子育て支援活動を展開することにも力を注いでいる。 |
| | かわ しま だい すけ 川 島 大 輔 | 生涯発達心理学の観点から、青年期から老年期にわたる死の意味づけと宗教との関係について、インタビューや質問紙を用いた研究を行っている。また医療・教育現場での実践に向けた、自殺予防研究にも携わっている。最近自死遺族支援に資する調査・実践や、高齢者の終活に強い関心を持っている。死や老い、あるいは自殺といった従来の発達心理学ではあまり扱われてこなかったテーマから、多様でゆらぎを含んだ人の発達のかたちを捉えたいと思っている。 |

社会学研究科

社会学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分（選抜方式）* | 入学定員 |
|-----|-----|----------|-------------|------|
| 社会学 | 社会学 | 博士前期（修士） | 一般・留学生選抜 | 5名 |
| | | 博士後期 | 一般・留学生選抜 | 2名 |

※…同一日程における複数の試験区分の併願不可。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|-------|--|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者 ②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者 ⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者 ⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者 <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに学部大学院事務課までお問い合わせください。 対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 |

博士後期課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|-------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} 最終日 消印有効 | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} 消印有効 | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|--------------------|-----------|------------------------------------|-------------------|-------------------|--|---------------------|
| 前期日程 | 博士前期 (修士) | 一般 留学生 | 2017年 8月28日(月)) 9月6日(水) | 2017年 9月23日(土) | 2017年 10月3日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月10日(火) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 博士前期 (修士) | 一般 留学生 | 2018年 1月22日(月)) 1月31日(水) | 2018年 2月17日(土) | 2018年 2月27日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| 後期日程 | 博士後期 ^{※1} | 一般 留学生 | | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
 外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

出願する前に、指導を希望する教員に連絡を取ることが望ましい。

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

①当日の試験（筆記試験・口頭試問）、②論文又はこれに代わる業績を記す書類、③出身大学の成績、④その他出願書類（研究計画の内容を重視） によって行います。

博士後期課程

①当日の試験（筆記試験・口頭試問）、②論文又はこれに代わる業績を記す書類、③出身大学院の成績、④その他出願書類（研究計画の内容を重視） によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|---------------------|--|
| 社会学 | 一般 | 10:00 } 11:20 | 英語（英文読解） ・英和辞典・日本語辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 11:40 } 13:00 | 社会学 |
| | | 14:00* } | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |
| | 留学生 | 10:00 } 11:20 | 英語（英文読解）又は日本語 ・英語（英文読解）又は日本語から1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・英和辞典・日本語辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 11:40 } 13:00 | 社会学 |
| | | 14:00* } | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|---------------------|---|
| 社会学 | 一般 | 10:00 } 11:20 | 英語 ・英和辞典・日本語辞典持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 12:30* } | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|---------------------|---|
| 社会学 | 留学生 | 10:00 } 11:20 | 英語又は日本語 ・英語又は日本語から1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・英和辞典・日本語辞典持込可(電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可)。 |
| | | 12:30* } | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

豊田キャンパス9号館1階 ロビー 9:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類(卒業証明書・成績証明書等)には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|---|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真(正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影)の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書(願書貼付用)を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ①巻末「社会学・志願書」を使用すること。 ②「志望指導教員名」欄は、後掲「教員組織」を参照の上、選択し記入すること。 ※出願する前に、指導を希望する教員に連絡をとることが望ましい。 ③「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。 ④「修士論文又は卒業論文」欄には、博士前期(修士)課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入すること(作成途中の場合は予定を記入)。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。卒業論文を作成していない場合はその旨を記入。 ⑤「入学後の研究計画案」欄は、博士前期(修士)課程志願者は、研究計画や研究したい内容を400~500字程度にまとめて記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 ※博士後期課程志願者は、後掲「研究計画書」の指示に従い別紙にて提出すること。 |
| 卒業証明書 (含見込) | <p>〈博士前期(修士)課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者(含見込)は、その修了(見込)証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-------|--|
| 成績証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 研究計画書 | <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科で研究したい分野、方法、受けたい指導について記入すること。 ・書式自由、2,000字程度。 |
| 論文 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①卒業論文又はこれに代わる論文のコピー（卒業論文が数年前のものである場合は、両方提出可）。 ※論文内容は、本研究科の専攻内容と著しく関係を欠かないものであること。 ※卒業論文に代わる論文の場合、その論文は16,000字前後にまとめたものに限る。 ②上記①の提出論文には要約を付すこと（1,200～2,000字）。 ③外国語による卒業論文又はこれに代わる論文は、日本語で8,000字程度にまとめた文を添付すること。この場合、上記②の要約は不要。 ④前期日程志願者のうち、2018年3月卒業見込で卒業論文未完の者は、その論文の概要（2,000字以上）を提出することで、上記の論文に代えることができる。 ⑤外国人留学生志願者の場合も、①～④と同様に対応すること。 ⑥提出論文は、原則として返却しない。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①修士論文又はこれに代わる論文のコピー（修士論文が数年前のものである場合は、両方提出可）。 ※論文内容は、本研究科の専攻内容と著しく関係を欠かないものであること。 ※修士論文に代わる論文の場合、その論文は16,000字前後にまとめたものに限る。 ②上記①の提出論文には要約を付すこと（1,200～2,000字）。 ③外国語による修士論文又はこれに代わる論文は、日本語で16,000字程度にまとめた文を添付すること。この場合、上記②の要約は不要。 ④外国人留学生志願者の場合も、①～③と同様に対応すること。 ⑤提出論文は、原則として返却しない。 |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------|---|
| 日本語の学力に関する書類 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 さらに、次の①②に該当する者は指定する書類を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 ①「日本語能力試験N1レベル又は1級」を受験した者は、成績証明書を必ず提出。 ②「日本留学試験」を受験した者は、受験票を必ず提出（本学が日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績照会を希望する回のもの）。 |
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末－身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートのコピー | <ul style="list-style-type: none"> ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

1. 本研究科の沿革と概要

錯綜し変動する現代社会と、そこに生起する社会現象・文化現象を研究対象に据え、社会学を中心としつつも、学問研究の既存の枠組み自体への問いをも含む学際的アプローチを発展させようとするユニークな学部として、中京大学社会学部が新設されたのは1986年4月であった。本研究科は、この学部教育の完成をまって、それに引きつづく専門的な研究力量をもつ人材の育成のための部局として発足する。すなわち、1990年4月に大学院社会学研究科博士前期（修士）課程、1992年4月に同博士後期課程を開設し、ここに「学部から大学院博士後期課程までの一貫教育体制」を実現した。

本研究科は発足時以来、新卒者だけでなく、実務経験をもつ社会人や留学生を積極的に受け入れ、修士と博士の学位取得者を研究と実務の第一線に送り出してきた。なかでも、国立・私立の大学等高等教育機関で研究教育のスタッフとして活躍する人材を相次いで輩出していることは特筆されてよい。

2. 教育・研究の内容とその特徴

本研究科の主な教育科目は、さまざまな分野の社会学、教育社会学、社会福祉学、メディア社会論、社会統計学、社会思想史、文化人類学等である。したがって本研究科では、社会学の学識と方法を深く学ぶとともに、環境と人間、メディアと文化、教育と福祉などアクチュアルな諸問題への多角的・複合的なアプローチが可能になる。

この教育研究活動の特色は、提出された修士論文・博士論文のタイトルからも知ることができる。そのいくつかを例示しておこう。

〈修士論文〉

- 「自閉症スペクトラム障害を有する子どもの母親の語りにおけるスティグマをめぐる社会学的研究」
- 「『フリーター』問題における『正社員』と『フリーター』の分化要因に関する研究」
- 「社会階層からみる子ども虐待発生メカニズムの社会学的分析」
- 「インターネット・コミュニティにおける『ピア・サポート』の可能性」
- 「人とモノとのフェティシユな関係と逆パノプティコン的共同体 — ゴシック&ロリータ・ファッションの事例から —」
- 「大学生における動物とのふれあいの実態とメンタルヘルスの関連について」
- 「オンラインゲームが現実の対人関係に及ぼす影響の検討 — 現実・仮想の両側面から —」

〈博士論文〉

- 「児童養護施設職員のスキルトレーニングプログラムの開発に関する実証的研究 — 子どものケア体制確立を目指して」
- 「中国朝鮮族の研究 — 星火村の社会構造と変化 —」
- 「マダン劇をめぐる韓国文化誌 — 歴史・民衆文化運動・社会的実践 —」
- 「改革期における中国の『単位保障』に関する研究」
- 「『声』の自主メディア生成のダイナミクス」

3. 「専門社会調査士」資格対応カリキュラムの整備

本研究科の在立基盤である現代社会学部（2007年4月に社会学部から改組）は、「社会調査士」資格のための教育を実施している。本研究科は、この学部教育と連動して、「専門社会調査士」資格に対応するカリキュラムを設け、その教育を2008年度から開始している。このカリキュラム改定は、修士課程において当該資格の取得を可能にするための措置であるが、同時に理論的な深さと実証性の豊かさを備えた研究の発展を追求する本研究科の研究・教育の充実を促すものになるであろう。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●社会学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、社会学及び隣接諸科学の専門知識を深く修得させるとともに、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培うことを目的とする。また、「専門社会調査士」資格の養成のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく研究・教育を重視し、専門的実践的能力及び調査研究に求められる倫理性を育成することによって、行政機関、専門機関、企業等において専門的な業務を担当できる人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、社会学の諸領域及び隣接諸科学の専門知識を体系的に修得させ、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培うことを目的とする。専門的学識を充実させるための研究指導とならび、調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視し、大学・高等教育機関等の研究・教育専門職をはじめ高度の専門的業務に従事できる人材を養成する。

9. 教員組織

社会学研究科長 野口典子

| | | | |
|------------------|-------|-----------------|---------------------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 専任教授 | 村上隆★ | 社会統計学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 大友昌子★ | 福祉社会論A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 野口典子 | ソーシャルケア論A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 斉藤尚文 | 社会人類学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 加藤晴明 | メディア社会論A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 小木曾洋司 | 地域社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 亀山俊朗 | 社会思想史A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 辻井正次 | 社会臨床心理学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 亀井哲也 | 博物館人類学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 大岡頼光 | 福祉社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 成元哲 | 環境・健康社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任教授 | 松田茂樹 | 家族社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任准教授 | 芦川晋 | 理論社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任准教授 | 伊藤葉子 | ソーシャルワーク論A・B特殊講義・演習 |
| | 専任准教授 | 松谷満 | 文化社会学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任准教授 | 岡部真由美 | 文化人類学A・B特殊講義・演習 |
| | 専任准教授 | 相澤真一 | 社会史・歴史社会学A・B特殊講義・演習 |
| 専任講師 | 森田次朗 | 教育社会学A・B特殊講義・演習 | |
| 博士後期課程 | 専任教授 | 村上隆★ | 社会統計学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 大友昌子★ | 福祉社会論A・B・演習 |
| | 専任教授 | 野口典子 | ソーシャルケア論A・B・演習 |
| | 専任教授 | 斉藤尚文 | 社会人類学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 加藤晴明 | メディア社会論A・B・演習 |
| | 専任教授 | 小木曾洋司 | 地域社会学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 亀山俊朗 | 社会思想史A・B・演習 |
| | 専任教授 | 辻井正次 | 社会臨床心理学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 亀井哲也 | 博物館人類学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 大岡頼光 | 福祉社会学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 成元哲 | 環境・健康社会学A・B・演習 |
| | 専任教授 | 松田茂樹 | 家族社会学A・B・演習 |
| | 専任准教授 | 芦川晋 | 理論社会学A・B・演習 |
| | 専任准教授 | 伊藤葉子 | ソーシャルワーク論A・B・演習 |
| | 専任准教授 | 松谷満 | 文化社会学A・B・演習 |
| | 専任准教授 | 岡部真由美 | 文化人類学A・B・演習 |
| | 専任准教授 | 相澤真一 | 社会史・歴史社会学A・B・演習 |
| 専任講師 | 森田次朗 | 教育社会学A・B・演習 | |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

| 教員名 及び 専攻分野 | 専攻分野の内容 |
|---|---|
| <p>MATSUDA, Shigeki 松田茂樹 家族社会学 Sociology of Family</p> | <p>家族社会学を学術的背景にして、少子化対策、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス等に関する実証的研究を行っている。わが国の合計特殊出生率は世界的にみて極めて低く、国の持続に黄信号がともっている。少子化の実態と背景は何かを探り、解決策を考えて提言する研究活動をしている。 (参考)『少子化論—なぜまだ結婚・出産しやすい国にならないのか』勁草書房, 2013年。『何が育児を支えるのか—中庸なネットワークの強さ』勁草書房, 2008年。</p> |
| <p>SUNG, Woncheol 成元哲 リスク社会論と環境社会学 Sociology of Environmental Health: A Social Determinants Perspective</p> | <p>地球温暖化、水俣病、四日市公害、所沢のダイオキシン問題、反原発運動といった環境問題からみた現代社会の分析と、それに基づいた環境と健康との関係に関する実証分析を行っている。主に地域社会の凝集性やソーシャルサポートなど環境健康を決める社会的要因の観点から研究している。 (参考) (1)『健康を決める社会的要因の探索：社会疫学への招待』（三恵社），2008年、(2)「モラル・プロテストとしての環境運動」（長谷川公一編『講座 環境社会学 第4巻 環境運動と政策のダイナミズム』所収）（有斐閣），2001年、(3)「『リスク社会』の到来を告げる住民投票運動」（『環境社会学研究』第4号）（新曜社），1998年。</p> |
| <p>ASHIKAWA, Shin 芦川晋 理論社会学、社会理論 Social Theory</p> | <p>E・ゴフマン等いわゆるミクロ社会学と呼ばれる議論について、N・ルーマンの枠組みを参照にしながら、その理論構成や問題設定を明らかにする作業を行う一方で、その知見をベースにして現代社会につきまとう諸問題（自我、コミュニケーション、親密性等）について理論的な考察をめぐらし、現象を読みとくツールを提供していくこと。 (参考)「他者の体験」（『情状別冊』, 2000年）、「社会の零度」（佐藤他編『市民社会と批判的公共性』2004年）、「コミュニケーションにおける「伝達の意図」とその「理解」について」（『社会学年誌』2009年）</p> |
| <p>OOKA, Yorimitsu 大岡頼光 福祉国家論 Welfare State</p> | <p>少子高齢化が進む中で福祉国家制度を維持していくには、次世代の育成が欠かせない。持続可能な制度を作るためには、どのような「人生前半の社会保障」が望ましいのかを、主に教育投資を中心にして研究している。 (参考)「財政危機下のスウェーデンの教育投資の研究」（『中京大学現代社会学部紀要』第4巻第1号），2010年、『教育を家族だけに任せない—大学進学保障を保育の無償化から』勁草書房, 2014年。</p> |
| <p>OGISO, Yoshi 小木曾洋司 地域社会学 Community Study</p> | <p>平成の合併以後、地域社会研究の社会的文脈は変化した。国家のセーフティネットとしての役割の後退、それに代わる地方自治体及び地縁団体やNPO法人などの役割の増大の経過において、地域社会がもつ公共性の様々な側面を再発見・評価する流れである。それは国家の公的役割の補完ではなく、自治の主体と内容の創造を意味しよう。 (参考)「地域社会における住民活動から社会権を考える」社会文化学会『社会文化研究』第14号, 2012年、「協働の可能性」松田他編著『市民学の可能性』梓出版, 2010年。</p> |
| <p>MATSUTANI, Mitsuru 松谷満 政治社会学、社会意識論 Political Sociology, Social Psychology</p> | <p>政治社会学、社会意識論について、計量的な実証研究に取り組んでいる。主たる目的は、①「伝統—近代」の枠組におさまらない「第二の近代」に適合的な社会意識論の構築、②その枠組にもとづく現代の脱政党的政治現象の解明、である。 (参考)『再帰的近代の政治社会学』（共著）ミネルヴァ書房, 2008年、『外国人へのまなざしと政治意識』（共著）勁草書房, 2011年。</p> |
| <p>MORITA, Jiro 森田次朗 教育社会学、学校社会学 Sociology of Education</p> | <p>「学校」の多様性に関する教育社会学的研究。「オルタナティブ教育」と呼ばれる諸実践、特に現代日本で不登校支援を行うフリースクールの活動を対象に、1) そこでは何が「教育」や学びとみなされ、一斉授業や教科書に代表される既存の学校文化（社会化）のあり方がいかに再構成されているか、2) なぜそうした諸実践が社会的に必要とされるかを考察。 (参考)「現代日本社会におけるフリースクール像再考—京都市フリースクールAの日常実践から」（『ソシオロジ』第53巻2号, 2008年）、「オルタナティブ・スクールにおける「自由」と「選択」—デモクラティック・スクールMの事例から」（『ソシオロジ』第58巻2号, 2013年）、「社会科・公民科教育法における「社会参画」の可能性—コミュニティ・スクールを事例として」（『京都社会学年報』第21号, 2013年）。</p> |

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

KAMEYAMA, Toshiro

亀山 俊朗

シティズンシップ論
Citizenship Studies

グローバル化における仕事や生活、社会や国家の諸問題を、シティズンシップ（権利と義務を伴う市民の地位身分、市民としてのあり方）研究の視点から検討している。フリーター、外国人、女性など労働市場の周辺に置かれがちな人々と、身分は保障されていても過重な労働に就く男性正社員らの問題を、一貫した理論的・歴史的視点で分析する。

（参考）『葛藤するシティズンシップ』（共編著、白澤社）、2012年、「キャリア教育からシティズンシップ教育へ？」『日本労働研究雑誌』583、2008年、「フリーターの労働観」太郎丸博編『フリーターとニートの社会学』（世界思想社）、2006年。

AIZAWA, Shinichi

相澤 真一

歴史社会学、教育の社会史
Historical Sociology,
Social History of Education

近代化が進展し、教育が浸透していくことにより、人々の意識、生活、社会にどのような変化が起きていくのかを文献資料の解説と社会調査資料の復元から研究を行っている。さらに、教育拡大に関する各国の知見を収集することにより、英語圏で試みられている比較歴史社会学へと展開することを構想している。

（参考）『〈高卒当然社会〉の戦後史』（共著）（新曜社）、2014、「子どもと貧困の戦後史」（共著）（青弓社）、近刊、デイヴィッド・ヴィンセント著、北本正章監訳『マス・リテラシーの時代』（共訳）（新曜社）、2011。

OTOMO, Masako

大友 昌子

社会福祉の歴史
The History of Social Work in
North-East Asian

歴史社会学的アプローチによる研究方法を使って社会福祉研究をおこなっている。研究対象領域は、日本社会福祉史、東アジア社会福祉史、児童福祉施設の歴史的研究。

（参考）『植民地社会事業資料集成—台湾偏一』（監修）（近現代史料刊行会）、2001年刊、『帝国日本の植民地社会事業政策研究—台湾・朝鮮』（単著）（ミネルヴァ書房）、2007年刊。

NOGUCHI, Noriko

野口 典子

高齢者福祉、社会老年学
Social Welfare for the Aged,
Social Gerontology

①高齢者関係施設ケア実践の科学化・標準化をめざしており、ことに要介護状態にある高齢者の医療・看護・介護・福祉実践の統合化とその実践方法に関する研究を中核としつつも、②近年では認知症高齢者とその家族の地域ケアに関する国際比較研究に着手し、認知症の早期ケアをめざす、地域ケア実践モデル開発を自治体との共同で行っている。

（参考）『デンマークの選択 日本への視座』（共著）（中央法規出版）、2013年、『福祉・介護人材確保・養成のグローバル化とその課題』（単著）（中京大学現代社会学部紀要）、2011年、『生活者の視点に立った居住福祉』（単著）『居住福祉学』（有斐閣）、2011年、『日本における高齢者介護問題の表面化の経緯とその対策の評価』（単著）『家族・コミュニティの変貌と福祉社会の開発』（中央法規出版）、2010年。

ITO, Yoko

伊藤 葉子

社会福祉援助論、障害者福祉
Theory and Practice of Social
Work, Social Welfare for
people with disabilities

社会福祉実践の共通基盤の枠組みとその要素について。障害を持つ人の自立に向けた地域生活支援のあり方について。なかでも、当事者参加、運営を中心とする支援体制のあり方と実践能力のある専門家としての自己の形成にむけた養成課程及び実践のなかでの教育のあり方について。

（参考）『当事者主体を貫く 不可能を可能に—重度障害者、地域移行への20年の軌跡』（共著）（中央法規）、2011年。

KATO, Haruhiro

加藤 晴明

メディア社会研究
Media Society

情報社会・メディア社会に関する理論的・実証的研究。メディアコミュニケーション及び音声メディア（ラジオ）に関する理論的・実証的研究。CMC、電話コミュニケーション、メディア空間、コミュニティ放送、地域メディア等。

（参考）『メディア文化の社会学』（福村出版）、2001年、『自己メディアの社会学』（リベルタ出版）、2013年。

TSUJII, Masatsugu

辻井 正次

社会臨床心理学
Social Clinical Psychology

社会システムと発達過程の関連性について発達障害や臨床群にある人の抱える課題から臨床心理学的な検討を加えていく。特に広汎性発達障害の発達支援システムの構築と運営など。

（参考）『発達障害のある子どもたちの家庭と学校』（遠見書房）、2013年、『特別支援教育実践のコツ』（金子書房）、2011年、『楽しい毎日を送るためのスキル』（日本評論社）、2012年、『発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン』（金子書房）、2014年。

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

MURAKAMI, Takashi

村上 隆

計量心理学
Psychometrics

心理学をはじめとする実証的な方法を用いる社会科学の研究のための統計的手法と、それによって得られる数量的尺度の性質を研究する分野である。さらに、さまざまな分野の研究者と協同して、そうした方法論に依拠した調査研究も行う。特に、因子分析と多重対応分析の心理測定への応用と、技術的な開発が仕事の中心である。

(参考) 村上隆 測定の妥当性 日本教育心理学会(編)『教育心理学ハンドブック』(有斐閣) 159-169, 2003. 『非計量多変量解析法』(共著)(朝倉書店), 2011. 数量化Ⅲ類と多重対応分析「社会と調査」9, 48-62, 2013.

SAITO, Hisafumi

斉藤 尚文

社会人類学
Social Anthropology

調査地：ガテマラ共和国、パプアニューギニア、日本

調査テーマ：開発、医療、親族、まちづくり

(参考) 1997. 12. 10 「環境と開発を読む：パプアニューギニアの森林をめぐる」青木 保(他・編)『環境の人類誌』(岩波講座文化人類学第2巻) 岩波書店 pp. 221-245. 1998. 3. 31 We are one flesh: unity and migration of the Yabio. IN Yoshida, Shuji, and Yukio Toyoda (eds.), *Fringe Area of Highlands in Papua New Guinea* (Senri Ethnological Studies no. 47). pp. 93-112. 1999. 11. 10 「伐採会社は嘘つきだ！パプアニューギニアにおける森林に関する意識向上運動」小柏葉子(編)『太平洋島嶼と環境・資源』(太平洋世界叢書第4巻) 国際書院 pp. 199-227. 2002. 3. 20 (共編)『人から人へ：アジア保健研修所20周年記念誌』アジア保健研修所。

OKABE, Mayumi

岡部 真由美

文化人類学、東南アジア研究
Cultural Anthropology, Southeast
Asian Studies

東南アジア大陸部のタイをフィールドとして、近代化ならびにグローバル化に伴う社会変化と宗教の再編に関する民族誌的研究をおこなっている。具体的には、地域コミュニティの「開発」に取り組む上座部仏教の僧侶たちに着目し、彼らによる新たな社会性や共同性を追求する運動について、フィールドワークにもとづいた調査研究をおこなっている。

(参考) 『「開発」を生きる仏教僧—タイにおける開発言説と宗教実践の民族誌的研究—』風響社, 2014年, “Beyond Localities: Community Development and Network Construction among the Buddhist Monks in Northern Thailand”, in Pranee Liamputtong (ed.) *Contemporary Socio-Cultural and Political Perspectives in Thailand*, Dordrecht: Springer, pp.83-93, 2014. 「タイにおける開発の進展と僧侶による水平的なつながりの構築—「北タイ・コミュニティ開発僧ネットワーク」を事例として—」岸上伸啓(編)『みんぱく実践人類学シリーズ第7巻 開発と先住民』明石書店, pp.201-230, 2009年。

KAMEI, Tetsuya

亀井 哲也

博物館人類学
Museum Anthropology

南部アフリカ、ンデベレ社会を主なフィールドとした文化人類学、博物館人類学研究。

(参考) Ndebele Decorative Cultures and their Ethnic Identity, 2008, in Yoshida, Kenji & John Mack (eds.), *Preserving the Cultural Heritage of Africa: Crisis or Renaissance?*, UK; James Currey & SA; Unisa, pp.140-151. 「「建国」と壁絵：南アフリカ共和国ンデベレの事例から」, 2004, 端信行(編), 『民族の二〇世紀』, ドメス出版, pp.161-184. 「伝統と近代のずれ：ンズンザ・ンデベレの領域」, 2003, 『リトルワールド研究報告』第19号, pp.23-46。

法学研究科

法律学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

- 博士前期（修士）課程学内特別選抜については別冊子『**2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項**』（**教学部大学院事務課窓口にて配付**）を参照してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員・試験区分（選抜方式）・コース制

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分（選抜方式）* | 入学定員 |
|-----|-----|----------|-------------------|------|
| 法学 | 法律学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人・留学生・学内特別選抜 | 10名 |
| | | 博士後期 | 一般・留学生選抜 | 3名 |

※同一日程における複数の試験区分の併願不可。

学内特別選抜については別冊子『2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教育学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

〈コース制について〉

博士前期（修士）課程には、研究コースと専門コースの2コースがあり、①研究コースは研究者・研究員等を目指す者のため、②専門コースは高度な専門的知識を有する職業人を目指す者のためのコースである。目的のいかんにかかわらず、いずれのコースを選ぶかは志願者の自由である。ただし、社会人選抜に出願する者は専門コースとする。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|-------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者 ②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者 ⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者 <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教育学部大学院事務課までお問い合わせください。 対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| 社会人選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の①～③のいずれかに該当する者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2018年4月1日時点で30歳に達する者 ②大学卒業後5年以上又は大学院修了後3年以上の社会経験を有しており、本研究科に入学後、その社会経験に関連した事項について研究を行う予定の者 ③その他、本研究科において社会人選抜に出願する資格があると認めた者 |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 <p>※ただし、日本において通常の高等学校教育の課程又は大学教育の課程を含めて、学校教育における7年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者は、留学生選抜には出願できない。</p> |

博士後期課程

| 試験区分 | 出 願 資 格 |
|-------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 ※ただし、日本において通常の高等学校教育の課程又は大学教育の課程を含めて、学校教育における7年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者は、留学生選抜には出願できない。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|--------------------|------------------|------------------------|-------------------|-------------------|---|---------------------|
| | | | 最終日 消印有効 | | | 消印有効 | |
| 前期日程 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2017年 8月21日(月)) | 2017年 9月14日(木) | 2017年 9月25日(月) | 【第一次入学手続】 2017年 10月2日(月) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | | | 8月30日(水) | | | | |
| 後期日程 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2018年 1月15日(月)) | 2018年 2月9日(金) | 2018年 2月22日(木) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | 博士後期 ^{※1} | 一般 留学生 | 1月25日(木) | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
 外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

| | |
|--------------|------------------------|
| 【第一次入学手続】 | 入学金の納入のみ |
| 【最終入学手続】 | 授業料等の納入及び入学手続書類の送付 |
| 【入学手続（後期日程）】 | 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付 |

志願にあたっては、志望指導教員との事前面談を必要とします。出願期間前に期日の余裕をもって教学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等の調整をします。

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

一般選抜——①当日の試験、②出身大学の成績 によって行います。

社会人選抜——①当日の試験、②出身大学の成績、③研究計画書 によって行います。

留学生選抜——①当日の試験、②出身大学の成績、③日本語の学力に関する成績 によって行います。

博士後期課程

①当日の試験、②出身大学院の成績、③論文又はこれに代わる業績を記す書類、④研究計画書 によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 | |
|-----|-----------|-----------|---|---|
| 法律学 | 研究コース | 一次試験 | 9 : 30 } 11 : 00 外国語 ①英語 ②ドイツ語 ③フランス語 ・上記①～③の科目の中から、母語を除く1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・法史学・日本政治史を志望する者は「古文書読解」で代えることができる。 ・英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可(どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可)。 | |
| | | 一次試験の合格発表 | 12 : 30 (予定) 当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験を許可する。 | |
| | | 二次試験 | 13 : 00 } 14 : 30 専門科目 ・自己の志望する指導教員の専攻分野の科目(志望専門科目)1科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・志望する指導教員の専攻分野は、後掲「教員組織」を参照すること。 | |
| | | | 15 : 00* } 口頭試問 | |
| | | | | |
| | | 一般 | 一次試験 | 9 : 30 } 11 : 00 外国語又は論文科目 【外国語】①英語 ②ドイツ語 ③フランス語 ・上記①～③の科目の中から、母語を除く1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・法史学・日本政治史を志望する者は「古文書読解」で代えることができる。 ・英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可(どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可)。 【論文科目】 ・自己の志望する指導教員の専攻分野と異なる分野(志望専門科目以外)から1科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・自己の志望する指導教員の専攻分野と異なる分野の選択にあたっては、後掲「教員組織」を参照すること。 |
| | 一次試験の合格発表 | | 12 : 30 (予定) 当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験を許可する。 | |
| | 二次試験 | | 13 : 00 } 14 : 30 専門科目 ・自己の志望する指導教員の専攻分野の科目(志望専門科目)1科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。 ・志望する指導教員の専攻分野は、後掲「教員組織」を参照すること。 | |
| | | | 15 : 00* } 口頭試問 | |
| | | | | |
| | | | 専門コース | |

| 専攻 | 試験区分 | | 試験時間 | 試験科目 | | |
|--------------|------|-------------|-----------|---------------|-------|--|
| 法律学 | 社会人 | 専門コースのみ | 一次試験 | — | 免除 | |
| | | | 二次試験 | 13:00 } | 14:30 | 専門科目 ・自己の志望する指導教員の専攻分野の科目（志望専門科目）1科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・志望する指導教員の専攻分野は、後掲「教員組織」を参照すること。 |
| | | | | 15:00** } | | 口頭試問 |
| | 留学生 | 研究・専門コース共通 | 一次試験 | 9:30 } | 11:00 | 外国語（口頭での日本語会話能力試験） |
| | | | 一次試験の合格発表 | 12:30 (予定) | | 当日9号館1階ロビーで行い、合格者のみ二次試験の受験を許可する。 |
| | | | 二次試験 | 13:00 } | 14:30 | 専門科目 ・自己の志望する指導教員の専攻分野の科目（志望専門科目）1科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・志望する指導教員の専攻分野は、後掲「教員組織」を参照すること。 |
| 15:00** } | | 口頭試問 | | | | |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 | |
|-----|------|--------------|-------|---|
| 法律学 | 一般 | 9:30 } | 12:30 | 外国語 ①英語Ⅰ ②英語Ⅱ ③ドイツ語Ⅰ ④ドイツ語Ⅱ ⑤フランス語Ⅰ ⑥フランス語Ⅱ ・上記①～⑥の科目の中から、 母語を除く2科目 を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・科目選択にあたっては、同一言語（Ⅰ・Ⅱ）の選択可。 ※Ⅰ・Ⅱは難易度を表すものではない。 ・研究上必要な外国語（又は言語関連科目）と出願時に申請した科目に齟齬がある場合、受験科目の変更を指示する場合がある（出願後に通知）。 ※言語関連科目とは「古文書読解Ⅰ・Ⅱ」を指す。 ・英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可（どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 14:00 } | | 15:30 |
| | | 16:00** } | | 口頭試問 |

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|---------------------|---|
| 法律学 | 留学生 | 9:30 } 12:30 | 外国語 ①英語Ⅰ ②英語Ⅱ ③ドイツ語Ⅰ ④ドイツ語Ⅱ ⑤フランス語Ⅰ ⑥フランス語Ⅱ ⑦日本語Ⅰ ⑧日本語Ⅱ ・上記①～⑧の科目の中から、 母語を除く2科目 を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・科目選択にあたっては、同一言語（Ⅰ・Ⅱ）の選択可。 ※Ⅰ・Ⅱは難易度を表すものではない。 ・研究上必要な外国語（又は言語関連科目）と出願時に申請した科目に齟齬がある場合、受験科目の変更を指示する場合がある（出願後に通知）。 ※言語関連科目とは「古文書読解Ⅰ・Ⅱ」を指す。 ・英和・和英・独和・和独・仏和・和仏・国語・漢和・くずし字辞典等持込可（どのような種類の辞典を何冊持参使用してもよいが、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 14:00 } 15:30 | 専門科目 ・自己の志望する指導教員の専攻分野の科目（志望専門科目）1科目又は当該教員の指定する専門科目1科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・志望する指導教員の専攻分野及び専門科目は、後掲「教員組織」を参照すること。 ・本研究科博士前期（修士）課程研究コースより進学する者、その他これと同等の教育課程を修了した者と本研究科委員会において認めた者は専門科目を免除。 |
| | | 16:00*～ | 口頭試問 |

*…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

一般選抜・留学生選抜——名古屋キャンパス9号館1階 ロビー 9:00集合
 社会人選抜——名古屋キャンパス9号館1階 ロビー 12:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類（別紙等）はA4判サイズのものを出してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。
- ⑥志願にあたっては、志望指導教員との事前面談を必要とします。出願期間前に期日の余裕をもって学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等の調整をします。

| 書類名称 | 詳細 |
|---------------------------------------|---|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------------------|--|
| 志願書 【巻末書類】 | <p>① 巻末一法学・志願書を使用すること。</p> <p>② 博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、「在学期間」を選択すること。 ※選択した在学期間のいかにかわらず、4年を超えて在学することはできない（長期履修制度については、研究科共通ページ「学費等」参照）。</p> <p>③ 「志望専門科目」欄及び「志望指導教員名」欄は、後掲「教員組織」を参照の上、選択し記入すること。</p> <p>④ 「外国語又は論文科目で受験する科目」欄は、受験する科目名を明確に記入すること。</p> <p>⑤ 「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。</p> <p>⑥ 「修士論文又は卒業論文」欄には、博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は予定を記入）。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。卒業論文を作成していない場合はその旨を記入。</p> <p>⑦ 「入学後の研究計画案」欄は、研究計画又は研究したい内容を400～500字程度にまとめて記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。</p> |
| 卒業証明書 (含見込) | <p>〈博士前期（修士）課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）の者は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 研究計画書 | <p>〈博士前期（修士）課程 社会人選抜志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書式自由、字数制限なし（目安は2,000字程度）。 ・志願書で選択した在学期間に応じた計画を記載すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書式自由、字数制限なし（目安は2,000字程度）。 |
| 論文 | <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <p>① 修士論文又はこれに代わる業績 3部</p> <p>② 上記①の要旨（A4判用紙、4,000字以内） 3部 ※上記①②いずれもコピー可。返却はしない。 ※外国人留学生で日本語以外の言語によって作成された論文を提出する場合は、日本語による論文要旨（A4判用紙、4,000字以内）を併せて提出すること。</p> |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------|--|
| 日本語の学力に関する書類 | <p>次の①②のいずれかを提出すること。</p> <p>※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。</p> <p>① 「日本語能力試験 N1 レベル又は1級」の成績証明書</p> <p>② 「日本留学試験」の受験票（本学が日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績請求を希望する回のもの）</p> |

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|--|
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末—身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | <ul style="list-style-type: none"> ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

中京大学に大学院法学研究科が開設されたのは、1976（昭和51）年のことである。爾來40年余が経過したが、本研究科には本学の卒業生はもとより、全国各地の大学・学部の卒業生、さらには外国からの留学生、社会人などが多数入学し、多くの成果を挙げてきた。すなわち、彼らのほとんどが、弁護士・税理士・社労士・公認会計士・大学教員・高校教員などの専門職を目指し、事実その夢を実現している。

わが法学研究科は、現代社会の多様なニーズに応えるため、1997（平成9）年度に研究科内にコース制を導入した。修士課程（博士前期課程）に設けられた研究者コースと特修コースがそれであった。研究者志願の者はもとより、その他、高度な専門職を目指す者に対しても多様な道を開きたいというのが、そのねらいであった。このコース制からは前述のような優れた成果をあげたが、本研究科においてはさらにその成果を確かなものにするために、2007年度から新たなコース制を採用している。

「研究コース」と「専門コース」からなるコース制の課題は、高度な専門教育の修得を求める今日の社会の期待に、いかに積極的に応えていくかということである。このコース制の注目すべき特長は、「学内特別選抜入試制」と「社会人選抜入試制」という二つの新制度が採用された点にある。前者は、本学法学部の学生のうち特に優秀な学生を対象に、入学前にも本研究科の「科目等履修生（大学院進学奨励学生）」として認める制度である。学部内に在籍しながら大学院の教育を受けられるというのが、そのメリットとなる。後者は、社会人を対象に、在学期間選択制の導入によって、高度教育研究の場としての大学院の門戸をより一層開こうとする制度である。わが法学研究科には、開設後まもなく広く社会人に開放し、社会人講座を設けて16年間努力してきた実績がある。この実績のうえに、意欲ある社会人に広く教育研究の場を提供したいというのが、私たちの願いである。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●法学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、本課程の研究教育を通じて、広い視野に立って、法律学及び政治学の精深な学識を授け、研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓説した能力を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。
- (2) 博士後期課程は、法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、法律学及び政治学について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事する必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。

9. 教員組織

法学研究科長 愛知正博

| 博士前期課程 (修士課程) | 職 位 | 名 前 | 専攻分野 (専門科目) |
|------------------|-------|-------|-------------|
| | 専任教授 | 愛知正博 | 刑事訴訟法 |
| | 〃 | // | 国際刑事法 |
| | 専任教授 | 小坂田裕子 | 国際法 |
| | 専任教授 | 杉島由美子 | 民法 |
| | 専任教授 | 檀上弘文 | 刑法 |
| | 専任教授 | 土井崇弘 | 法哲学 |
| | 専任教授 | 土岐孝宏 | 企業法 |
| | 専任教授 | 新里慶一 | 企業法 |
| | 専任教授 | 檜山幸夫★ | 日本政治史 |
| | 専任教授 | 古川浩司★ | 国際関係論 |
| | 専任教授 | 保条成宏 | 刑法 |
| | 専任教授 | 森 まどか | 企業法 |
| | 専任准教授 | 上田貴彦 | 民法 |
| | 専任准教授 | 大原寛史 | 民法 |
| | 専任准教授 | 京 俊介 | 政治学原論 |
| | 専任准教授 | 小嶋崇弘 | 知的財産法 |
| | 専任准教授 | 柴田洋二郎 | 労働法 |
| | 専任准教授 | 高田倫子 | 憲法 |
| | 専任准教授 | 張 栄紅 | 行政法 |
| 専任准教授 | 濱崎智江 | 民法 | |
| 専任准教授 | 矢切 努 | 法史学 | |

★…指導教員として選択できません。
 ※上記は2017年5月現在の教員組織です。

博士前期 (修士) 課程受験において選択できる専門科目及び指導教員ならびに論文科目に関する一覧表

| 専門分野 | 専門科目・論文科目 | 指導教員 | 専門分野 | 専門科目・論文科目 | 指導教員 | 専門分野 | 専門科目・論文科目 | 指導教員 |
|--------|-----------|-------|--------|-----------|-------|------|-----------|-------|
| 憲法 | 憲法 | 高田倫子 | 商法・企業法 | 企業法 | 森 まどか | 国際法 | 国際法 | 小坂田裕子 |
| 行政法 | 行政法 | 張 栄紅 | | 企業法 | 土岐孝宏 | 労働法 | 労働法 | 柴田洋二郎 |
| 民法 | 民法 | 杉島由美子 | 知的財産法 | 知的財産法 | 小嶋崇弘 | 法史学 | 法史学 | 矢切 努 |
| | 民法 | 大原寛史 | 刑法 | 刑法 | 保条成宏 | 法哲学 | 法哲学 | 土井崇弘 |
| | 民法 | 濱崎智江 | | 刑法 | 檀上弘文 | 国際政治 | 国際関係論 | *古川浩司 |
| | 民法 | 上田貴彦 | 刑事手続法等 | 刑事訴訟法 | 愛知正博 | 政治学 | 政治学原論 | 京 俊介 |
| 商法・企業法 | 企業法 | 新里慶一 | | 国際刑事法 | 愛知正博 | 政治史 | 日本政治史 | *檜山幸夫 |

★…指導教員として選択できません。

| 博士後期課程 | 職 位 | 名 前 | 専攻分野（専門科目） |
|--------|---------|-----------|------------|
| | 専任教授 | 愛 知 正 博 | 刑事訴訟法 |
| | 〃 | // | 国際刑事法 |
| | 専任教授 | 小 坂 田 裕 子 | 国際法 |
| | 専任教授 | 杉 島 由 美 子 | 民法 |
| | 専任教授 | 檀 上 弘 文 | 刑法 |
| | 専任教授 | 土 井 崇 弘 | 法哲学 |
| | 専任教授 | 土 岐 孝 宏 | 企業法 |
| | 専任教授 | 新 里 慶 一 | 企業法 |
| | 専任教授 | 檜 山 幸 夫★ | 日本政治史 |
| | 専任教授 | 古 川 浩 司★ | 国際関係論 |
| | 専任教授 | 保 条 成 宏 | 刑法 |
| | 専任教授 | 森 ま ど か | 企業法 |
| 専任准教授 | 高 田 倫 子 | 憲法 | |

★…指導教員として選択できません。

※志望する指導教員の専攻分野及び専門科目（志願書に記入する「志望専門科目」）は、上表の右端欄を参照してください。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

| 教員名 及び 専攻分野 | 専攻分野の内容 |
|--|---|
| AICHI, Masahiro 愛 知 正 博 刑事法 Criminal Law | 広く刑事法全般に関心を寄せているが、とくに国際的な犯罪現象に対する刑事法的な対処のしかたを実体法的及び手続法的に検討する国際刑事法の分野に比重をおいて、研究活動を行っている。犯罪処罰のための国際協力と個人の人権尊重という視角から研究を進めている。なお、 http://openweb.chukyo-u.ac.jp/~aichi/ も参照されたい。 |
| UEDA, Takahiko 上 田 貴 彦 民法 Civil Law | 民法のなかでも現在は主として債権法及び契約法領域の研究に取り組んでいます。最近になって、伝統的な契約責任論の問題点が多々浮き彫りになってきていますが、その一つである損害賠償をめぐる問題に対して多角的アプローチから再検討を加えることで、体系的な契約責任論の再構築に少しでも寄与できればと思っています。とりわけ現在は、ドイツ債務法との比較法的観点から、費用賠償の問題と契約責任の第三者拡張の問題を中心に研究を行っています。 |
| OHARA, Hirofumi 大 原 寛 史 民法 Civil Law | 民法、とりわけ契約法を中心に研究している。現在は、契約の拘束力の限界をめぐる諸問題について、ドイツにおける議論を参照し、様々な観点からの検討を試みている。 |
| OSAKADA, Yuko 小 坂 田 裕 子 国際法 International Law | 国際法のうち、とりわけ国際人権法を研究対象としています。多様な国際社会における普遍的人権基準の可能性と課題に関心を有しており、これまでマイノリティの権利や先住民族の権利などについて、国連や地域的機関で採択された条約の起草過程や実施状況を分析・評価してきました。 |

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

KYO, Shunsuke

京 俊 介
政治過程論
Political Process

政治過程論のうち、政策形成過程の分析に関心をもっています。とりわけ、政治家、官僚、利益集団、あるいは裁判所といった政治アクター間の相互作用が、なぜどのようにして政策の形成に影響を与えているのかを、ゲーム理論等を用いた理論的仮説と事例分析による実証とを組み合わせ研究しています。主要研究業績として、『著作権法改正の政治学：戦略的相互作用と政策帰結』（木鐸社、2011年）。

KOJIMA, Takahiro

小 嶋 崇 弘
知的財産法
Intellectual Property Law

知的財産法の中でも、とりわけ著作権法及び標識法（商標法及び不正競争防止法）を研究対象としている。著作権法に関しては、権利制限規定と国際条約の関係、権利処理の円滑化を図るための制度などの研究を進めてきた。標識法に関しては、商標権の保護範囲を拡張する近時の傾向の正当性などについて研究を行っている。研究の方法論としては、主に英米法を対象とした比較法を用いる。

SHIBATA, Yojiro

柴 田 洋 二 郎
労働法、社会保障法
Employment and Labor Law,
Social Security Law

労働法、社会保障法を研究しております。とりわけ、
①労働法については、仕事と家庭の両立をはかることができるような働き方や制度、
②社会保障法については、社会保険における財源と給付の構造、
が現在の関心です。
これらについてフランスを対象とした比較法（制度）研究を行っております。

SUGISHIMA, Yumiko

杉 島 由 美 子
民法
Civil Law

民法の領域のうち、不法行為の分野を研究対象としています。民法だけでなく特別法上の被害者救済制度（公害健康被害補償制度、医薬品副作用被害救済制度等）にも注目して、民事的な被害者救済はどうかあるべきかについて研究しています。また、最近では、消費者法の分野にも関心を持っており、特定商取引法等を研究対象として消費者保護のあり方について研究を進めています。

TAKATA, Michiko

高 田 倫 子
憲法
Constitutional Law

行政裁量論を中心に、法治国家原則にかかわる公法の諸テーマを、ドイツ法と比較しながら研究してきた。その際、戦後の憲法構造の転換と、行政法におけるその理論的受容を、特に分析の視角としている。また、現在では、憲法裁判権をめぐる議論にも関心を寄せており、その憲法上の位置づけについて、歴史的・比較法的研究を進めている。

DANJO, Hirofumi

檀 上 弘 文
刑事法
Criminal Law

刑事法分野全体を研究対象としているが、実体法・手続法を問わず、特にプライバシーの問題、ハイテク犯罪対策、組織犯罪対策、アメリカ刑事法といった領域に関心を寄せ研究を進めてきた。その他、国境・領海警備、密漁・密航・密輸等の海上における犯罪取締りについても調査研究を行っている。

ZHANG, Ronghong

張 栄 紅
行政法
Administrative Law

行政基準論を中心に、都市計画及び環境に関する行政基準を素材に法的統制のあり方について中国やアメリカとの比較法研究を行ってきました。また、現在では、食品安全行政領域における行政基準にも関心を寄せており、食品の国際的流通に伴い構築されている多元的システムに対する法的統御のあり方についての比較法を交えた分析を進めています。

DOI, Takahiro

土 井 崇 弘
法哲学
Legal Philosophy

法哲学の中の「現代正義論」を専門分野としている。「伝統を重視し文化的文脈を考慮した自由社会擁護論」というテーマに基づいて、F・A・ハイエクの議論を中心に研究を進めている。これ以外に、日本文化論や生命倫理などにも関心を持っている。
(主な著書)『リバタリアニズム読本』（勁草書房、共著）、『リバタリアニズムの多面体』（勁草書房、共著）、『ハイエクを読む』（ナカニシヤ出版、共著）。

DOKI, Takahiro

土 岐 孝 宏
企業法
Corporation Law

商取引法、とりわけ、保険法を主たる研究領域としている。損害保険における損害填補原則（利得禁止原則）、傷害・疾病保険契約における保険事故概念、立証責任、責任開始前発病不担保、危険減少、因果関係、各種の免責条項等について研究を進めている。

NIISATO, Keiichi

新 里 慶 一
企業取引法
Business Law

商法・会社法を中心とする、「企業法」全般を研究範囲としているが、現在は、主に、現代の企業取引における企業取引の決済に関する法の現状と課題について研究している。また、海商法も研究領域としている。

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

HAMASAKI, Chie

濱崎 智江
民法
Civil Law

民法（財産法）を研究対象としており、とりわけ民法の条文にない制度の解明及び多数当事者の債権関係に特に強い関心を抱いている。債務引受や契約上の地位の移転という制度についてドイツ民法を素材として研究している。

HIYAMA, Yukio

檜山 幸夫
日本政治史
Political History of Japan

日本近代史のなかの明治期政治外交史を中心として、国家戦略論・外交政略論や東アジア国際関係史を研究しているが、なかでも日清戦争史・外地統治政策史（主に台湾統治史）・アジア太平洋戦争史（主に敗戦と戦後のアジアと日本人）・アーカイブス学と歴史記憶の記録化論・戦争記念碑と戦没者慰霊を主として研究している。解明する課題には、国民国家の形成と日本人の民族意識・対外観・国家観があり、方法論的には原史料を基とした実証的研究と諸外国との比較論的研究を用いる。
(主な著書)『近代日本の形成と日清戦争』（雄山閣）、『日清戦争』（講談社）。

FURUKAWA, Koji

古川 浩司
国際関係論・境界地域研究
International Relations,
Borderlands Studies

もともと近年の日本の多国間外交におけるリーダーシップに関心を寄せていたが、現在は主に日本の国境政策や人権外交などに関する研究を進めている。
研究業績をはじめ詳細は、<http://openweb.chukyo-u.ac.jp/~kojif/>を参照のこと。
(主な著書)『日本の「国境問題」[現場から考える]別冊「環」19』（共著：藤原書店）、『安全保障論—平和で公正な国際社会の構築に向けて』（共著：信山社）。

HOJO, Masahiro

保条 成宏
刑事法
Criminal Law

刑事法のうち、刑法を主たる専攻分野としているが、刑事訴訟法、少年法、更生保護法などにも関心を向けている。また、研究との関係において、医事法、社会福祉法制、生命倫理にも関心がある。具体的な研究テーマとしては、子どもへの医療ネグレクト——子どもに必要な治療行為に対する親の拒絶——を取り上げ、これへの法的対応として、刑法と民法・福祉法との協働による「総合的医事法」を構想し、目下そのあり方を模索中である。

MORI, Madoka

森 まどか
企業法
Corporation Law

従来から、会社法の領域のうち、企業金融、特に社債に関する法的諸問題（社債権者と株主の利害調整、社債管理者の義務・権限等）を研究対象としてきた。現在はその他に、企業統治の分野（債権者保護一般）についても関心を寄せ研究を行っている。

YAGIRI, Tsutomu

矢切 努
法史学
Legal History

法史学のなかでも、「日本近現代法史学」を専門分野とし、特に、近現代日本の「地方自治」を研究対象としています。これまで、戦前日本における「国家による地方統治」のあり方という主題を設定して、この主題を、法的視点と社会経済的視点との両方から考察を進めてきました。その理由は戦前日本の地方統治のあり方が、現代日本の地方統治のあり方と深く関連しあっているからです。したがって、研究の関心は現代にもあります。最近では、「国家による地方統治」のあり方を解明するという私の研究主題において重要な、税財政史の分野、特に、現在その是非が問われている地方交付税制度に関心をもって研究を進めています。

経済学研究科

経済学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

総合政策学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）は**巻末**を確認してください。
- 博士前期（修士）課程学内特別選抜については別冊子『**2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項**』（**教学部大学院事務課窓口にて配付**）を参照してください。
- 経済学専攻のみ**2018年度秋学期入学試験**を実施します。2018年度秋学期入学試験要項は2018年4月に本学公式ホームページ上で公表します。
※博士前期（修士）課程の秋学期入学試験では、学内特別選抜は実施しません。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分 ^{※1} | 入学定員 |
|-----|-------|----------|-----------------------|------------------|
| 経済学 | 経済学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人・留学生・税理士・学内特別選抜 | 5名 ^{※2} |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 2名 ^{※2} |
| | 総合政策学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人・留学生・学内特別選抜 | 5名 |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 2名 |

※1…同一日程における複数の試験区分の併願不可。

外国人留学生で博士前期（修士）課程を志願する者は、一般選抜、留学生選抜、学内特別選抜のいずれかに出願すること。

※2…経済学専攻の入学定員は2018年度秋学期入学試験の定員との合算人数を示す。

学内特別選抜については別冊子『2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|---|---|
| <p>一般選抜</p> <p>経済学専攻</p> <p>総合政策学専攻</p> | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者</p> <p>②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者</p> <p>③外国において学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者</p> <p>⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者</p> <p>⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>⑧文部科学大臣の指定した者</p> <p>⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】</p> <p>出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> <p>対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| <p>社会人選抜</p> <p>経済学専攻</p> | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・入学時に大学卒業後3年以上経過した者。なお、職歴の有無や内容は問わない</p> |
| <p>社会人選抜</p> <p>総合政策学専攻</p> | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・大学を卒業した者かつ入学時に職業経験がある者</p> |

| 試験区分 | 出 願 資 格 |
|--|---|
| 税理士選抜 経済学専攻 | 一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。 ・税理士を志望する者 |
| 留学生選抜 経済学専攻 総合政策学専攻 | 一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。 ・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 |

博士後期課程

| 試験区分 | 出 願 資 格 |
|---|--|
| 一般選抜 経済学専攻 総合政策学専攻 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位や専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教養部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |

経済学

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{*2} | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{*3} | 入学辞退 手続締切日 |
|------|-------|--------------|-------------------------|------------------------------------|-------------------|--------------------|--|-------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | | | 消印有効 | 必着 |
| 前期日程 | 経済学 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 税理士 | 2017年 6月12日(月)) 6月22日(木) | 2017年 7月8日(土) | 2017年 7月18日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 7月25日(火) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 総合政策学 | | 一般 社会人 留学生 | 2017年 8月30日(水)) 9月8日(金) | 2017年 9月30日(土) | 2017年 10月10日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月17日(火) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | |

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} | 入学辞退 手続締切日 |
|----------|-------|--------------------|-------------------------|-----------------------------------|-------------------|------------------|-----------------------------|-------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | | | 消印有効 | 必着 |
| 後期 日程 | 経済学 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 税理士 | 2018年 1月29日(月)) 2月8日(木) | 2018年 2月24日(土) | 2018年 3月6日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 総合政策学 | | 一般 社会人 留学生 | | | | | |
| | 経済学 | 博士後期 ^{※1} | 一般 | | | | | |
| | 総合政策学 | | | | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日(9:00~17:00)は、教学部大学院事務課窓口でも出願を受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
【入学手続(後期日程)】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

志願者は出願前に志望指導教員に連絡を取り面談を受けてください。

4. 選抜方法

博士前期(修士)課程

①当日の試験、②出身大学の成績によって行います。

博士後期課程

①当日の試験、②論文又はこれに代わる業績を記す書類、③出身大学院の成績によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期(修士)課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|--------------------------|--|
| 経済学 | 一般 | 10:00) 12:00 | <p>●必須科目：英語</p> <p>・英和辞典1冊持込可(電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可)。</p> <p>●選択科目：①ミクロ経済学 ②マクロ経済学 ③志望する専攻分野の科目</p> <p>・上記3科目の中から、2科目を出願時に申請し(志願書に記入)、その科目を受験すること(試験当日の変更は不可)。</p> <p>・志望する専攻分野は志望指導教員の専攻分野とすること(教員の専攻分野は後掲「教員の研究分野の紹介」参照)。</p> |
| | | 筆記試験 終了後 [※] | 面接 |

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-------|-------------------|----------------------|--|
| 経済学 | 社会人 税理士 留学生 | 10:00 } 11:00 | 小論文 ・出願時に申請した志望する専攻分野（志願書に記入）から出題。 ・志望する専攻分野は志望指導教員の専攻分野とすること（教員の専攻分野は後掲「教員の研究分野の紹介」参照）。 |
| | | 筆記試験 終了後* | 面接 |
| 総合政策学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 選択科目：①経済学 ②経営学 ③政治学（行政学を含む） ④法学 ⑤英語 ・上記5科目の中から、2科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・英語選択の場合、英和辞典1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 ・選択科目（英語を除く）の基本文献は後掲参照 |
| | | 12:30* } | 面接 |
| | 留学生 | 10:00 } 11:30 | 選択科目：①経済学 ②経営学 ③政治学（行政学を含む） ④法学 ・上記4科目の中から、1科目を出願時に申請し（志願書に記入）、その科目を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・選択科目の基本文献は後掲参照 |
| | | 12:00* } | 研究計画書に基づく口頭試問 |
| 社会人 | 10:00* } | 研究計画書に基づく口頭試問 | |

※面接及び口頭試問の試験時間は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

〈総合政策学専攻選択科目の出題〉

総合政策学専攻の選択科目（英語を除く）は、次の基本文献を前提として出題します。

基本文献

①経済学

齋藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久／著『マクロ経済学』有斐閣、2010年
八田達夫著『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社、2013年

②経営学

加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学』中央経済社、2006年
伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年

③政治学（行政学を含む）

堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社、2014年
加藤秀治郎著『政治学 第3版』芦書房、2008年

④法学

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門（第4版）』有斐閣、2005年
石川明編著『法学入門30講（新版）』酒井書店、1996年

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-------|------|---------------------|--|
| 経済学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 英語 ・英和辞典1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 筆記試験 終了後* | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |
| 総合政策学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 英語 ・英和辞典1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | | 12:30* } | 口頭試問 ・提出論文及び研究計画を中心とする。 |

※口頭試問の試験時間は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

名古屋キャンパス14号館1階ロビー 9:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 経済学専攻 | 総合政策学専攻 |
|--------------------------------|--|--|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 | |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 | |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ① <u>出願前に志望指導教員に連絡をとり面談を受けること</u>。面談後、志望指導教員に「面談年月日」欄の記入・捺印を依頼すること。 ② 「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。 ③ 「修士論文又は卒業論文」欄は、博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者で卒業論文を作成した者は卒業論文についてその題目と概要を記入すること（作成途中の場合は予定を記入）。 ※学部卒業者で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 ④ 巻末—経済学・志願書を使用すること。 ⑤ 後掲「教員の研究分野の紹介」を参照し、志望指導教員を選択すること。 ⑥ 博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、在学期間を選択すること。 ※選択した在学期間のいかんにかかわらず、4年を超えて在学することはできない（長期履修制度については、研究科共通ページ「学費等」参照）。 ⑦ 「入学後の研究計画案」欄は、研究計画を400～500字程度にまとめて記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。 | <ol style="list-style-type: none"> ④ 巻末—総合政策学・志願書を使用すること。 ⑤ 後掲「教員の研究分野の紹介」を参照し、志望指導教員を選択すること。 ⑥ 「入学後の研究計画案」欄は、研究計画や研究したい内容を400～500字程度にまとめて記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要 ※社会人選抜及び留学生選抜志願者は、志願書には記入をせず、別紙（2,000～4,000字の範囲内）にまとめて提出すること。 |

| 書類名称 | 経済学専攻 | 総合政策学専攻 |
|-----------------------------|---|---|
| 卒業証明書 (含見込) | 〈博士前期(修士)課程志願者のみ〉 ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者(含見込)は、その修了(見込)証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 | |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | 〈博士後期課程志願者のみ〉 ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 | |
| 成績証明書 (含見込) | 〈博士前期(修士)課程志願者〉 ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者(又は修了見込の者)は、その成績証明書も併せて提出すること。 〈博士後期課程志願者〉 ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 | |
| 研究計画書 | | 〈博士前期(修士)課程 社会人選抜及び留学生選抜志願者のみ〉 ・2,000~4,000字の範囲内で記入すること。 |
| 論文 | 〈博士後期課程志願者のみ〉 次の①②を提出すること。 ①修士論文又はこれに代わる業績1部 ②上記の要旨(4,000字程度) ※上記①②いずれもコピー可。返却はしない。 | |
| 戸籍抄本等 | 〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉 ・氏名の変更を証明できる書類(戸籍抄本等)を提出すること。 | |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|--|
| 日本語の学力に関する書類 | ・日本語の学力を客観的に証明できる者(指導教員等)が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者(含見込)及び大学院を修了した者(含見込)は提出を免除。 |
| 住民票 | ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | ・ 巻末—身元保証書 を使用すること。 ・保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ・保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートのコピー | ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

経済学研究科 経済学専攻

経済学専攻の概要

わが国経済は、①産業の空洞化に直面し、産業構造をいかに高度化転換していくか、②高度情報・通信社会のためのインフラをいかに構築していくか、③迫りくる高齢化社会に対応する医療・年金・福祉等の社会保障システムをいかに整備し、その財源をどこに求めていくかなど、多くの課題に直面している。

経済学専攻の主要な役割は、これらの諸問題に対して、①強い問題意識を持ち、優れた歴史観と理論的分析力をもって、理論的・実証的に問題解決に迫りうる学問的能力を養い、専門的研究を行う有望な経済学研究者を育てること、②高度の経済学の知識と現実問題の解決力を身につけた者を社会に送り出すこと、③税理士の資格を得るための基礎的学力を涵養すること、等が挙げられる。

経済学専攻の課程は博士前期（修士）課程と博士後期課程から成り、博士後期課程においては、さらに高度の研究を行うことによって、経済学研究者や経済専門職業人を養成することを主たる目的としている。

経済学専攻の特色

経済学専攻の特色を挙げると以下の通りである。

(1) 「歴史」、「理論」、及び「政策」を中心とする正統派的なカリキュラム編成

①経済学において歴史的な考え方・捉え方はきわめて重要であり、「経済史」に関する講義・研究指導を充実させている。②経済の現実問題を的確に把握し、理解するためには「理論」はその基礎として重要であり、現代の経済理論の基本と応用や経済理論・経済思想の発展に関する充実した講義と研究指導体制を確立している。③種々の経済問題の解決をはかるための政策についても、財政、金融、国際経済学、産業経済学等各種の政策論に関する講義と研究指導を行っている。

(2) 研究指導に重点をおく教育

大学院生は、それぞれ自分で選んだ指導教授のもとで研究を行うが、その場合、マン・ツー・マンに近い研究指導を行っている。教員は、個々の院生の学力、志望に従って、キメの細かい丁寧な研究指導を行い、学力アップと水準の高い研究論文の作成に援助している。

(3) 税理士志望者のための研究指導

本専攻の入学には税理士志望者が多いという実情に鑑み、これらの院生に対しては、財政や税制に関する研究指導はもとより、将来、税理士として活躍できるための基礎学力と専門知識を養うための講義と研究指導を行っている。

(4) 研究者志望者のための水準の高い研究指導

将来、研究者を目指す者に対しては、本人が志望する専門分野に従って、必要な基礎的学力を身につけるように指導するとともに、研究テーマに沿った水準の高い研究指導を行って、有望な研究者を学界に送り出すことを目標としている。

(5) 社会人学生への配慮

就業しながら大学院で高度専門知識を修得したいという社会人に対して、演習科目を重視した研究指導や昼夜開講制、3年の修学期間が選択可能な長期履修制度（博士前期（修士）課程のみ）がある。

経済学専攻の人材の養成と教育研究上の目的

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経済学研究科経済学専攻の「人材の養成に関する目的」

(1) 経済学専攻博士前期課程は、専門教育を通じて以下に掲げる人材の養成を目的とする。

- ①経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者
- ②国際的に貢献できるエコノミスト等
- ③高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人
- ④出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者

(2) 経済学専攻博士後期課程は、博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、それらの目的を自立的に遂行できる能力を培うための論文作成指導を徹底し、より高度な経済専門研究者及び職業人を養成することを目的とする。

経済学研究科 総合政策学専攻

総合政策学専攻の概要

1. 博士前期（修士）課程

政策研究に関する学部レベルの基礎的なポリシー・リテラシーが修得されていることを踏まえて、さらに高度な専門知識を究め、実践的能力と研究能力を培う。とりわけ、公共政策や地域政策、経営戦略やマーケティングなどに関する理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力に裏打ちされた高度の専門的職業を担うことができる卓越した人材を養成することを目標としている。

2. 博士後期課程

研究者の育成とともに、政策立案や経営管理に関する実践現場において、既に専門的な職業に従事している人材の再教育の場を提供する。最新の研究成果に基づく新たな知見から価値を創造する能力を身につけ、企業や行政機関、教育研究機関など、社会の様々な場で中核となる人材を送り出すことを目標としている。

総合政策学専攻の特色

総合政策学専攻の特色を挙げると以下の通りである。

- (1) 経済学、経営学、法学、政治学という4つの領域の社会科学を理論的な基盤としながら、実践的な政策研究を行う。
- (2) 公共政策や地域政策、ビジネス戦略やマーケティングなどの研究者育成とともに、政策形成の専門家の育成やその再教育にも力点を置いている。
- (3) 政策研究を行う上で不可欠な方法論である定量分析と定性分析をはじめとして、政策研究の科目をバランスよく配置している。
- (4) 修士論文や博士論文の研究指導は、指導教員を中心として行う。
- (5) 一般選抜及び留学生選抜とともに社会人選抜を実施している。
- (6) 社会人については、昼夜開講制としている。

総合政策学専攻の人材の養成と教育研究上の目的

本学は、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経済学研究科総合政策学専攻の「人材の養成に関する目的」

- (1) 総合政策学専攻博士前期課程における教育研究の目的は、第一に、学部段階において当該専門分野に関する基礎的な資質や能力を修得した者を対象として、より高度な専門知識や実践的能力、研究能力を培うことであり、第二に、既に政策立案や政策管理に関する実践現場において、高度な専門性が求められる職業を担っている人材の再教育機能を果たすことである。特に、総合政策学専攻博士前期課程では、公共政策や地域政策、経営政策などに関して当該専門分野に関する高度な理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力あるいは高度の専門的な職業を担うための卓越した実践的な能力を持つ人材を養成する。
- (2) 総合政策学専攻博士後期課程の教育研究上の目的は博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、高度な研究能力と豊かな学識に裏打ちされ、新たな知見や価値を創造できる能力を身に付けて企業経営や行政機関、教育研究機関など社会の多様な場で中核を担う人材を養成することを目的とする。

9. 教員組織

経済学研究科長 中山 恵子

経済学専攻

経済学専攻長 中山 恵子

| 博士前期課程 (修士課程) | 職 位 | 名 前 | | | 講義科目 |
|------------------|-------|-----|-----|--------|----------|
| | 専任教授 | 柿 | 元 | 純 男★ | 貿易政策研究 |
| | 専任教授 | 白 | 井 | 正 敏 | 財政学研究 |
| | 専任教授 | 山 | 田 | 光 男 | 計量経済学研究 |
| | 専任教授 | 中 | 山 | 恵 子 | ミクロ経済学研究 |
| | 専任教授 | 椿 | | 建 也 | 経済史研究 |
| | 専任教授 | 近 | 藤 | 健 児 | 国際経済学研究 |
| | 専任教授 | 阿 | 部 | 英 樹 | 経済史研究 |
| | 専任教授 | 釜 | 田 | 公 良 | 経済政策研究 |
| | 専任教授 | 梅 | 村 | 清 英★ | 国際経済学研究 |
| | 専任教授 | 小 | 林 | 毅 | 金融論研究 |
| | 専任教授 | 内 | 田 | 俊 博 | 環境経済学研究 |
| | 専任教授 | 鈴 | 木 | 崇 児 | 都市経済学研究 |
| | 専任准教授 | 平 | 澤 | 誠 | 経済政策研究 |
| | 専任准教授 | 古 | 川 | 章 好 | 財政学研究 |
| | 専任准教授 | 都 | 丸 | 善 央 | ミクロ経済学研究 |
| | 専任准教授 | 古 | 川 | 雄 一 | マクロ経済学研究 |
| | 専任准教授 | 湯 | 田 | 道 生 | 社会保障論研究 |
| | 専任准教授 | 増 | 田 | 淳 矢 | 統計学研究 |
| | 専任准教授 | 風 | 神 | 佐 知子 | 労働経済学研究 |
| 専任准教授 | 吉 | 野 | 裕 介 | 経済学史研究 | |

| 博士後期課程 | 職 位 | 名 前 | | | 専攻分野 |
|--------|-------|-----|-----|------|--------|
| | 専任教授 | 柿 | 元 | 純 男★ | 貿易政策 |
| | 専任教授 | 白 | 井 | 正 敏★ | 財政学 |
| | 専任教授 | 山 | 田 | 光 男 | 計量経済学 |
| | 専任教授 | 中 | 山 | 恵 子 | ミクロ経済学 |
| | 専任教授 | 椿 | | 建 也 | 西洋経済史 |
| | 専任教授 | 近 | 藤 | 健 児 | 国際経済学 |
| | 専任教授 | 阿 | 部 | 英 樹 | 日本経済史 |
| | 専任教授 | 釜 | 田 | 公 良 | 経済政策 |
| | 専任教授 | 梅 | 村 | 清 英★ | 貿易論 |
| | 専任教授 | 小 | 林 | 毅 | 金融論 |
| | 専任教授 | 内 | 田 | 俊 博 | 環境経済学 |
| | 専任教授 | 鈴 | 木 | 崇 児 | 都市経済学 |
| | 専任准教授 | 平 | 澤 | 誠 | 財政政策 |
| | 専任准教授 | 古 | 川 | 章 好 | 地方財政 |
| | 専任准教授 | 都 | 丸 | 善 央 | 産業組織論 |
| | 専任准教授 | 古 | 川 | 雄 一 | マクロ経済学 |
| | 専任准教授 | 湯 | 田 | 道 生 | 社会保障論 |
| | 専任准教授 | 増 | 田 | 淳 矢 | 統計学 |
| | 専任准教授 | 風 | 神 | 佐 知子 | 労働経済学 |
| 専任准教授 | 吉 | 野 | 裕 介 | 経済学史 | |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

総合政策学専攻

総合政策学専攻長 大 森 達 也

| 博士前期課程 (修士課程) | 職 位 | 名 前 | 講義科目 |
|------------------|---------|----------|---------------|
| | 専任教授 | 太 田 真 治 | 国際マーケティング研究 |
| | 専任教授 | 大 森 達 也 | 経済政策研究 |
| | 専任教授 | 岡 本 祥 浩 | 都市政策研究 |
| | 専任教授 | 桑 原 英 明 | 自治体行政研究 |
| | 専任教授 | 坂 田 隆 文 | 経営戦略研究 |
| | 専任教授 | 佐 道 明 広 | 国際政策研究 |
| | 専任教授 | 高 橋 秀 雄 | マーケティング研究 |
| | 専任教授 | 竹 田 昌 次 | 経営管理研究 |
| | 専任教授 | 田 中 讓 | 消費者政策研究 |
| | 専任教授 | 宮 内 美 穂 | ビジネスイノベーション研究 |
| | 専任准教授 | 市 島 宗 典★ | 自治体財政研究 |
| | 専任准教授 | 今 井 良 幸 | 行政法研究 |
| 専任准教授 | 小 山 佳 枝 | 国際法研究 | |

| 博士後期課程 | 職 位 | 名 前 | 専攻分野 |
|--------|---------|----------|-----------------------|
| | 専任教授 | 太 田 真 治 | 国際マーケティング論 |
| | 専任教授 | 大 森 達 也 | 経済政策論・社会保障論 |
| | 専任教授 | 岡 本 祥 浩 | 居住福祉論 |
| | 専任教授 | 桑 原 英 明 | 行政学・日本行政論 |
| | 専任教授 | 坂 田 隆 文 | マーケティング戦略論 |
| | 専任教授 | 佐 道 明 広 | 日本政治外交論 |
| | 専任教授 | 高 橋 秀 雄 | サービスマーケティング論 |
| | 専任教授 | 竹 田 昌 次 | 人的資源管理論 |
| | 専任教授 | 田 中 讓 | 物質経済論 |
| | 専任教授 | 宮 内 美 穂 | ソーシャルビジネス研究・ベンチャー企業研究 |
| | 専任准教授 | 市 島 宗 典★ | 政治過程論 |
| | 専任准教授 | 今 井 良 幸 | 行政法 |
| 専任准教授 | 小 山 佳 枝 | 国際法 | |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

経済学専攻

| 教員名 及び 専攻分野 | 専攻分野の内容 |
|--|---|
| KAKIMOTO, Sumio 柿元純男★ 貿易政策 Trade Policy | 国際貿易の純粋理論はヘクシャー＝オリーンモデルを基礎に発展してきている。2国2財2要素モデルから、多数国多数財多数要素モデルへの拡張、市場構造との関連等研究が進められている。現在の研究テーマは、市場構造と開発政策の有効性に関するものであり、種々の開発政策が失業や厚生にどのような効果をもつかといった問題を分析している。 (参考)『国際経済学の基礎』(共著)(中央経済社),1998年4月、『現代貿易理論の潮流』(共編著)(勁草書房),1998年3月、『基礎経済学』(共著)(中央経済社),1993年3月。『国際貿易の理論』(勁草書房),1989年3月。 |
| SHIRAI, Masatoshi 白井正敏☆ 財政学 Public Finance | 公共経済学、教育経済学研究 公共経済学理論と規範的方法論を基礎として、年金、社会保障、教育、医療など、現実経済問題への応用分析を発展させる。また、所得再分配制度としての租税政策と公共支出を関連させて分析する総合的研究を展開する。 (参考)『教育経済学』(勁草書房),1990年、『公共経済学研究V』(共編著)(中京大学経済研究所),2012年。 |
| YAMADA, Mitsuo 山田光男 計量経済学 Econometrics | 計量経済学の応用研究を行っている。主として多部門モデルや産業連関分析の枠組みを用いて、日本を含む先進国とアジア諸国の貿易と産業構造の相互連関に関する計量経済学的研究を行うとともに、地域産業連関表を中心とした地域経済の計量分析に取り組んでいる。 (参考)『東アジア経済の連関構造の計量分析』(勁草書房)2007年、『日中経済発展の計量分析』(勁草書房)、2012年、Input-Output Analysis of the Interdependence between Japan and China through Japanese Overseas Production, Journal of Econometric Structure, 2014. |
| NAKAYAMA, Keiko 中山恵子 ミクロ経済学 Micro Economics | 主としてミクロ経済学に基づいた理論的分析を行っているが、近年は、非線形計画問題、あるいは環境制御問題を扱ってきた。現在は、産業連関モデルを利用した環境問題に興味を抱いている。 (参考)『非線形計画と非線形固有値問題』(単著)勁草書房,1995年、『統計・計量経済分析のための教育システム』(共著)勁草書房,2000年、『投入産出分析と最適制御の環境保全への応用』(単著)勁草書房,2003年、『初等数量経済分析のための教育方法—Visual Basicを利用して—』(共著)勁草書房,2004年、『経済学周辺の確率過程と教育』(共著)勁草書房,2011年、『ミクロ経済学の考え方』(共著)八千代出版,2012年。 |
| TSUBAKI, Tatsuya 榎建也 西洋経済史 Western Economic History | イギリス流のソーシャル・ポリシー論の中で重要な位置を占める住宅をめぐる諸問題に焦点を当てて、これを歴史的、総合的に検討する。 |
| KONDOH, Kenji 近藤健児 国際経済学 International Economics | 国際経済学の一分野である生産要素の国際的移動の理論分析を主として行う。特に国際労働移動のメカニズムやそのひき起こす経済的影響を検討する。 (参考)『国際労働移動の経済学』(勁草書房),2000年、『環境、貿易と国際労働移動』(勁草書房),2009年。 |
| ABE, Hideki 阿部英樹 日本経済史 Japanese Economic History | 経済面から、地域社会の歴史を研究している。近世後期から高度成長期の歴史資料の収集・解説を進めながら、地域経済の長期的分析に取り組んでいる。 (参考)『近世農村地域社会史の研究』(勁草書房),2004年、『近世庄内地主の生成』(日本経済評論社),1994年。 |

★…指導教員として選択できません

☆…博士後期課程は指導教員として選択できません。

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

KAMADA, Kimiyoshi

釜田 公良

経済政策
Economic Policy

現在の主な研究の対象: 世代間所得移転政策、遺産動機、子の数の選択、親と子の居住地選択、環境や教育などの世代間問題。これらに関するもの以外で、過去に行った研究: 社会資本の最適水準の計測、公共投資の地域間配分、高雇用余剰の計測とシミュレーション、所得階層別消費関数の推定、財政投融资のマクロ経済効果など。
(参考): Bequest motives and fertility decisions. *Economics Letters*, 2006. Government transfers and the samaritan's dilemma in the family, *Public Choice*, 2004. Income Redistribution Effect of Public Pensions between Dynastic Families, *Review of Income and Wealth*, 2002、『世代間所得移転政策と家族の行動』(勁草書房), 2000年。

UMEMURA, Kiyohide

梅村 清英*

貿易論
Trade Theory

国際貿易の理論及び政策についてのミクロ経済学的分析を中心に研究している。
(参考)『国際貿易の理論と開発政策』(勁草書房), 2006年。

KOBAYASHI, Takeshi

小林 毅

金融論
Monetary Economics

金融現象に対するミクロ経済学的アプローチを主な研究分野としている。証券市場、保険及び銀行業など、幅広い分野における理論的、実証的研究を行っている。
(参考)『新しい時代の金融システム』(共著) (勁草書房), 2005年、『金融機関の経営と株式市場』(勁草書房), 2005年。

UCHIDA, Toshihiro

内田 俊博

環境経済学
Environmental Economics

主な研究テーマは企業や消費者の自発的な環境行動の経済分析である。近年は環境ビジネスや気候政策への応用を中心に研究を進めている。
(参考) "Prioritizing barriers to implementing more CDM projects in Indonesia: An application of AHP," *Asian Social Science*, 2014.

SUZUKI, Takaji

鈴木 崇晃

都市経済論
Urban Economics

都市・交通を中心とした地域経済学を研究分野としている。都市交通における需要管理施策や規制緩和、都市における集積の経済性について計算機システムによるシミュレーションを基礎とする分析を行っている。
(参考) "The second best pricing for urban transit with environmental constraint" (*Urban Transport and environment V*), 『都市交通プロジェクト評価—例題と演習—』(分担執筆) (コロナ社), 『都市鉄道の次善料金形成—自動車交通との競合下での理論—』(勁草書房)

HIRAZAWA, Makoto

平澤 誠

財政政策
Fiscal Policy

財政的手段を用いた政府による様々な政策の効果を主に理論的に分析している。特に、環境政策や年金、社会保障政策など、世代間での利害調整に関わる経済問題に関心を持っている。また最近では、少子高齢化など人口動態の変化の下での政策の効果にも関心がある。
(参考) "Fertility, child care outside the home, and pay-as-you-go social security," (共著) *Journal of Population Economics*, 2009. "Effects of international sharing of pollution abatement burdens on income inequality among countries," (共著) *Journal of Economic Dynamics and Control*, 2011.

FURUKAWA, Akiyoshi

古川 章好

地方財政
Local Public Finance

地域での公共投資もしくは社会資本の最適供給問題を中心として、公共投資の地域配分、地方政府の社会資本供給問題等の公共支出に関する問題を研究している。また、望ましい地方分権のあり方、市町村合併、地方の人口規模、行政サービスのあり方に関する諸問題も研究している。

TOMARU, Yoshihiro

都丸 善央

産業組織論
Industrial Organization

主な研究テーマは寡占理論、特に、私企業と公企業による競争を理論的に分析することである。近年は産業政策がそうした競争にどう影響するかについて研究している。
(参考) "Mixed Duopoly, Privatization, and Subsidization with Excess Burden of Taxation." (with Toshihiro Matsumura) forthcoming in *Canadian Journal of Economics*.

★…指導教員として選択できません

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

FURUKAWA, Yuichi

古川 雄一

マクロ経済学
Macroeconomics

経済成長と景気循環に関する理論的研究、マクロ経済全体を分析対象とし、その持続的成長の決定要因や短期的な変動の原因を分析している。近年は特に、知的所有権保護が経済成長プロセスに与える影響に関心がある。

(参考) “The Protection of Intellectual Property Rights and Endogenous Growth: Is Stronger Always Better?” *Journal of Economic Dynamics and Control* 31, 2007. “Intellectual Property Rights and Appropriability of Innovation” *Economics Letters*, 2009.

YUDA, Michio

湯田 道生

社会保障論
Social Security Policy

社会保障分野における様々な政策課題について、経済理論と実際のデータを用いた経済学的な分析に取り組んでいる。近年は、特に医療・介護・健康政策の評価について強い関心を持っている。

(参考) “Effects of Informal Caregivers' Health on Care Recipients” (with Jinkook Lee), *Japanese Economic Review*, Vol. 67 (2), pp. 192-210. “Inefficiencies in the Japanese National Health Insurance System: A Stochastic Frontier Approach”, *Journal of Asian Economics*, Vol. 42, pp. 65-77, 2016年。

MASUDA, Junya

増田 淳矢

統計学
Statistics

経済の理論を検証する場合、抽象的な経済理論を具象化して適切な計量モデルを構築して、適切な経済データを利用して検証を行う必要がある。現在の研究テーマは統計学的にも経済学的にも適切な計量モデルを構築して、さまざまな経済理論を検証することが可能な計量モデルを提案することである。

(参考) “Residual-based tests for cointegration in models with multi-breaks” *Applied Economics Letters*, 2008.

KAZEKAMI, Sachiko

風神 佐知子

労働経済学
Labor Economics

賃金による労働市場の調整機能や、雇用のミスマッチ問題、海外生産が日本の労働市場に与える影響など国内の労働経済研究のほか、海外の労働市場を対象としたインフォーマルセクターに関する研究なども行っている。

(参考) 2013, “The Effect of Intermediate and Final Goods Trade on Labor Demands in Japanese firms” (with M. Endoh) in *Globalism and Regional Economy*, Ed. Susumu Egashira., 2012, “Difference Effects of Trade by Type of Employment, Gender, Age and Education: Evidence from Matched Employer-Employee Data in Japan (with M. Endoh)”, *Chukyo University Institute of Economics, Discussion Paper Series*.

YOSHINO, Yusuke

吉野 裕介

経済学史
History of Economic Thought

経済学史・経済思想と呼ばれる分野のなかでも、特にフリードリッヒ・ハイエク(1899-1992)を中心に、二十世紀の自由主義経済思想について研究してきた。最近では、グローバル化・情報化をふまえた新しい市場と政府のあり方を考えるため、「オープンガバメント」の思想的意義にも関心を持っている。

(参考) 『ハイエクの経済思想: 自由な社会の未来像』(単著) 勁草書房, 2014年。『現代の経済思想』(共著), 2014年。『「統治」を創造する 新しい公共 / オープンガバメント / リーク社会』(共著) 春秋社, 2011年。『アメリカにおけるハイエクの『隷属への道』: 思想の受容・普及プロセスからのアプローチ』『経済学史研究』55 (1), 36-52, 2013年ほか。

ICHISHIMA, Munenori
市島 宗典★
政治過程論

現代日本における政治過程研究
実証的な手法を用いて、現代日本の中央政府レベルあるいは地方政府レベルにおける政治過程に関する研究指導を行う。
(参考)『日本における有権者意識の動態』(共著)慶應義塾大学出版会, 2005年、『地方自治体をめぐる市民意識の動態』(共著)慶應義塾大学出版会, 2005年。

IMAI, Yoshiyuki
今井 良幸
政策法務に関する研究

地方自治をめぐる諸課題について、憲法、行政法、地方自治法をはじめとした法的な視点からの研究指導を行う。
(参考)『プライマリー法学憲法〔第2版〕』(共著)不磨書房, 2010年、『憲法要論』(共著)嵯峨野書院, 2012年。

OTA, Shinji
太田 真治
国際マーケティング論

国際マーケティング
グローバル企業に対する現代の事象を取り上げ、国際マーケティングの課題に関する研究指導を行う。
(参考)『トータルリレーションシップマーケティング』(共訳)中央経済社, 2007年、『グローバルマーケティングの新展開』(共著)白桃書房, 2013年。

OMORI, Tatsuya
大森 達也
経済政策論

経済政策に関する研究
親子間を中心にした世代間の問題について、経済学の観点から研究指導を行う。
(参考)“Effects of public education and social security on fertility”(単著) Journal of Population Economics 22, 585-601、“Can urban pollution shrink rural districts?”(共著) Letters in Spatial and Resource Sciences 7, 73-83。

OKAMOTO, Yoshihiro
岡本 祥浩
居住福祉論

生活資本論研究
様々に起こる居住問題を生活を支えている「生活資本」をその構築と崩壊という双方向の視点から研究指導する。
(参考)『ケースブック 日本の居住貧困』(共編)藤原書店, 2011年、『ホームレス・強制立退きと居住福祉』(編著)信山社, 2007年、『居住福祉と生活資本の構築』ミネルヴァ書房, 2007年、『居住福祉の論理』(共著)東京大学出版会, 1993年。

OYAMA, Kae
小山 佳枝
国際法

法政策特殊研究
国際法(特に、国際環境法及び海洋法)について、理論的・実証的見地から研究指導を行う。
(参考)『よくわかる国際法 第2版』(共著)ミネルヴァ書房, 2014年、『海の国際秩序と海洋政策』(共著)東信堂, 2006年。

KUWABARA, Hideaki
桑原 英明
日本行政論

行政学、日本行政論
国や地方自治体の行政機構を対象として、その制度・管理・政策の態様に関する研究指導を行う。
(参考)『日本行政の歴史と理論』(共編著)芦書房, 2004年、『日本の政治と行政』(共編著)芦書房, 2012年、『公共政策の歴史と理論』(共編著)ミネルヴァ書房, 2013年。

SAKATA, Takafumi
坂田 隆文
マーケティング戦略論

マーケティング戦略
企業が行うマーケティング活動に関してケースを中心に分析し、企業のマーケティング戦略がいかに行われているのかを検討するための分析視点に関する研究指導を行う。
(参考)『現代社会の消費とマーケティング』(共著)税務経理協会, 2008年、『1からのリテールマネジメント』(共編著)碩学舎, 2012年、『1からの流通論』(共著)碩学舎, 2010年、『1からの商品企画』(共著)碩学舎, 2012年。

★…指導教員として選択できません

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

SADO, Akihiro

佐道明広

日本政治外交論

日本の政治と外交に関する歴史的研究。特に戦後日本の安全保障政策、日米関係、東アジア国際関係、政軍関係論などを中心に研究している。近年は特に安全保障問題との関係で沖縄の政治に関する現地調査や、国境地域の調査を実施している他、政治家、官僚などへのオーラルヒストリー（口述の歴史記録）も行なっている。

（参考）『戦後日本の防衛と政治』（単著）吉川弘文館，2003年、『現代日本政治史—「改革」政治の混迷』（単著）吉川弘文館，2012年、『沖縄現代政治史』（単著）吉田書店，2014年、『自衛隊史論』（単著）吉川弘文館，2014年。

TAKAHASHI, Hideo

高橋秀雄

サービスマーケティング論

サービス・マーケティング

専攻分野は、マーケティング論、サービスマーケティング論、流通論、物的流通論、電子商取引等の経営学系の分野の他、非営利組織マーケティング、電子政府・自治体論等の公共政策系の分野にもわたっている。1つの専攻分野だけでなく広範な領域にわたる研究をしている。

（参考）『サービス・マーケティング戦略』（単著）中央経済社，2009年、『マーケティング・チャンネル研究のフロンティア』（単著）同文館出版，2006年、『eコマース・ビジネス』（単著）中央経済社，2012年、『電子商取引の動向と展望』（単著）税務経理協会，2001年。

TAKEDA, Masatsugu

竹田昌次

人的資源管理論

日本企業における人事管理制度

終身雇用や年功賃金に対する変革という問題を取り上げ、「グローバリゼーションと日本の経営」という課題設定の下に研究指導を行う。

（参考）『新・日本的経営と労務管理』（共著）ミネルヴァ書房，2000年、『マルチリージョナル企業の経営学』（共著）八千代出版，2000年。

TANAKA, Yuzuru

田中 譲

物質経済論

物質と人間の生活様式

生活習慣病の概念再考と原因・対策の解明を研究課題として、特に生活様式面、即ち物質利用を伴う経済生活面での因果経路に焦点を当て、同病克服の課題に関する研究指導を行う。

（参考）『消費者問題と消費者保護』（共著分担）成文堂，2004年、『日本物質文明論序説—人間生態的アプローチをめざして—』五弦舎，2003年。

MIYAUCHI, Miho

宮内美穂

ソーシャルビジネス研究・ベンチャー企業研究

ベンチャー企業

市場において勝ち抜くため、さまざまな分析手法を用いて企業における競争優位の源泉を見出し、それを基にどのような戦略を立て、また、いかに実行するかについて研究する。

（参考）三谷宏治『ビジネスモデル全史』ディスカヴァー・レボリューションズ，2014年。

経営学研究科

経営学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

- 博士前期（修士）課程学内特別選抜については別冊子『**2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項**』（**教学部大学院事務課窓口にて配付**）を参照してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分（選抜方式）* | 入学定員 |
|-----|-----|----------|----------------------|------|
| 経営学 | 経営学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人（有験者特別）・学内特別選抜 | 10名 |
| | | 博士後期 | 一般選抜 | 3名 |

※同一日程における複数の試験区分の併願不可。

学内特別選抜については別冊子『2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|--------------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者 ②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者 ⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者 ⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者 <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。 対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| 社会人選抜（有験者特別） | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の①②の出願資格を満たす者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学を卒業後15年以上の職業経験を有し、本研究科に入学後、その職業経験に関連した事項について研究を行う予定の者 ②昼間開講科目の履修のみで修了所要単位の取得が可能なる者 |

博士後期課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} 最終日 消印有効 | 試験日 | 可否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} 消印有効 | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|--------------------|----------------------|-----------------------------------|-------------------|--------------------|--|---------------------|
| 前期日程 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 (有験者特別) | 2017年 8月30日(水)) 9月8日(金) | 2017年 9月30日(土) | 2017年 10月10日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月17日(火) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| 後期日程 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 (有験者特別) | 2018年 1月29日(月)) | 2018年 2月24日(土) | 2018年 3月6日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | 博士後期 ^{※1} | 一般 | 2月8日(木) | | | | |

※1…博士後期課程は後期日程のみ実施。

※2…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
 外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※3…入学手続の概要は以下のとおり。

| | |
|---------------------|------------------------|
| 【第一次入学手続】 | 入学金の納入のみ |
| 【最終入学手続】 | 授業料等の納入及び入学手続書類の送付 |
| 【入学手続（後期日程）】 | 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付 |

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

①当日の試験、②出身大学の成績 によって行います。

博士後期課程

①当日の試験、②出身大学院の成績、③研究計画書 によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|----------------|--------------|---|
| 一般 | 10:00 } | 英語（必須）と専門科目（1問選択） ・専門科目は6問の中から試験当日1問選択。 ・英和辞典1冊持込可（電子辞書又はこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | 12:00 | |
| 社会人 （有験者特別） | 13:00** } | 面接 |
| | 13:00** | |

※…面接の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

博士後期課程

| 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|------|--------------|---|
| 一般 | 10:00 } | 英語 ・英和辞典1冊持込可（電子辞書又はこれに類する機器の持込は不可）。 |
| | 12:00 | |
| | 13:00** } | 面接 |
| | 13:00** | |

※…面接の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

博士前期（修士）課程

一般選抜———名古屋キャンパス14号館1階 ロビー 9:30集合
社会人（有験者特別）選抜——名古屋キャンパス14号館1階 ロビー 12:30集合

博士後期課程

一般選抜———名古屋キャンパス14号館1階 ロビー 9:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|---|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------------------|--|
| 志願書 【巻末書類】 | <p>① 巻末—経営学・志願書を使用すること。</p> <p>② 「志望指導教員名」欄は、後掲「教員組織」を参照の上、選択して記入すること。 博士前期（修士）課程…第二志望まで記入 博士後期課程 …第一志望のみ記入</p> <p>③ 「修士論文又は卒業論文」欄は、博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。 ※博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者で卒業論文を作成した者は卒業論文について、その題目と概要を記入（作成途中の場合は予定を記入）。 ※学部卒業者で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。</p> <p>④ 「入学後の研究計画案」欄は、博士前期課程（修士）課程志願者のみ記入すること。 ※別紙にて提出する場合は記入不要。</p> |
| 卒業証明書 (含見込) | <p>〈博士前期（修士）課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）の者は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 職業経験の概要を 記した書類 | <p>〈博士前期（修士）課程 社会人（有験者特別）選抜志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業経験の概要を記した書類の提出可（任意）、書式自由。 |
| 論文 | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <p>次の①②を提出すること。</p> <p>① 修士論文又はこれに代わる業績 1部</p> <p>② 上記①の要旨（A4判用紙、2,000字程度） 1部</p> <p>※上記①②いずれもコピー可。返却はしない。</p> |
| 研究計画書 【巻末書類】 | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科で研究したいテーマ及び研究計画について記述すること（4,000字程度）。 ・書式自由、ただし所定の表紙「巻末—研究計画書」をつけること。 |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|------------------|---|
| 日本語の学力に 関する書類 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 さらに、次の①②に該当する者は指定する書類を提出すること。 ① 「日本語能力試験N1レベル又は1級」を受験した者は、成績証明書を必ず提出。 ② 「日本留学試験」を受験した者は、受験票を必ず提出（本学が日本学生支援機構へ成績照会が可能な回のうち本人が「日本語」の成績照会を希望する回のもの）。 |
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|---|
| 身元保証書 【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末—身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | <ul style="list-style-type: none"> ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

中京大学は、1991年4月に本学8番目の学部として経営学部経営学科を開設し、さらに学部の完成年度を待って1995年4月に経営学部を母体とした経営学研究科修士課程を開設するとともに、1997年4月には同博士後期課程を開設した。

経営学研究科博士前期（修士）課程においては、理論、実践、国際化を3つの柱としたカリキュラム及び教員構成を基本とし、一般学生の他に社会人、留学生に対して門戸を開いている。

経営学研究科は実践的側面よりも、理論や国際化などを重視するアカデミックな性格を有しており、それは教員構成にも現れている。10人の専任教員のなかにはイギリス及び韓国出身の2人の教員がおり国際色豊かである。

なお、経営学研究科では、2017年度から「社会人選抜（有験者特別選抜）」を新設し、オープン・カレッジや市民講座などでは物足りなく、よりアカデミックな雰囲気の下で知識を深め、これまでの職業経験を生かした本格的な経営学の研究を考えている社会人（定年退職者を含む）を受け入れる体制を整えている。

1997年度4月に発足した博士後期課程においては、指導教員のもとに、博士前期（修士）課程を終えた大学院生が博士号の取得を目指してさらなる研究を進め、既に昨年度までに15人の学位取得者を輩出している。なお、2000年度より博士後期課程の大学院生の論文を中心とした「中京経営紀要」（年刊）を発刊している。

1. 学位取得について

時間割は月曜日から金曜日の第1時限（9:00～10:30）から第6時限（18:20～19:50）となっている。

修士の学位を得るには原則として2年間で32単位（演習1年間4単位 計8単位含む）を修得し、これに加えて修士論文試験に合格すれば修士（経営学）の学位が授与される。

なお、博士後期課程においては、入学時より指導教員の研究指導のもと、計画的に研究が進められるよう3か月ごとに研究の進捗度合いを評価する。さらに、下記のような日程で有能な大学院生が3か年で博士号を取得できるように研究指導を進める。

| | | | |
|---------|----------------|-------------|--------------|
| 第1年次10月 | 博士論文の中間報告 | 第3年次11月から2月 | 複数回の論文審査（口述） |
| 第2年次10月 | 博士論文の中間報告 | 第3年次3月 | 博士論文の審査終了 |
| 第3年次10月 | 博士論文の原稿提出、予備審査 | | |

2. 大学院生の研究環境

経営学研究科では、ハードとソフトの両面で大学院生のための充実した研究環境を整えている。まず、ハード面では、大学院生共同研究室を設けており、在学生全員に対して専用のスペースと専用のパーソナル・コンピュータ（学内LANを通じたインターネット接続可能）を提供している（プリンターは共用）。また図書館は午後10時まで利用可能である。ソフトの面では、コピーカードの支給、図書購入費用の補助、学会参加費用の補助などを行っている。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●経営学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、グローバル化、情報化、学際化の流れの中で高度の専門職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを教育研究上の目的として設定している。
- (2) 博士後期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした基本目的に基づき、専門的研究者の養成を教育研究上の主要目的として設定している。

9. 教員組織

経営学研究科長 佐藤 祐 司

| | | | |
|------------------|-----------|-------------|-----------------|
| 博士前期課程 (修士課程) | 専任教授 | 森 田 統 一 郎 * | 経営原理研究 |
| | 専任教授 | 入 江 恭 平 * | 国際金融研究 |
| | 専任教授 | 八 リ ス , R . | 国際コミュニケーション研究 |
| | 専任教授 | 中 條 秀 治 | 経営組織研究 |
| | 専任教授 | 梅 田 守 彦 | 企業会計研究 |
| | 専任教授 | 佐 藤 祐 司 | 経営科学研究 |
| | 専任教授 | 浅 井 紀 子 | 生産管理研究 |
| | 専任教授 | 向 日 恒 喜 | 情報管理研究 |
| | 専任教授 | 銭 佑 錫 | 国際経営研究 |
| | 専任教授 | 山 崎 喜 代 宏 | 経営戦略研究 |
| | 専任准教授 | 櫻 井 雅 充 | 人的資源管理 |
| | 兼任教授 | 寺 岡 寛 * | 中小企業研究 |
| | 兼任教授 | 中 村 雅 章 * | 経営情報研究 |
| | 兼任教授 | 吉 田 康 英 * | 簿記原理研究 |
| | 兼任教授 | 中 西 眞 知 子 * | マーケティング研究 |
| | 兼任教授 | 永 石 信 * | 国際ビジネス戦略研究 |
| | 兼任教授 | 矢 部 謙 介 * | 経営財務研究 |
| 兼任教授 | 川 端 勇 樹 * | 経営管理研究 | |
| 博士後期課程 | 専任教授 | 森 田 統 一 郎 * | 経営原理特殊研究 |
| | 専任教授 | 入 江 恭 平 * | 国際金融特殊研究 |
| | 専任教授 | 八 リ ス , R . | 国際コミュニケーション特殊研究 |
| | 専任教授 | 中 條 秀 治 | 経営組織特殊研究 |
| | 専任教授 | 梅 田 守 彦 | 企業会計特殊研究 |
| | 専任教授 | 佐 藤 祐 司 | 経営科学特殊研究 |
| | 専任教授 | 浅 井 紀 子 | 生産管理特殊研究 |
| | 専任教授 | 向 日 恒 喜 | 情報管理特殊研究 |
| | 専任教授 | 銭 佑 錫 | 国際経営特殊研究 |
| | 専任教授 | 山 崎 喜 代 宏 | 経営戦略特殊研究 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

| 教員名 及び 専攻分野 | 専攻分野の内容 |
|--|--|
| <p>MORITA, Toichiro 森田 統一郎 経営原理研究 Principles of Business Management</p> | <p>資本主義の一般的本質・内容、その歴史的発展、さらには今日の企業における諸問題を解明するとともに、企業経営の管理に関する諸学説及び現実の企業経営における管理の諸原則・基本原理を検討する。 特に技術的発展、労働過程・生産管理の変化と関連させながら、現実の企業管理に関する諸問題を考察する予定である。 [著書]『オートメーションと労働組織』(税務経理協会)1997年、「自動化と熟練」(中京経営研究, 第8巻, 第1号)1998年。 [学位] 修士(経営学)(神戸大学)</p> |
| <p>IRIE, Kyohei 入江 恭平 国際金融 International Finance</p> | <p>国際経営の前提になる国際通貨システムを様々な角度から検討する。国際通貨システムを構成する外国為替制度を理論化した後、国際通貨、国際金融市場、国際銀行業などのテーマを取り上げたい。 [著書]『金融の世界史』(共著)(悠書館)2012年、『金融グローバル化の理論』(共著)(大月書店)2006年、『アジアの証券市場』(共著)(東大出版会)1992年、『図説 イギリスの証券市場』(共著)(日本証券経済研究所)2009年。[論文]「日本のベンチャーキャピタルと対アジア投資」(中京経営研究, 第2巻, 第2号)1992年4月。「新通貨ユーロ導入とヨーロッパ資本市場」(中京経営研究, 第11巻, 第2号)2002年2月。「ユーロ域の企業金融と資本市場」(中京経営研究, 第17巻, 第1・2号)2007年12月。「世界金融危機」(中京経営研究, 第21巻, 第1・2号)2012年3月。 [学位] 修士(経営学)(大阪市立大学)</p> |
| <p>HARRIS, Richard ハリス, R. 国際コミュニケーション International Communication</p> | <p>Differences between cultures are the result of many complex factors — economic, geographic, linguistic, religious and historical. My research interest is in the ways in which these different cultural identities are embodied in the myths and metaphors of a society, giving rise to generally held but often unacknowledged social values. I am further interested in how these values are expressed in word and image and in how these emblems or symbols of cultural identity affect relations with representatives of other cultures with different symbolic referents and divergent value systems. [著書] PARADISE: A CULTURAL GUIDE (TIMES ACADEMIC PRESS, SINGAPORE) 1996, 2003. [学位] 博士(コミュニケーション)(ニュー・メキシコ大学)</p> |
| <p>CHUJO, Hideharu 中条 秀治 経営組織、経営管理 Organization Theory, Management</p> | <p>経営学の一分野である経営組織論及び経営管理論は「運営」に関わる学問である。団体運営の仕組みである組織をどう構築し、それをいかに運用するかが重要なテーマとなります。 通常は、株式会社という営利団体の運営が議論の中心となりますが、ボランティア団体などの非営利団体の運営を対象とすることも可能です。私が現在取組んでいる研究テーマは株式会社の成立原理やその内部構造の解明などです。 [著書]『企業組織とグローバル化』(共著)(世界思想社)2006年、『株式会社新論』(文真堂)2005年、『組織の概念』(文真堂)1998年、『戦略的組織論の構想』(共著)(同文館)1999年、『現代企業論講義』(共著)(中央経済社)1989年。 [学位] 博士(商学)(早稲田大学)</p> |
| <p>UMEDA, Morihiko 梅田 守彦 会計学 Accounting</p> | <p>以前は企業の経営管理に資する会計情報に関するところがテーマとしていたのですが、最近の私の関心は大学行財政・大学経営をめぐる問題へと移ってきました。ただし講義においては、大学などの非営利組織体を中心に取り上げるのではなく、企業の経営成績を判断したり企業価値を評価したりするための会計情報の活用方法について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。 [著書]『私立大学の財政分析ができる本』(共著)(大月書店)2001年、「私立大学財政の若干の課題について」『公会計研究』第4巻第1号, 2002年。 [学位] 修士(商学)(慶應義塾大学)</p> |

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

SATO, Yuji
佐藤 祐司
経営科学
Operations Research

企業や自治体等の組織の管理・運営には、その構成主体による合理的な選択と非合理的な選択が混在しています。オペレーションズ・リサーチの方法論、とくに客観情報に基づく規範的意思決定のあり方を探索するゲーム理論や、主観情報を基にした記述的意思決定のあり方を分析する階層化分析法を用いて、組織の管理・運営のより良いあり方について研究しています。

〔著書〕 *The Analytic Hierarchy & Network Process—Application in Solving Multi-criteria Decision Problems* (joint work) (Jagiellonian University Press) 2008.

〔論文〕 “Investment Performance Analysis of Industrial Products: Case of an Effluent Processing Facility at a Chemical Company” (joint work) (*International Journal of Production Economics*, forthcoming) 2017, “An Integrated Marginal Analysis approach for build-to-order Products” (joint work) (*International Journal of Production Economics*, Vol. 170) 2015, “Optimal Budget Planning for Investment in Safety Measures of a Chemical Company” (*International Journal of Production Economics*, Vol. 140) 2012.

〔学位〕 博士 (工学) (慶應義塾大学)

ASAI, Noriko
浅井 紀子
生産管理
Production Management

Focusing on the concept of 『Synthesiology』, this course examines how the nature of technology affects global competitive position. The special topics in Production Management are IoT and AI. Emerging technologies such as Robot revolution, Hydrogen society, Aerospace will alter the business or social landscape. Huge technological system composes wide range of element technologies. The technologies have a huge potential economic impact that will drive truly massive economic transformations and create value network that will eventually replace existing products.

〔著書〕 *Changes in Society and Conversion of Industrial structures through the fourth industrial revolution*, *Chukyo Keiei Kenkyu*, Vol. 26, 2016.

〔学位〕 博士 (経済学) (名古屋大学)

MUKAHI, Tsuneki
向日 恒喜
情報管理
Information Management

情報管理のツールである情報システムと、情報管理を行う人間との関係に注目し、情報システムが企業組織、職務、そして人間に与える影響について研究する。特にアンケート調査によるアプローチを中心とし、人間をも含めた情報システムのあり方について検討していく。

〔著書〕 『人間と情報システム—アンケート調査による研究—』 (税務経理協会) 2000年、『電子掲示板における信頼、個人特性、参加者特性が情報共有・伝播に与える影響』 (経営情報学会誌、第17巻、第1号) 2008年、『企業組織におけるソーシャル・キャピタルと知識創造プロセスとの関係』 (経営情報学会誌、第17巻、第4号) 2009年。

〔学位〕 博士 (工学) (大阪工業大学)

JUHN, Wooseok
銭 佑錫
国際経営
International Business
Management

企業のグローバルな事業展開が大きな研究テーマである。現在は、その中でもグローバル事業における海外子会社の創造的な役割に焦点を当てて研究を進めている。方法論としては、事例分析と統計分析をまじえた分析手法を目指している。

〔著書〕 『日本型経営・生産システムとEU—ハイブリッド工場の比較分析—』 (共著) (ミネルヴァ書房) 2005年、『グローバル経済下のアメリカ日系工場』 (共著) (東洋経済新報社) 2006年、『中東欧の日系ハイブリッド工場』 (共著) (東洋経済新報社) 2006年、『日本石油・ガス企業の国際競争戦略—国際石油メジャー・日本製造企業との比較—』 (共著) (ミネルヴァ書房) 2008年、『ラテンアメリカにおける日本企業の経営』 (共著) (中央経済社) 2009年、『中国における日・韓・台企業の経営比較』 (共著) (ミネルヴァ書房) 2010年、『日本多国籍企業の海外子会社におけるイノベーションの創出—『創造型』海外子会社の可能性—』 (『中京経営研究』第20巻第1・2号) 2011年。『自動車部品企業の生産現場能力に関する日韓比較—技術と技能の観点から—』 (『中京経営研究』第20巻第1・2号) 2012年。『ボッシュの国際経営—グローバルな社内標準化と『創造型』海外子会社—』 (『赤門マネジメント・レビュー』第13巻第6号) 2014年。

〔学位〕 修士 (経済学) (東京大学)

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

YAMAZAKI, Kiyohiro

山 崎 喜代宏

経営戦略

Strategic Management

製造企業、とりわけエレクトロニクス企業の経営戦略について研究している。特に、現在は「製品において基盤的な技術を保有しない企業が、どのように競争をし、優位性を構築していくのか」というテーマを考察している。通常、技術や資源を保有する企業が競争優位に立つと考えられるが、そのような資源を持たない企業でも戦略によっては、競争力を持つことができる。一見すると不利で厳しい状況にある企業が強さを発揮するというような逆説的な経営現象に興味を持ち、その戦略や論理を探求している。

〔著書〕「中核技術を保有しない企業の戦略に関する研究—その優位性の論理—」(博士論文) 2009年。「先行産業における製品開発が新産業での製品開発に及ぼす影響」(『中京経営研究』第19巻第1号) 2009年。「Advantages of the Firm without Center Technology: A Case Study of Casio Computer」(『中京経営研究』第19巻第2号) 2010年。

〔学位〕博士(経営学) 神戸大学

SAKURAI, Tadimitsu

櫻 井 雅 充

人的資源管理

Human Resource Management

人的資源管理が従業員のアイデンティティ形成に与える影響について研究しています。人的資源管理は、従業員の管理に関するあらゆる取り組みを扱う領域ですが、その根底には従業員の資源性を最大限に発揮させようとする考え方があります。そうした考え方に基づいた様々な取り組みが、管理の対象となる従業員の性質の変容に及ぼす影響について関心を抱いています。

〔著書〕「HRM が構成する現実：ERP パッケージ導入を通じた給与計算業務改革」(共著)(日本情報経営学会誌、第34巻、第2号) 2014年、「HRM 研究における研究成果の有用性を巡る—考察—プラグマティズムの真理観を手掛かりにして—」(経営学史学会年報、第19輯) 2012年。

〔学位〕博士(経営学) 神戸大学

工学研究科

設置キャンパス：名古屋

機械システム工学専攻 【修士課程】

電気電子工学専攻 【修士課程】

設置キャンパス：豊田

情報工学専攻 【修士課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

- 学内特別選抜については別冊子『**2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項**』（**教学部大学院事務課窓口にて配付**）を参照してください。

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分（選抜方式）* | 入学定員 |
|-----|----------|----|-------------|------|
| 工学 | 機械システム工学 | 修士 | 一般・学内特別選抜 | 7名 |
| | 電気電子工学 | 修士 | 一般・学内特別選抜 | 7名 |
| | 情報工学 | 修士 | 一般・学内特別選抜 | 8名 |

※同一日程における複数の試験区分の併願不可。

学内特別選抜については別冊子『2018年度中京大学大学院【学内特別選抜】入学試験要項』（教学部大学院事務課窓口にて配付）を参照してください。

2. 出願資格

| 試験区分 | 出願資格 |
|------|--|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者 ②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者 ⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者 ⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者 <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。 対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※1} | | 試験日 | 可否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※2} | |
|------|----------|----|------|--------------------|---|-------------------|-------------------|---|---------------------|
| | | | | 最終日 消印有効 | | | | 消印有効 | 入学辞退 手続締切日 必着 |
| 前期日程 | 機械システム工学 | 修士 | 一般 | 2017年 6月12日(月) | } | 2017年 6月30日(金) | 2017年 7月14日(金) | 【第一次入学手続】 2017年 7月21日(金) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | 電気電子工学 | | | 6月16日(金) | | 7月1日(土) | | | |
| | 情報工学 | | | | | | | | |
| 後期日程 | 機械システム工学 | 修士 | 一般 | 2018年 1月15日(月) | } | 2018年 2月9日(金) | 2018年 2月22日(木) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | 電気電子工学 | | | 1月25日(木) | | 2月10日(土) | | | |
| | 情報工学 | | | | | | | | |

※1…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※2…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
- 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
- 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

志願にあたっては、志望指導教員との事前面談が必要です。出願期間前に期日の余裕をもって教学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。

※中京大学工学部学生は、直接志望指導教員に連絡を取り面談を受けてください。

4. 選抜方法

①当日の試験（筆記試験・口頭試問）、②出身大学の成績、③卒業論文又はこれに代わる業績を記す書類、④研究計画書 によって行います。

5. 試験科目・時間等

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|----------|------|------|---|
| 機械システム工学 | 一般 | 1日目 | 英語 ・英和辞典1冊持込可（ただし、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 英語試験については、次の①～③を選択し出願時に申請することができる（志願書に記入）。 ①本学が試験当日実施する英語試験（10：00～11：30）のみを受験。 ②これまでに受験した英語試験の結果※を提出（本学にて結果を点数化）。本学が試験当日実施する英語試験を受験しない。 ③本学が試験当日実施する英語試験（10：00～11：30）を受験。さらに、これまでに受験した英語試験結果※を提出（本学にて結果を点数化）。高得点のものを合否判定に使用することを希望。 ※これまでに受験した英語試験は、「TOEIC L&R（IPテスト含む）」「TOEFL PBT」「TOEFL iBT」が対象となる。 |
| | | | 専門科目 次の3科目すべて解答。 ①数学 ②機械システム ③プログラミング 【出題範囲】 ①数学：幾何学、解析学、線形代数学 ②機械システム： 機械力学、機械設計製作、電気・電子回路、生産システム ③プログラミング：C言語 *すべての分野又は一部の分野から出題。 |
| | | 2日目 | 口頭試問 ・研究業績及び研究計画を中心に口頭試問を行う。 ・機材・資料等すべて持込みなしの口頭のみで実施する。 |

工
学

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | | 試験科目 |
|--------|------|------|---------------------|--|
| 電気電子工学 | 一般 | 1日目 | 10:00 ┆ 11:30 | 英語 ・英和辞典1冊持込可（ただし、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 英語試験については、次の①～③を選択し出願時に申請することができる（志願書に記入）。 ①本学が試験当日実施する英語試験（10:00～11:30）のみを受験。 ②これまでに受験した英語試験の結果※を提出（本学にて結果を点数化）。本学が試験当日実施する英語試験を受験しない。 ③本学が試験当日実施する英語試験（10:00～11:30）を受験。さらに、これまでに受験した英語試験結果※を提出（本学にて結果を点数化）。高得点のものを合否判定に使用することを希望。 ※これまでに受験した英語試験は、「TOEIC L&R（IPテスト含む）」「TOEFL PBT」「TOEFL iBT」が対象となる。 |
| | | | 13:00 ┆ 15:00 | 専門科目 次の3科目すべて解答。 ①数学 ②電気・電子回路 ③電磁気学 【出題範囲】 ①数学：幾何学、解析学、線形代数学 ②電気・電子回路：科目名が出題範囲を示す ③電磁気学：科目名が出題範囲を示す |
| | | 2日目 | 10:00* ┆ | 口頭試問 ・研究業績及び研究計画を中心に口頭試問を行う。 ・受験生自らパソコンを持参し、それを使用した研究計画の報告を認める。 |
| 情報工学 | 一般 | 1日目 | 10:00 ┆ 11:30 | 英語 ・英和辞典1冊持込可（ただし、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可）。 英語試験については、次の①～③を選択し出願時に申請することができる（志願書に記入）。 ①本学が試験当日実施する英語試験（10:00～11:30）のみを受験。 ②これまでに受験した英語試験の結果※を提出（本学にて結果を点数化）。本学が試験当日実施する英語試験を受験しない。 ③本学が試験当日実施する英語試験（10:00～11:30）を受験。さらに、これまでに受験した英語試験結果※を提出（本学にて結果を点数化）。高得点のものを合否判定に使用することを希望。 ※これまでに受験した英語試験は、「TOEIC L&R（IPテスト含む）」「TOEFL PBT」「TOEFL iBT」が対象となる。 |
| | | | 13:00 ┆ 15:00 | 専門科目 次の6科目から試験当日3科目選択して解答。 ①数学 ②プログラミング ③データ構造とアルゴリズム ④計算機基礎 ⑤画像処理・CG ⑥メディア応用 【出題範囲】 ①数学：幾何学、線形代数学 ②プログラミング：C言語 ③データ構造とアルゴリズム：科目名が出題範囲を示す ④計算機基礎：アーキテクチャ、デジタル回路 ⑤画像処理・CG：科目名が出題範囲を示す ⑥メディア応用：映像メディア、音響メディア |
| | | 2日目 | 10:00* ┆ | 口頭試問 ・研究業績及び研究計画を中心に口頭試問を行う。 ・受験生自らパソコンを持参し、それを使用した研究計画の報告を認める。 ・口頭試問において、受験生自らが準備した印刷物を配布することを認める。 ※印刷物の準備部数は5部とする。 ・口頭試問において、受験生自らが準備した作品の持ち込みを認める。 |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

機械システム工学専攻・電気電子工学専攻

〈英語を受験する場合〉

名古屋キャンパス0号館（センタービル）正面入口（建物内） 9：30集合

〈英語を受験しない場合〉

名古屋キャンパス0号館（センタービル）正面入口（建物内） 12：30集合

情報工学専攻

〈英語を受験する場合〉

豊田キャンパス11号館1階ロビー 9：30集合

〈英語を受験しない場合〉

豊田キャンパス11号館1階ロビー 12：30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。
- ⑥志願にあたっては、志望指導教員との事前面談が必要です。出願期間前に余裕をもって教学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。
※中京大学工学部学生は、直接志望指導教員に連絡を取り面談を受けてください。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|--|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ①巻末一工学・志願書を使用すること。 ②「志望指導教員名」欄は、後掲「教員組織」を参照の上、選択して記入すること。 ③出願前に志望指導教員に連絡を取り面談を受けること。面談後、志望指導教員に「面談年月日」欄の記入・捺印を依頼すること。 ※指導教員は入学確定後に最終決定する。 ④「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。 ⑤「卒業論文又はこれに代わる業績の概要」欄について、出願時点で作成途中の場合は予定を記入すること。※別紙にて提出する場合は記入不要。 |
| 卒業証明書 (含見込) | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）の者は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 成績証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 |
| 英語試験結果 (スコア) | <p>〈試験当日実施する英語試験を受験しない場合〉又は 〈試験当日実施する英語試験を受験するが以下の英語試験結果の点数化を希望する場合〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のいずれかのスコア票の写しを提出すること（複数の提出も可）。 TOEIC L&R（IPテスト可）／TOEFL PBT／TOEFL iBT |
| 研究計画書 | <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科で研究したいテーマ・内容について記入すること（書式自由）。 |
| 論文 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文又はこれに代わる業績を記す書類 ※コピー可。返却はしない。 ※論文が未完の場合は提出不要。 ※本学工学部、情報理工学部、情報科学部、生命システム工学部卒業者（含見込）は提出不要（論文概要は上記「志願書⑤」にあるとおり、提出必須）。 |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|--|
| 日本語の学力に関する書類 | ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 |
| 住民票 | ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | ・ 巻末—身元保証書 を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

工学研究科 機械システム工学専攻

修士課程

機械システム工学専攻では、人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術、システム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成することをねらいとしている。そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論、特論での知識を深め定着させる演習系のセミナー及び研究を主体とした機械システム工学特別実験及び演習を配置している。これらの科目で養成された専門能力を生かし、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

特論及びセミナーは、学生の想定進路をもとに3つの履修モデルに分類された先進的研究教育が受けられる。

1. 機械技術系分野では、メカトロニクス、知能制御、機械制御や機械計測についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
2. 情報技術系分野では、センサ情報処理、生体情報処理、画像処理についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
3. システム技術系分野では、マン・マシンシステム、システム材料、生産システムについて、理論と実践の両面から高度な専門性を獲得する。
4. 機械システム工学特別実験及び演習は、研究指導及び論文指導を含み、修士にふさわしい研究を行うための活動である。この科目では機械システム技術者として必要な問題発見及び問題解決能力、研究計画立案・研究推進能力を養うとともに、学会等での対外活動や外部との共同研究や企画・プレゼンテーション・知的財産保護ができる能力を養成する。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●機械システム工学専攻の「人材の養成に関する目的」

人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術及びシステム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成する。具体的には、機械装置やロボット等の研究開発を行う「機械技術系分野」、制御システムや知的マシン等の研究開発を行う「情報技術系分野」、生産システム等の研究開発を行う「システム技術系分野」の3つの分野の技術者を養成する。また、研究計画を立て自由な議論を行いながら研究を行い、事実に対する観察・調査・問題発見能力、指導力、プレゼンテーション能力及び報告書作成能力を持つ人材を養成する。さらに、起業家精神を有し、経営・管理運営に能力を発揮する人材及び新技術・新産業分野の開拓に能力を発揮する人材を養成する。

工学研究科 電気電子工学専攻

修士課程

電気電子工学専攻は、数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係性に優れた、応用力のある高度専門技術者及び研究者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。

そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論科目、専門知識を深め定着させる演習系のセミナー科目、及び研究を主体とした研究指導科目を置く。これらの科目で養成された専門能力を活かし、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

専門科目は、将来の進路を想定して5つの履修モデル（下記）に分類されており、電気・電子・情報・通信の幅広い分野をバランスよくカバーしている。

1. エレクトロニクス分野では、デバイス、電子回路、組込みシステム等についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
2. 制御・メカトロニクス分野では、ロボット、制御システム等についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。
3. 情報・画像分野では、情報システム、画像応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身につけることができる。

4. 通信・電波分野では、無線通信システム、電波応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。
5. 電気分野では、電力システム、電気機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身に付けることができる。

研究指導科目は、個別指導による研究活動を通して、問題を発見し解決する能力、高度な専門的能力とイノベーション創出能力、予測困難な問題に対する柔軟な対応能力等を身につけるが、更に、企業との共同研究、学会活動等を通じて、外部と切磋琢磨し協同する能力、自己表現する能力、対人関係力等を併せ身に付けることができる。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●電気電子工学専攻の「人材の養成に関する目的」

数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。また、デバイスとシステムのように異なる専門領域に強みを持つ人材の養成を重視する。具体的には、デバイス、電子回路、組込みシステム等の研究開発を行う「エレクトロニクス分野」、ロボット、制御システム等の研究開発を行う「制御・メカトロニクス分野」、無線通信システム、電波応用機器等の研究開発を行う「通信・電波分野」、情報システム、画像応用機器等の研究開発を行う「情報・画像分野」、電力システム及び電気機器等の研究開発を行う「電気分野」の5つの分野の技術者を養成する。

工学研究科 情報工学専攻

修士課程

情報工学専攻では、人と人をつなぐメディア技術と、それを構成するソフトウェア技術、及びその基盤となる情報システム技術に精通し、それらの技術を駆使して表現することにより、最終的に情報科学における高度な技術と知識を身につけ、それらを製品やシステムに組み込むことができる専門技術者、及び将来の情報技術への貢献に寄与できる研究者を養成する。

社会の中でのメディア・情報技術の役割を理解し、地域や国際社会の情勢も視野に入れつつ、工学のみならず、自然科学・社会科学の諸分野とも連携しながら、社会的責任を果たすことができる力を身につけることをめざす。

そのためカリキュラムでは、計算機システム、情報処理システム、画像情報処理、知能情報処理、メディアシステム、画像とCG、コミュニケーションと創造性等、それぞれに対して幅広く基礎を学ぶ特論科目と、分野ごとに専門的に学ぶセミナー科目を配置している。これらの科目で育成された専門能力を活かしながら、特定分野の課題に関し専門的研究を実施し、修士論文としてまとめる。

具体的には、以下の3つの履修モデルに基づき専門教育を行いつつ、これらの分野が協力し、学外交流及び地域や海外との連携を通して、実践的で視野の広い研究を展開できる環境を整える。

1. 情報システム分野では計算機システム、ネットワークシステムなどの情報システム系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。
2. ソフトウェア開発分野では情報処理、データベース管理などのソフトウェア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。
3. 情報メディア分野ではメディア・インターフェース、メディア表現などの情報メディア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につけることができる。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●情報工学専攻の「人材の養成に関する目的」

数理的な思考力とハードウェア、ソフトウェア及びメディア・データ処理の専門知識を持ち、システム設計構築、運用管理のできる高度専門技術者を養成する。具体的には、インフラストラクチャ系システムの設計構築や運用等に関わる「情報システム分野」、画像応用や知識情報処理分野での高度なアプリケーションソフトウェアの設計や実装を行う「ソフトウェア開発分野」、さらには、これらのシステムを基盤としてコンテンツ開発や配信及びそれらのシステムを扱う「情報メディア分野」の3つの分野の技術者を養成する。

9. 教員組織

工学研究科長 長谷川 純一

機械システム工学専攻

| | | | |
|------|-------|------|----------------|
| 修士課程 | 専任教授 | 井口弘和 | 感性情報処理論セミナー |
| | 専任教授 | 種田行男 | 人間工学基礎1 |
| | 専任教授 | 沼田宗敏 | 機械計測論セミナー |
| | 専任教授 | 野浪亨 | 環境材料工学セミナー |
| | 専任教授 | 橋本学 | 画像センシング論応用セミナー |
| | 専任教授 | 森島昭男 | メカトロニクス論セミナー |
| | 専任教授 | 石原彰人 | 神経情報処理論基礎セミナー |
| | 専任教授 | 青木公也 | 画像情報論基礎セミナー |
| | 専任教授 | 加納政芳 | ロボット知能論セミナー |
| | 専任准教授 | 王建国 | 生産システム論基礎セミナー |
| | 専任准教授 | 清水優 | 知能機械開発論基礎セミナー |

電気電子工学専攻

| | | | |
|------|-------|----------|----------------|
| 修士課程 | 専任教授 | 白井英俊 | 統計的学習論 |
| | 専任教授 | 上林真司 | 電波応用工学 |
| | 専任教授 | 山中公博 | ハードウェア信頼性工学 |
| | 専任教授 | 磯直行 | デジタルシステム設計セミナー |
| | 専任教授 | ハルトノ・ピトヨ | 技術表現論 |
| | 専任准教授 | 須田潤 | 光エレクトロニクスセミナー |
| | 専任准教授 | 村中崇信 | プラズマ工学セミナー |
| | 専任准教授 | 田口博久 | 量子力学セミナー |
| | 専任准教授 | 平名計在 | システム制御工学セミナー |
| | 専任准教授 | 青森久 | 画像工学論 |

情報工学専攻

| | | | |
|------|-------|----------|----------------------|
| 修士課程 | 専任教授 | 長谷川純一 | 画像処理論セミナー |
| | 専任教授 | カール・ストーン | 音楽情報論セミナー |
| | 専任教授 | 宮田義郎 | コラボレーション論セミナー |
| | 専任教授 | 長谷川明生 | ネットワークコンピューティング論セミナー |
| | 専任教授 | 濱川礼 | ソフトウェア設計論セミナー |
| | 専任教授 | 伊藤秀昭 | データベース論セミナー |
| | 専任教授 | ラシキア城治 | ソフトウェア開発論セミナー |
| | 専任教授 | 小笠原秀美 | 知識情報運用論セミナー |
| | 専任教授 | 鈴木常彦 | 情報ネットワーク設計運用論セミナー |
| | 専任教授 | 大泉和文 | インストール・アート論セミナー |
| | 専任教授 | 宮崎慎也 | コンピュータ・グラフィックスセミナー |
| | 専任教授 | 山田雅之 | メディア・インターフェース論セミナー |
| | 専任教授 | 目加田慶人 | パターン認識論セミナー |
| | 専任教授 | 瀧剛志 | 可視化シミュレーション論セミナー |
| | 専任准教授 | 土屋孝文 | 知識情報処理論セミナー |
| | 専任准教授 | 上芝智裕 | 情報デザイン論セミナー |
| | 専任准教授 | 曾我部哲也 | メディア・アート論セミナー |
| | 専任講師 | 中貴俊 | ネットワーク・メディア論セミナー |
| | 専任講師 | 鬼頭信貴 | 計算機アーキテクチャ論セミナー |
| | 専任講師 | 道満恵介 | コンピュータ・ビジョンセミナー |

10. 教員の研究分野の紹介

機械システム工学専攻

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

IGUCHI, Hirokazu

井口 弘 和
感性情報処理論
Kansei Informatics

環境や事象の変化をヒトは多面的に捉えて適応する力を有している。人に優しい環境やヒューマンインターフェース、及び人と共存する機械を創造するには、ソフトウェア情報としての感性の特性が必要となる。この観点から、心理・生理状態のセンシング技術とマルチモーダルな人間の特性を解析する情報処理論及び、その結果の活用法について論じる。

OIDA, Yukio

種田 行 男
健康増進学
Health Promotion

現代の健康増進は健康障害が起りやすい高リスク者を対象とするのみならず、比較的健康的な集団をも対象としてその水準を長期に渡って維持するような保健活動が重要視されている。この実現には、情報や機械工学技術を活用したヘルスプロモーション活動が不可欠であり、そのための研究開発を行う。

NUMADA, Munetoshi

沼田 宗 敏
機械計測
Mechanical Measurement

表面性状計測・光計測・画像計測などに関する研究を行う。具体的には、1) 表面粗さ用ローパスフィルタの特性を研究する、2) 実用化に適したロバストな計測手法を開発する、3) 三次元表面性状に関する新しい計測手法や評価手法を提案する。

NONAMI, Toru

野 浪 亨
生体材料／材料科学
Bio-material / Material Science

環境にやさしい（環境調和性）、人にやさしい（アメニティー性）材料を開発する事を目的に、生体材料や環境保全材料、環境低負荷型材料の研究を行っています。例えば、人工骨や人工歯根として応用するための生体に同化するセラミックス、水や空気をきれいにしたり、皮膚や歯の審美性を追及する触媒や、生体を模倣した環境に負荷を与えない製造プロセスなど私たちが安心・安全に生活できる環境を実現する材料（エコマテリアル）を作製し解析、評価を行います。

HASHIMOTO, Manabu

橋本 学
知的センシング
Intelligent Sensing

ロボットシステムの知能化のために不可欠な、外界を認識するための知的センシングに関する幅広い研究をおこなっている。特に「人間の眼」に相当する視覚機能の実現を目指し、世界最高レベルのパターン照合技術や、高精度でロバストな3次元物体認識技術、人間の感情や感性を読み取るためのセンシング技術を開発している。またこれらの独自技術を知能ロボットと融合させるための応用開発にも取り組んでおり、コンピュータサイエンスを駆使して実用レベルの知覚システムを実現している。

MORISHIMA, Akio

森島 昭 男
ロボティクス／メカトロニクス
Robotics / Mechatronics

本研究室では、強大な出力が要求される災害現場・工事現場の極限作業ロボットから、超精密な動作が必要な手術用マイクロロボット、また柔軟な制御が欠かせない生活環境ロボットなど、多様な環境におけるロボットを研究対象とする。そして、それぞれの動作環境に最適な形態としてのロボットのデザインを行い、それを実現するためのメカニズム・センサ・アクチュエータなどの設計・製作を行う。さらに、そのロボットの能力を最大限発揮させるための制御アルゴリズムの考案・プログラミングを行う。そして上記全ての検証は、実機のロボットを用いた動作実験により行っていく。

ISHIHARA, Akito

石原 彰 人
神経情報処理論
Neuroengineering and
Neuroinformatics

生物の感覚系や脳神経系における情報処理メカニズムに関する研究や、それをサポートする計算科学を応用した研究支援ツールの開発を行う。特に視覚系における動画処理機構に対して、構成するニューロンの細胞内組織レベルから詳細な数理モデルを構築し、生物の有する基本的な情報処理メカニズムの解明を目指している。

AOKI, Kimiyo

青木 公 也
画像処理／コンピュータビジョン
Image Processing /
Computer Vision

主に画像処理の産業的応用、ロボットビジョンに関する研究を行っている。前者については、例えば半導体素子や溶接部の非破壊検査の自動化システムを提案し、産学連携で研究を進めている。後者については、次世代ロボットにおける知的ビジョンシステムの開発に従事し、距離画像処理を軸とする3次元物体・環境認識のアルゴリズムを提案している。

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

KANO, Masayoshi

加納 政芳

知能ロボティクス

Artificial Intelligence and Robotics

人と共生するためのロボットについて研究する。具体的には、1) ロボットの身体性に基づいた感情表出を行うことで、人とロボットとのコミュニケーションに心理的インタラクションを創発させる、2) 不確実性や想定外の変化が起こる実環境に適応的に対処するための制御則を、学習・進化を通じて自動的にロボットに獲得させる、3) ヒューマノイドロボットのモーション生成・制御時の非転倒性や非干渉性などをチープデザインに基づいて制御する。

JIANGUO, Wang

王 建国

経営組織論

Organization Theory

経営組織論は企業の経営活動を円滑に効率よく進めるための分業と協力のあり方を探求する学問である。企業の生産現場から、国民経済・世界経済に至るまで様々なレベルでの経済現象を「競争」と「協働」という二つの観点から捉えられるし、編成することもできる。「協働」と「競争」の視点から経済システム全体を包括し得る枠組みを構築することを研究の目標としているが、実証研究も重視し、特にトヨタ生産システムに代表される生産管理の研究に関心をもっている。

SHIMIZU, Masaru

清水 優

移動ロボット

Mobile Robot

小型移動ロボットのための要素技術の研究・開発、その応用としてレスキューロボットの開発を行っている。具体的には、小型ロボットへの実装を目標に、不整地や瓦礫内のための移動機構、ロボットの位置測定システム、学習・行動計画ソフトウェアなどの開発に取り組んでいる。

電気電子工学専攻

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

SHIRAI, Hidetoshi

白井 英俊

計算言語学

Computational Linguistics

コンピュータを人間なみに賢くするための機械学習の研究に関心がある。人間は言葉を思考やコミュニケーションの手段として発達してきた。コンピュータも人間と同様に、文脈にそって言葉を理解し、新しい情報を抽出し、その内容と文脈に基づいて適切な応答や行動を行うためには、そのような機能をコンピュータが備えていかなければならないか、という問題を焦点として研究を進めている。

中でも学習によって言葉を獲得する、画像情報から情報を抽出し、その状況を言葉で説明したり、質問に答えたりするシステムの開発に取り組んでいる。

UEBAYASHI, Shinji

上林 真司

電波工学

Electromagnetic Wave Engineering

電波工学、電波応用工学、特に無線通信工学をカバーする。当面は、高周波帯における電波伝搬特性の解明（電磁界解析手法を用いた電波伝搬評価法等）、超高速無線伝送技術の研究（見通し環境における MIMO 無線伝送技術等）、移動通信における位置推定技術の研究（基地局-端末間の見通しが無いときの位置推定法等）を研究テーマとする。

YAMANAKA, Kimihiro

山中 公博

エレクトロニクス実装工学
Electronics Packaging Technology

ますます高機能・小型化する携帯機器、さらに高性能化するサーバやスーパーコンピュータ、そして、環境対応へ加速しているハイブリッド車や電気自動車。いずれも、日本の得意分野であり、ものづくりの根幹であるエレクトロニクス実装技術なしには成り立たない製品である。研究室では、マイクロ接合技術とその信頼性技術、ギガ Hz デジタル信号の伝搬設計技術、環境にやさしいグリーンエレクトロニクス開発など、ハードウェアをコアにした技術を工学の観点から研究している。

ISO, Naoyuki

磯 直行

設計自動化

Design Automation

近年の集積化技術の発展により、VLSI やプリント配線板などの論理装置の設計データ量が增大している。さらに、今まで考慮していなかった物理的性質が顕在化するようになり、多くの制約を満足できるより良い解を高速に求められる新しい設計手法が生まれている。装置の設計開発期間の短縮のため、効率の良い設計手法や CAD アルゴリズムの開発を行っている。

HARTONO, Pitoyo

ハルトノ ピトヨ

計算知能

Computational Intelligence

計算機を用いた従来の情報処理アルゴリズムと自然界で見られる「知能的」な問題解決手法の間に大きな相違点がある。計算知能の分野では、計算機を用いて神経回路の学習能力、生物又は社会で見られる自己組織化や創発的な集団知能のような従来と異なる問題解決メカニズムの実現を目指す。これにより、新しい計算原理を構築できるだけでなく、生物学、物理学、工学や社会科学などの様々な分野に対し、新しい解析手法と知見を与えることが期待できる。

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

SUDA, Jun

須田 潤

計算材料科学／光物性工学
Computational Materials Science
／ Solid State Photonics

スーパーコンピュータの出現により、実験が極めて困難な物理現象の情報を短時間で得ることが可能になり、産業界においては、大規模シミュレーションの精密な予測により、製品設計において大幅なコストダウンをもたらすと期待されている。本研究室では、大規模シミュレーションとラマン分光実験の両面から光エレクトロニクス材料やパワーエレクトロニクス材料の高性能化を目的とする研究に取り組んでいる。

MURANAKA, Takanobu

村中 崇信

宇宙機工学／プラズマ工学
Spacecraft Engineering /
Plasma Engineering

近年、人工衛星による通信等のインフラは日常生活に不可欠となり、また宇宙探査機による深宇宙探査も拡大しつつある。これらの宇宙機（人工衛星や探査機）は、ミッション中に発生する宇宙プラズマや電気推進機から放出されるプラズマとの相互作用で、その信頼性に大きく影響を受けることが知られている。本研究室では、数値シミュレーションとプラズマ実験でこの相互作用を解析し、宇宙機の信頼性向上につながる技術開発を行っている。

TAGUCHI, Hirohisa

田口 博久

量子効果デバイス工学
Quantum Effect Device
Technology

Si を材料系とする電界効果トランジスタ（FET）の高性能化は微細化が中心となってきた。しかし材料系を化合物半導体とし、同時に化合物半導体のナノスケール積層構造を使用することにより、量子効果を得て FET 内部での電子速度の劇的な向上を得た。量子効果デバイスは様々な化合物半導体を用いて構築され実に多彩な性能を示す。これらの量子効果デバイス物性を高周波応答特性と光応答特性の両面から追求し、デバイス内部での電子挙動モデルの解明や、新規デバイス構造の提案・開発を目指す。

HIRANA, Kazuaki

平名 計在

ロボット制御
Control of Robotic System

離散値と連続値が混在する動的システムをハイブリッドダイナミカルシステムといい、近年注目を集めている。機械システムをハイブリッドダイナミカルシステムと捉え、従来容易ではなかった分野へのロボットの適用を図る。また、人間-機械システム、あるいは人間自体をハイブリッドダイナミカルシステムとして取り扱うことで様々な分野への応用を模索する。

AOMORI, Hisashi

青森 久

知的情報処理
Intelligent Information Processing

生体の情報処理機構は、非線形素子である神経細胞が複雑に結びついたネットワークの機能により実現されているが、その原理は不明な点が多い。このため、脳や生体にヒントを得た情報処理機構を工学的に実現するだけでなく、神経回路網のダイナミクスの解明や網膜系情報処理機構のモデル化を理論・計算機シミュレーションなどを通して多角的に研究を推進する。

情報工学専攻

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

HASEGAWA, Junichi

長谷川 純一

画像処理と物体認識
Image Processing and
Object Recognition

画像処理と物体認識は、人間の高度な視覚情報処理をコンピュータで実現しようとする研究領域である。そのためには、2次元画像、3次元画像、あるいは、動画像などの処理手法やその組み合わせ方を知ることはもちろん、対象物体そのものの知識やその画像上での見え方をよく理解した上で、適切かつ斬新な抽出手順や認識手順を構築することが必要になる。この技術はすでに、産業、航空・宇宙、医療、交通など多くの分野で応用されているが、今後さらに多くの分野で新しい応用が期待されている。

Carl, STONE

カール・ストーン

コンピュータミュージック
Computer Music

A composer researching advanced techniques in music software design, digital signal processing, performance, real time music networks, and non-real time audio processing techniques.

Recent work includes multi-channel sound installations at Engine27, New York City, Tokyo, Nagoya. Recent performances in Berlin, Paris, Rotterdam, Strasbourg, Tokyo etc.

CD 'Nak Won' released November 2002 on Sonore Records (France)

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

MIYATA, Yoshiro

宮田 義郎

メディアと文化
Media and Culture

日常使用している道具や製品のグローバルな生産過程が見えなくなり、消費者と生産者が分断されたことで、エネルギー、環境などの問題の解決が困難になっている。これらの問題の構造を解明し、ローカルな日常をグローバルな視点から見直すモノ作りの在り方を研究する。一般ユーザーや子供達が、必要なモノをローカルな資源と技術を活かして制作し、30カ国以上が参画する World Museum Project でグローバルにもコラボレーションするコミュニティーを展開していく。

HASEGAWA, Akiumi

長谷川 明生

ネットワークセキュリティ
Network Security

コンピュータのオペレーティングシステムやコンパイラ等のシステムソフトウェアの構造や構成についてシステム・プログラミング技術を習得することを通して理解する。また、それらの基礎知識の上に立ち、ネットワークを構成する技術について、その構造やソフトウェアの構成を理解し、コンピュータシステムのセキュリティについて幅広く研究する。

HAMAKAWA, Rei

濱川 礼

知的情報工学
Intelligent Information
Engineering

知的情報工学という観点から、コンピュータ情報をユーザ毎にカスタマイズして利用できるインタラクションを中心に研究を進めている。開発対象となるシステムは、最新のデバイス（全天球カメラ、ヘッドマウントディスプレイ等）と組み合わせて、マルチメディアシステム、検索システム、適応型環境提供、ネットワーク・Web 応用システム等多岐に及ぶ。

(参考) Multimedia Objects, “Handbook of Multimedia Computing Chapter 3”, CRC Press, 1998、Composite Objects, “Handbook of Multimedia Information Management Chapter 5”, Prentice Hall, 1996、マルチメディアとコンカレント工学, 一マルチメディアにおけるメディア間の記述一, 電子情報通信学会 コンカレント工学研究, 1994

ITO, Hideaki

伊藤 秀昭

知識工学／データ工学
Knowledge and Data Engi-
neering

知識工学及びデータ工学は、情報の表現と利用法を高度化するための技術である。知識やデータを計算機で利用するには、より適切な方法でそれらを表現し、表現された対象の検索や更新が適切に行われるようなツールの整備が望まれる。このために知識やデータを表現するための人工知能を応用したソフトウェアツールを研究開発している。

LASHKIA, George

ラシキア 城治

計算科学
Computational Science

主に情報科学における IT 分野の研究を行っている。基本的には、コンピュータの自己学習、ウェブコンピューティング、ネットワークセキュリティ、言語処理、最適化、ソフト開発など。

(参考) “Relevant, Irredundant Feature Selection and Noisy Example Elimination”, IEEE Trans. Syst., Man, Cybern. Part B, Vol.34, No.2, 2004.

“Mover: A machine learning tool to assist in the reading and writing of technical papers”, IEEE Trans. on Professional Communication, Vol.46, No.3, 2003.

OGASAWARA, Hidemi

小笠原 秀美

認知モデル
Cognitive Modeling

認知科学、特に学習や実時間環境での認知に興味を持っている。そのために二値データに基づくクラスタリング、長時間圧を持つ課題を用いた問題解決に関する心理実験・観察及びそのデータに基づく計算機モデルの作成などの研究を行っている。またこれらの研究のベースとなる Soar などの認知アーキテクチャにも関心がある。

SUZUKI, Tsunehiko

鈴木 常彦

地域ネットワーク基盤技術
Regional Network Infrastructure
Technology

・地域ネットワーク基盤技術：東京一極集中の日本のインターネットを地域分散するための、ルーティング（地域 IX）、コンテンツ配信技術等の研究

・セキュリティ技術：DNS の諸問題解決、spam 対策技術開発等、インターネット崩壊の危機に対処するための研究

OIZUMI, Kazufumi

大泉 和文

メディア・アート
Media Art

今日、メディア・アートと総称される、情報メディアを支援ツールとした視覚芸術を専攻する。作家の立場から、アートとテクノロジーの諸問題を取り扱う。

具体的には、① CTG (Computer Technique Group) を中心としたメディア・アート史の研究 ② インタラクティブな機構を取り入れた大規模インスタレーション作品の制作などを進めている。

教員名及び専攻分野

専攻分野の内容

| | |
|---|---|
| <p>MIYAZAKI, Shinya 宮崎 慎也 リアルタイム CG 応用 Real-time Computer Graphics Applications</p> | <p>コンピュータのグラフィックス能力の飛躍的な向上により CG を利用した究極のマンマシニインターフェイスが到来した。人工現実感 (VR) は現在のコンピュータグラフィックスの主な活用分野の一つであり、この分野で今後重要視される技術として、非剛体物体のモデリング、立体表示システムを中心に新しい VR 技術の実現を目指す。リアルタイム CG は、アミューズメントの分野をはじめとして工業、医療など様々な分野で活用されており、将来性が期待されている技術である。それらを実現するために必要となるプログラミングやデバイス制御、アルゴリズムとデータ構造設計について幅広く研究を進めている。</p> |
| <p>YAMADA, Masashi 山田 雅之 知能情報処理 Artificial Intelligence</p> | <p>知的に振舞うメディアの実現を目的に知能情報処理の基盤技術とその応用を研究する。具体的には、画像処理やコンピュータグラフィックスなどの画像メディア技術と知能処理技術を利用した新しいインタラクションの研究、デジタルファブ리케이션に関連する基礎理論や知的支援技術、システムの開発を進めている。</p> |
| <p>MEKADA, Yoshito 目加田 慶人 医用画像処理とコンピュータビジョン Medical Image Processing and Computer Vision</p> | <p>医用画像の診断支援技術に関する研究をおこなう。特に、肺、肝臓、胃を中心に、コンピュータ支援画像診断システムの実現のための技術開発として、臓器の抽出、病変の検出やその進行の程度評価、治療支援に関する手法開発に取り組む。コンピュータビジョン技術の実利用に関する研究として、自動車内・車外の環境センシングと状況認識に挑戦する。</p> |
| <p>TAKI, Tsuyoshi 瀧 剛志 画像処理/ コンピュータグラフィックス Image Processing / Computer Graphics</p> | <p>画像処理とコンピュータグラフィックスの基本技法の修得、及び、それらを基礎とした応用システムの開発に主眼をおく。特に、人の動作・行動をビデオカメラやモーションキャプチャ装置により取得し、映像や座標データから、行動の意味や目的を分析したり、また、コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティ機器を用いて動作・行動の特徴を分かりやすく表現するための情報呈示技術について研究・開発を行う。</p> |
| <p>TSUCHIYA, Takafumi 土屋 孝文 ヒューマンコンピュータインタラクション Human Computer Interaction</p> | <p>コンピュータを用いた協調的作業や自然言語コミュニケーションの支援に関する研究を行っている。ネットワーク上の支援ソフトウェアの開発と評価が中心であるが、その設計には認知的作業を支える知識や推論に関する人工知能的研究、コミュニケーションに関する言語学的研究、グループダイナミクスに関する社会的研究が含まれる。</p> |
| <p>UESHIBA, Tomohiro 上 芝 智 裕 メディア・アート Media Art</p> | <p>インタラクションやインターフェイスの領域を中核としたメディアアートの研究と制作。コンピュータパワーやネットワーク資源を潤沢に手にすることが可能となった現在、[作者] — [作品] — [鑑賞者] 間の相互作用に新たな質的变化の可能性を探り、作品の制作と発表との両面における新しいシステムの構築を研究テーマとしている。近年、softpad というグループ名義で、デザイン、Web、ビデオ、音楽等、ジャンルを越えた幅広い作品の制作及び発表を行っている。</p> |
| <p>SOGABE, Tetsuya 曽我部 哲也 メディア・アート Media Art</p> | <p>映像メディアを主に扱い、インスタレーション作品、実写映像作品、CG 映像の研究と制作を行っている。また、障害を持つ人の芸術作品制作の支援を行っており、デジタルメディアを用いた活動支援についての研究にも取り組み始めている。</p> |
| <p>NAKA, Takatoshi 中 貴 俊 ICTメディア応用とインターネット ICT and Media Applications</p> | <p>ネットワーク技術やコンピュータグラフィックス技術を中核として、スマートデバイスを含む ICT メディアを活用した研究をする。具体的には、3 DCG やネットワーク技術を活用したタブレット端末に向けたデジタル教材開発やその活用など、教育、芸術、産業分野への幅広い社会応用についての研究を行っている。</p> |
| <p>KITO, Nobutaka 鬼頭 信貴 超高速・高信頼論理回路の設計自動化 Design automation of high-speed/ dependable logic circuits</p> | <p>マイクロプロセッサなどの論理回路は回路素子の微細化により高性能化が進んだが、同時に、消費電力の増大や、回路の動作時に誤りが生じるなどの問題が起こるようになった。そこで、2つの研究を進めている。一つは、低消費電力で高速動作が可能だが従来の半導体回路とは異なる性質を持つ超伝導単一磁束量子回路のための設計自動化手法の研究。もう一つは、一般の半導体回路について、回路の動作時の誤りを検出可能な論理回路や、故障に強い論理回路の設計とその自動化の研究である。</p> |

教員名 及び 専攻分野**専攻分野の内容**

DOMAN, Keisuke

道 満 恵 介人の行動支援のための画像処理
Image Processing to Support
Human Activity

画像処理・パターン認識の基礎技術、及び、それらを用いた人の行動支援への応用を専攻する。具体的には、自動車運転支援のための走行環境理解に関する技術として、車載カメラ映像からの物体検出・認識、ドライバの視覚認知状態の推定等を研究している。また、料理支援のための映像解析に関する技術として、調理動作の認識、調理過程映像の要約、料理レシピのマルチメディア化等を研究している。

情報科学研究科 メディア科学専攻**教員名 及び 専攻分野****専攻分野の内容**

KOSHIMIZU, Hiroyasu

興 水 大 和視覚の人工知能・情報科学
Artificial Intelligence and
Computer Science of Vision

視覚の情報科学（コンピュータサイエンス）、人工知能研究を行っている。具体的研究テーマは、画像処理・理解の基礎的研究（Hough 変換、画像離散化理論）、マシンビジョン（産業応用）の研究、Hough 変換の研究、似顔絵生成の研究である。最近のホットなテーマには、

- ・画像処理基礎と産業応用に関する研究
- ・流し目カメラ（Askant Glance Camera Vision）実現の研究
- ・人が視るように人を視る感性的マシンビジョンの研究
- ・2D/3D などの似顔絵コンピュータ PICASSO 開発の研究

がある。

（参考）『コンピュータビジョン』（共著）（丸善），1990年3月、『感性の科学』（共著）（サイエンス社），1997年1月、『実践画像処理』（共著）（Springer-Verlag 東京），2000年10月、『新実践画像処理』（共著）（Linx），2001年6月、『ロボット工学ハンドブック』（共著）（コロナ社），2005年。

情報科学研究科

情報認知科学専攻【博士後期課程】

メディア科学専攻【博士後期課程】

- 以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

※教員の研究分野の紹介は「**工学研究科の該当ページ**」を参照してください。

- 出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分（選抜方式） | 入学定員 |
|------|--------|------|------------|------|
| 情報科学 | 情報認知科学 | 博士後期 | 一般 | 4名 |
| | メディア科学 | 博士後期 | 一般 | 2名 |

2. 出願資格

| 試験区分 | 出願資格 |
|------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認められた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※2} 最終日 消印有効 | 試験日 | 可否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※3} 消印有効 | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|--------|------|------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|---|---------------------|
| 前期日程 | 情報認知科学 | 博士後期 | 一般 | 2017年 6月12日(月) 6月16日(金) | 2017年 6月30日(金) | 2017年 7月14日(金) | 【第一次入学手続】 2017年 7月21日(金) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | メディア科学 | | | | | | | |
| 後期日程 | 情報認知科学 | 博士後期 | 一般 | 2018年 1月15日(月) 1月25日(木) | 2018年 2月9日(金) | 2018年 2月22日(木) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | メディア科学 | | | | | | | |

※1…出願期間の平日（9：00～17：00）は、学部大学院事務課窓口でも出願受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。

外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に学部大学院事務課に相談すること。

※2…入学手続の概要は以下のとおり。

【第一次入学手続】 入学金の納入のみ

【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付

【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

志願にあたっては、志望指導教員との事前面談が必要です。出願期間前に期日の余裕をもって学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。

※中京大学情報科学研究科学生は、直接志望指導教員に連絡を取り面談を受けてください。

4. 選抜方法

①当日の試験（筆記試験・口頭試問）、②出身大学院の成績、③修士論文又はこれに代わる業績を記す書類、④研究計画書 によって行います。

5. 試験科目・時間等

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|------------------|------|------------------|---|
| 情報認知科学 メディア科学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 英語 ・英和辞典1冊持込可(ただし、電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可)。 |
| | | 13:00 } 15:00 | 専門科目 |
| | | 15:30* } | 口頭試問 ・研究業績及び研究計画を中心とする。 |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

情報認知科学専攻

- ①名古屋キャンパス0号館（センタービル）正面入口〈建物内〉 9:30集合
 - ②豊田キャンパス11号館1階ロビー 9:30集合
- ※集合場所は上記①②のいずれかとなる（受験票送付時に通知）。

メディア科学専攻

- 豊田キャンパス11号館1階ロビー 9:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。
- ⑥志願にあたっては、志望指導教員との事前面談が必要です。出願期間前に期日の余裕をもって教育学部大学院事務課へ連絡してください。面談日時等を調整します。
※中京大学情報科学研究科学生は、直接志望指導教員に連絡を取り面談を受けてください。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|--|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ①巻末—情報科学・志願書を使用すること。 ②「志望指導教員名」欄は、後掲「教員組織」を参照の上選択し記入すること。 ③出願前に志望指導教員に連絡をとり面談を受けること。面談後、志望指導教員に「面談年月日」欄の記入・捺印を依頼すること。 ※指導教員は入学確定後に最終決定する。 ④「履歴事項」欄が不足する場合は、別紙に記入すること。 ⑤「修士論文又はこれに代わる業績の概要」欄について、出願時点で作成途中の場合は予定を記入すること。※別紙にて提出する場合は記入不要。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 (含見込) | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 研究計画書 | <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科で研究したいテーマ・内容について記入すること（書式自由）。 |
| 論文 | <ul style="list-style-type: none"> 次の①②を提出すること。 ①修士論文又はこれに代わる業績を記す書類 ②学会への投稿論文の別刷り等。 ※コピー可。返却はしない。 |
| 戸籍抄本等 | <ul style="list-style-type: none"> 〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉 ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|-----------------|--|
| 日本語の学力に関する書類 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 |
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得可。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3か月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 ※窓口にて出願する場合は、本学職員が「在留カード」の両面コピーを取ることで、これに代えることができる。 |
| 身元保証書 【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末—身元保証書を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートの コピー | <ul style="list-style-type: none"> ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

情報科学研究科 情報認知科学専攻

博士後期課程

情報認知科学専攻の博士後期課程では、情報科学、認知科学、両者の融合の分野などで独り立ちして研究が行える高度な専門性と高い見識を備えた研究者の育成をねらいとしている。

このためカリキュラムでは、情報科学及び認知科学に関し、基礎、計算、システム、社会科学の視点から深い考察を行う特論を設け、研究の分野に応じて必要な科目を選択できるようにしている。さらに情報認知科学に関する特殊演習を設け、それを通して適切な研究指導が行われる。

情報認知科学専攻の博士後期課程では、博士前期課程（修士課程）で展開されてきた情報科学あるいは認知科学分野の研究を継続発展させるのに十分な研究環境を有すると同時に、情報科学と認知科学の知見を有機的に組み合わせた融合的研究を行う環境も提供できる特色を備えている。現在普及しつつある高度情報社会では、提供される情報システムやサービスと利用する人間側の特性を如何にうまく整合させるかが大きな課題となっており、本専攻における情報認知融合の研究環境は、そのような境界領域的課題の研究の場としてふさわしい。

情報科学研究科 メディア科学専攻

博士後期課程

メディア科学専攻の博士後期課程では、メディア科学分野で独り立ちして研究が行える高度の専門性と高い見識を備えた研究者の育成をねらいとしている。

このためカリキュラムでは、まずメディアシステム、映像メディア、メディア交流、メディアアートの各分野に関し先進的技術を学ぶ特論を設け、研究の分野に応じて必要な科目を選択できるようにしている。さらにメディア科学に関する特殊演習を設け、それを通して適切な研究指導が行われる。

メディア科学専攻の博士後期課程では、マルチメディアの処理・表現とその応用に関し、工学的観点やデザイン・アートの観点から深く学び、高度で先進的な研究を実施できるのが大きな特色である。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。

●情報科学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 情報認知科学専攻博士後期課程は、情報科学技術、認知科学及びその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家及び高度専門技術者の養成を目的とする。ネットワークを含む情報システムや知的情報処理に関する研究専門家及び高度専門技術者、学習支援やヒューマンインタフェースに関する研究専門家及び高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。
- (2) メディア科学専攻博士後期課程は、メディアを含む情報科学技術、認知科学及びその応用分野で研究者として一人立ちできる研究専門家及び専門技術者の養成を目的とする。コンピュータを活用した創造的な表現が行なえる高度なメディア研究専門家及び高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。

9. 教員組織

情報科学研究科長 長谷川 純 一

情報認知科学専攻

| | | | |
|--------|-------|------------|------------|
| 博士後期課程 | 専任教授 | 井口弘和 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 長谷川明生 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 白井英俊★ | 認知計算論特論 I |
| | 専任教授 | 種田行男 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 沼田宗敏 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 濱川礼 | 情報システム特論 I |
| | 専任教授 | 上林真司 | 認知システム特論 I |
| | 専任教授 | 山中公博 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 伊藤秀昭 | 情報システム特論 I |
| | 専任教授 | 野浪亨 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | ラシキア城治 | 情報システム特論 I |
| | 専任教授 | 小笠原秀美 | 認知工学基礎特論 I |
| | 専任教授 | 橋本美学 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 鈴木常彦 | 情報科学基礎特論 I |
| | 専任教授 | 森島昭男 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 磯直行 | 情報科学基礎特論 I |
| | 専任教授 | 目加田慶人 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | ハルトノ・ピトヨ | 情報計算論特論 I |
| | 専任教授 | 青木公也 | 情報計算論特論 I |
| | 専任教授 | 石原彰人 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 瀧剛志 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任教授 | 加納政芳 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任准教授 | 王建国 | 情報システム特論 I |
| | 専任准教授 | 須田潤 | 認知システム特論 I |
| | 専任准教授 | 土屋孝文 | 認知計算論特論 I |
| | 専任准教授 | 清水優 | 情報計算論特論 I |
| | 専任准教授 | 村中崇信 | 認知システム特論 I |
| | 専任准教授 | 田口博久 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任准教授 | 平名計在 | 情報認知科学特殊演習 |
| | 専任准教授 | 青森久 | 認知システム特論 I |
| 専任講師 | 鬼頭信貴 | 情報システム特論 I | |
| 専任講師 | 道満恵介 | 情報システム特論 I | |

メディア科学専攻

| | | | |
|--------|-------|----------|---------------|
| 博士後期課程 | 専任教授 | 輿水大和★ | メディア・システム特論 I |
| | 専任教授 | 長谷川純一 | 映像メディア特論 I |
| | 専任教授 | カール・ストーン | メディア・アート特論 I |
| | 専任教授 | 宮田義郎 | 交流メディア特論 I |
| | 専任教授 | 大泉和文 | メディア・アート特論 I |
| | 専任教授 | 宮崎慎也 | 映像メディア特論 I |
| | 専任教授 | 山田雅之 | 映像メディア特論 I |
| | 専任准教授 | 上芝智裕 | メディア・アート特論 I |
| | 専任准教授 | 曾我部哲也 | 映像メディア特論 I |
| | 専任講師 | 中貴俊 | メディア・システム特論 I |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

※教員の研究分野については、「工学研究科」のページを参照してください。

体育学研究科

体育学専攻

【博士前期（修士）課程】【博士後期課程】

●以下の事項は「**研究科共通ページ**」を参照してください。

入学者受入の方針／出願方法／検定料／受験票の受け取り／試験当日の注意事項（持ち物含む）／合格発表／入学手続／学費等／個人情報の取り扱い／キャンパスマップ（集合場所）

●出願書類（所定用紙）については**巻末**を確認してください。

2018

CHUKYO UNIVERSITY

1. 入学定員と試験区分（選抜方式）

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 試験区分* | 入学定員 |
|-----|-----|----------|--------------|------|
| 体育学 | 体育学 | 博士前期（修士） | 一般・社会人・留学生選抜 | 12名 |
| | | 博士後期 | 一般・留学生選抜 | 4名 |

※同一日程における複数の試験区分の併願不可。

2. 出願資格

博士前期（修士）課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|-------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑩のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者 ②大学改革・学位授与機構により学士の学位を授与された者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者 ④外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者 ⑤我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者 ⑥外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑦専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者 ⑧文部科学大臣の指定した者 ⑨学校教育法第83条に規定する大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者 ⑩本研究科において、個別の入学資格審査により、学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者 <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥⑨⑩による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに学部大学院事務課までお問い合わせください。 対象者（例）…飛び級による出願希望者 短期大学・高等専門学校・各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者 外国の大学その他外国の学校で修業年限3年の課程修了者 等</p> |
| 社会人選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時に社会人として3年以上の実務経験を有する者。 |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 <p>※ただし、日本において高等学校段階までの教育を修了した者は、留学生選抜には出願できない。</p> |

博士後期課程

| 試験区分 | 出願資格 |
|-------|---|
| 一般選抜 | <p>次の①～⑧のいずれかに該当する者又は2018年3月31日までに該当する見込みのある者。</p> <p>①修士の学位又は専門職学位を有する者 ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ④我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者 ⑤国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者 ⑦文部科学大臣の指定した者 ⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同程度の学力があると認めた者で、24歳に達した者</p> <p>【出願資格審査について】 出願資格⑥・⑧による出願を希望する（本研究科において出願資格を審査する必要がある）場合は、出願開始日の2カ月前までに教学部大学院事務課までお問い合わせください。</p> |
| 留学生選抜 | <p>一般選抜の出願資格を満たすほか、次の出願資格を満たす者。</p> <p>・出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得られる者 ※ただし、日本の大学における学部を卒業した者は、留学生選抜には出願できない。</p> |

3. 入試日程一覧

| 日程 | 専攻 | 課程 | 試験区分 | 出願期間 ^{※1} 最終日 消印有効 | 試験日 | 合否通知 発送日 | 入学手続締切日 ^{※2} 消印有効 | 入学辞退 手続締切日 必着 |
|------|-----|--------------|------------------|-----------------------------------|-------------------|--------------------|--|---------------------|
| 前期日程 | 体育学 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2017年 8月30日(水)) | 2017年 9月30日(土) | 2017年 10月10日(火) | 【第一次入学手続】 2017年 10月17日(火) 【最終入学手続】 2018年 3月13日(火) | 2018年 3月31日(土) |
| | | 博士後期 | 一般 留学生 | 9月8日(金) | | | | |
| 後期日程 | 体育学 | 博士前期 (修士) | 一般 社会人 留学生 | 2018年 1月22日(月)) | 2018年 2月17日(土) | 2018年 2月27日(火) | 【入学手続】 2018年 3月13日(火) | |
| | | 博士後期 | 一般 留学生 | 2月1日(木) | | | | |

※1…出願期間の平日（9：00～17：00）は、教学部大学院事務課窓口でも出願を受付可。詳細は、研究科共通ページを参照すること。
 外国在住の方で日本国外から出願する場合は、出願期間前の受付可。事前に教学部大学院事務課に相談すること。

※2…入学手続の概要は以下のとおり。

- 【第一次入学手続】 入学金の納入のみ
 【最終入学手続】 授業料等の納入及び入学手続書類の送付
 【入学手続（後期日程）】 入学金・授業料等の納入及び入学手続書類の送付

志望指導教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。志望する学系（分野）や指導教員の選択にあたって不明な点は、教学部大学院事務課に問い合わせてください。なお、指導教員は入学確定後に最終決定します。

4. 選抜方法

博士前期（修士）課程

一般選抜・留学生選抜——①当日の試験、②出身大学の成績 によって行います。

社会人選抜——①当日の試験、②出身大学の成績、③研究又は学習計画書 によって行います。

博士後期課程

一般選抜・留学生選抜——①当日の試験、②出身大学院の成績、③論文又はこれに代わる業績を記す書類 によって行います。

5. 試験科目・時間等

博士前期（修士）課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 | |
|----------------------|------|----------------------|---|---|
| 体育学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 外国語（英語） ・英和辞典1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可） 【外国語試験の免除について】 次の①～④のいずれかの基準を満たす場合、外国語の試験を免除する。 ※免除希望の場合は、得点を証明できる書類の原本をその他の出願書類とともに提出すること。 ① TOEFL スコア61点以上（iBT 基準）／173点以上（CBT 基準）／500点以上（PBT 基準）のいずれか ② TOEIC L&R スコア650点以上（IP テスト可） ③ IELTS スコア5.5以上 ④英検準1級以上 | |
| | | 13:00 } 14:40 | 体育学 ・自由記述形式の問題（15問）のうち試験当日に5問選択して解答。 | |
| | | 15:00* } 17:00 | 口頭試問 ・研究計画又は学習計画及び卒業論文を中心とする。 | |
| | 社会人 | 13:00* } | 口頭試問 ・研究計画又は学習計画を中心とする。 | |
| | 留学生 | | 10:00 } 12:00 | 外国語（英語又は日本語） ・英語又は日本語のいずれかを出願時に申請し（志願書に記入）、その言語を受験すること（試験当日の変更は不可）。 ・英和辞典1冊及び日韓辞典、日中辞典等1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可） 【外国語試験の免除について】 次の①②のいずれかの試験を2年以内に受験し、①②に記載する基準を満たす場合、外国語の試験を免除する。 ※免除希望の場合は、得点を証明できる書類の原本をその他の出願書類とともに提出すること。 ①日本語能力試験（JLPT）でN1レベル ②日本留学試験（EJU）の日本語のスコア200点以上 |
| | | | 13:00 } 14:40 | 体育学 ・自由記述形式の問題（15問）のうち試験当日に2問選択して解答。 ※ただし、日本の大学を卒業した者（含見込）は、試験当日に3問選択して解答すること。 |
| 15:00* } 17:00 | | | 口頭試問 ・研究計画又は学習計画及び卒業論文を中心とする。 | |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

博士後期課程

| 専攻 | 試験区分 | 試験時間 | 試験科目 |
|-----|------|---------------------|---|
| 体育学 | 一般 | 10:00 } 12:00 | 外国語（専門英語） ・体育学の専門分野の論文などを読解する英語能力を試すもの。英文を読み、日本語で答える形式。 ・英和辞典1冊持込可（電子辞書及びこれに類する機器の持込は不可） |
| | | 13:00* } | 口頭試問 ・研究計画及び修士論文又は既研究概要を中心とする。 |
| | 留学生 | 13:00* } | 口頭試問（日本語又は英語） ・研究計画及び修士論文又は既研究概要を中心とする。 |

※…口頭試問の開始時刻は全体の開始時刻であり、受験生により開始時刻及び終了時刻が異なる。

6. 試験当日集合場所・時間

博士前期（修士）課程

一般選抜・留学生選抜——豊田キャンパス14号館1階 ロビー 9:30集合
<外国語試験免除の場合>
豊田キャンパス14号館1階 ロビー 12:30集合
社会人選抜——豊田キャンパス14号館1階 ロビー 12:30集合

博士後期課程

一般選抜——豊田キャンパス14号館1階 ロビー 9:30集合
留学生選抜——豊田キャンパス14号館1階 ロビー 12:30集合

7. 出願書類

【注意事項】

- ①書類は黒色のペン又はボールペンを使用して、明確に記入してください。
- ②証明書類は3か月以内に作成されたものを提出してください。
- ③外国語で記載された書類（卒業証明書・成績証明書等）には日本語訳を添付してください。
- ④所定用紙以外の書類（別紙等）はA4判サイズのものを出願してください。
- ⑤出願後の出願書類の変更はできません。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------------------------|--|
| 受験票 写真票 検定料払込票 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験票に342円分の切手を貼付すること。 ・写真（正面上半身、脱帽、縦4cm×横3cm、3か月以内に撮影）の裏面に氏名を記入し、写真票に貼付すること。 ・検定料については、研究科共通ページを参照の上、払込手続きを行い、振替払込受付証明書（願書貼付用）を検定料払込票の所定欄に貼付すること。 |
| 宛名シール 【同封書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知書発送に使用するため、郵便番号・住所・氏名を明確に記入すること。 |
| 志願書 【巻末書類】 | <ol style="list-style-type: none"> ①巻末—体育学・志願書を使用すること。 ②志望する指導教員と事前に必ず連絡をとってから出願すること。 志望する学系（分野）や志望指導教員の選択にあたり不明な点は、教育学部大学院事務課に問い合わせること（指導教員は入学確定後に最終決定する）。 ③博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、「在学期間」を選択すること。 ※選択した在学期間のいかにかわらず、4年を超えて在学することはできない（長期履修制度については、研究科共通ページ「学費等」参照）。 ④「修士論文又は卒業論文」欄は、博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。なお、博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は予定を記入）。 ※別紙（A4判用紙）にて提出する場合は「別紙参照」と明記すること。 ※学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合はその旨を記入すること。 ⑤「入学後の研究計画案」欄は、別紙（A4判用紙）にて提出する場合は「別紙参照」と明記すること。 ※博士前期（修士）課程社会人選抜志願者は、別紙にて研究計画書又は学習計画書を提出するため記入不要。 ※博士後期課程留学生選抜志願者のみ英語で記入してもよい。 |
| 卒業証明書 （含見込） | <p>〈博士前期（修士）課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者（含見込）は、その修了（見込）証明書又は学位授与証明書を併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書 又は修了証明書 （含見込） | <p>〈博士後期課程志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 成績証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学作成のものを提出すること。 ※大学院を修了した者又は修了見込の者は、その成績証明書も併せて提出すること。 <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終出身大学院作成のものを提出すること。 |
| 研究計画書又は 学習計画書 | <p>〈博士前期（修士）課程社会人選抜志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科に入学した場合の研究又は学習に関する目標や計画について志望動機等を含め、3,000字程度にまとめたもの 5部 ※出願前に志望する系の教員と研究計画について打合せすることが望ましい。 |

| 書類名称 | 詳細 |
|---------|--|
| 語学試験証明書 | <p>〈博士前期（修士）課程一般選抜・留学生選抜志願者のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語試験の免除を申請する場合は、証明書類の原本を提出すること（コピー不可）。 |
| 論文 | <p>〈博士後期課程志願者〉</p> <p>①修士論文及びその要旨 各3部 ※要旨は日本語で記述すること。 ※前期日程志願者で修士論文未完の場合は、研究の中間報告書（4,000字程度）3部の提出をもって上記①に代えることができる。</p> <p>②修士論文以外の既刊研究論文を提出する者は、当該論文とその要旨（4,000字程度）各3部を提出しても構わない。 ※上記①②いずれもコピー可。返却はしない。 ※留学生選抜志願者のみ、①②いずれも英語で提出可。</p> |
| 戸籍抄本等 | <p>〈証明書等の氏名と現在の氏名が異なる場合のみ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の変更を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出すること。 |

以下は外国人留学生のみ提出してください。

ここでいう外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法において定める在留資格「留学」を有する者、又は入学時に得る予定である者を指します。

| 書類名称 | 詳細 |
|--------------|--|
| 日本語の学力に関する書類 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学力を客観的に証明できる者（指導教員等）が作成・発行した成績証明書を提出すること。 ※日本の大学を卒業した者（含見込）及び大学院を修了した者（含見込）は提出を免除。 |
| 住民票 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人登録をしている市役所や区役所で取得できます。志願者本人の在留期間・在留資格が表記されていて、出願前3カ月以内に発行されたものを提出すること。 ※在留期間については、最低限、試験日まで含まれるように申請を行っておくこと。 |
| 身元保証書【巻末書類】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末—身元保証書 を使用すること。 ※保証人が自筆で署名し、捺印したものを提出すること。 ※保証人は日本に居住し独立して生計を営んでいる者で、中京大学外国人留学生として日本に在留中の本人に関するすべての事項について保証できる者とする。 |
| パスポートのコピー | <ul style="list-style-type: none"> ・顔写真のページのコピーを提出すること。 |

8. 研究科概要及び特色

近年、様々な方面で体育・スポーツに対する関心・需要が高まっている。こうした社会の要望に適切に対処するため、本体育学研究科では体育・スポーツに関する高度でかつ多面的な研究が不可欠であるとの認識に立って、次のような分野の教育・研究に取り組んでいる。

- ① 健康づくりに関する研究
- ② 体力づくりに関する研究
- ③ 運動の精神的効果に関する研究
- ④ スポーツの社会科学研究
- ⑤ スポーツの歴史、文化に関する研究
- ⑥ 生涯スポーツに関する研究
- ⑦ 競技力向上に関する研究

総合科学としての体育学の特徴をふまえ、本研究科は5つの系からカリキュラムを編成し、研究指導等を行っている。系別の特色は次のとおりである。

【スポーツ文化・社会科学系】

スポーツにかかわる思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを、幅広い問題意識のなかで捉え、これを科学的方法論に即して分析・検討を加える。

【スポーツ認知・行動科学系】

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

【スポーツ生理学系】

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

【スポーツ健康科学系】

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康の関連を、傷病の予防及び健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

【応用スポーツ科学系】

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多分野、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

博士前期（修士）課程の目標は研究者の養成と高度な専門性を備えた職業人の養成に置いているので、できるかぎり多彩な科目を用意することに心掛けている。

博士後期課程の特色は、2か年の博士前期（修士）課程の上に3か年の博士後期課程を乗せるという積み上げ方式を取り、他大学の修士課程修了者及び外国人留学生を積極的に受け入れる方針を取っていることである。

また、博士後期課程の目標は自立した研究者を養成することにあるので、教育の中心は系毎に開かれる複数教員の参加するセミナー、及び個人指導を中心とした研究指導に置かれている。

研究科全体のもう一つの特徴は、本学にある他の研究科との単位互換制度を取り入れていることである。

本学では、よりよい教育研究のため、「教育研究上の目的に関する規程」を作成し、その中で、各研究科の「人材の養成に関する目的」を明記しています。体育学研究科については、以下の通りです。

●体育学研究科の「人材の養成に関する目的」

- (1) 博士前期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、博士後期課程に進学して体育学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。
- (2) 博士後期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、体育学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

9. 教員組織

体育学研究科長 渡 邊 丈 眞

| | | | | | | |
|------------------|--------------|----|----|---|-------------|----------------------|
| 博士前期課程 (修士課程) | スポーツ文化・社会科学系 | | | | | |
| | 専任教授 | 近藤 | 良享 | 享 | ★ | スポーツ原論研究 |
| | 専任教授 | 菊池 | 秀夫 | 夫 | | スポーツ経営学研究 |
| | 専任教授 | 來田 | 享子 | 子 | | スポーツ史研究 |
| | 実験実習助手 | 伊東 | 佳那 | 子 | ★ | |
| | スポーツ認知・行動科学系 | | | | | |
| | 専任教授 | 家田 | 重晴 | 晴 | | 健康心理学研究 |
| | 専任教授 | 山田 | 憲政 | 政 | | スポーツ認知行動論研究 |
| | 実験実習助手 | 橋本 | 泰裕 | 裕 | ★ | |
| | スポーツ生理学系 | | | | | |
| | 専任教授 | 松本 | 孝朗 | 朗 | | スポーツ栄養学研究 |
| | 専任教授 | 梅村 | 義久 | 久 | | スポーツ生理学研究A |
| | 専任教授 | 荒牧 | 勇 | 勇 | | スポーツ脳科学研究 |
| | 専任講師 | 大冨 | 利之 | 之 | | 研究セミナー |
| | 実験実習助手 | 原田 | 健次 | 次 | ★ | |
| | スポーツ健康科学系 | | | | | |
| | 専任教授 | 渡邊 | 丈眞 | 眞 | | スポーツ衛生学研究 |
| | 専任教授 | 坂本 | 龍雄 | 雄 | | 疫学研究 |
| | 専任教授 | 清水 | 卓也 | 也 | | スポーツ健康学研究 |
| | 専任教授 | 光山 | 浩人 | 人 | | スポーツ医学研究 |
| | 専任准教授 | 倉持 | 梨恵 | 恵 | 子 | 機能解剖学研究 |
| | 実験実習助手 | 押村 | 果奈 | 奈 | ★ | |
| | 応用スポーツ科学系 | | | | | |
| | 専任教授 | 桜井 | 伸二 | 二 | | スポーツバイオメカニクス研究 |
| 専任教授 | 高橋 | 繁浩 | 浩 | | コンディショニング研究 | |
| 専任准教授 | 田内 | 健二 | 二 | | トレーニング論研究 | |
| 実験実習助手 | 豊嶋 | 陵司 | 司 | ★ | | |
| 博士後期課程 | 専任教授 | 家田 | 重晴 | 晴 | | スポーツ認知・行動科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 近藤 | 良享 | 享 | ★ | スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 菊池 | 秀夫 | 夫 | | スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 渡邊 | 丈眞 | 眞 | | 健康科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 桜井 | 伸二 | 二 | | 応用スポーツ科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 坂本 | 龍雄 | 雄 | | 健康科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 清水 | 卓也 | 也 | | 健康科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 松本 | 孝朗 | 朗 | | スポーツ生理学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 梅村 | 義久 | 久 | | スポーツ生理学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 光山 | 浩人 | 人 | | 健康科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 山田 | 憲政 | 政 | | スポーツ認知・行動科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 高橋 | 繁浩 | 浩 | | 応用スポーツ科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 來田 | 享子 | 子 | | スポーツ文化・社会科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任教授 | 荒牧 | 勇 | 勇 | | スポーツ生理学特殊研究・研究指導 |
| | 専任准教授 | 田内 | 健二 | 二 | | 応用スポーツ科学特殊研究・研究指導 |
| | 専任准教授 | 倉持 | 梨恵 | 恵 | 子 | 健康科学特殊研究・研究指導 |

★…指導教員として選択できません。

※上記は2017年5月現在の教員組織です。

10. 教員の研究分野の紹介

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

スポーツ文化・社会科学

KONDO, Yoshitaka

近藤 良享

スポーツ倫理学
Sport Ethics

スポーツの価値が高まる中で、様々な問題が浮上している。これまでの価値判断基準では裁定できないような事例に対して、応用倫理学的方法を援用しながら、その解決の方向を探っていく。キーワードは、フェアプレイ、自己決定、パターナリズムであり、具体的対象には、ドーピング、環境、暴力・体罰、ジェンダー、メディア、審判・判定問題などがある。
(主な著作) 近藤良享『スポーツ倫理』不昧堂出版 (2012)、近藤編著『スポーツ倫理の探究』大修館書店 (2004)、友添・近藤編著『スポーツ倫理を問う』大修館書店 (2000)。

KIKUCHI, Hideo

菊池 秀夫

スポーツ経営学
Sport and Recreation
Management

スポーツやレクリエーション・サービスの提供に関わるミクロ・マクロの問題について、消費者志向であるマーケティングの立場から検討している。参加者のニーズやベネフィット、選好、満足度等の把握をはじめとして、様々な消費者行動の分析枠組みに基づき、適切なサービスのあり方とそれを提供するシステムづくりについて関心がある。
(主な著作) 『生涯スポーツのマーケティング』(川西・野川編著「生涯スポーツ実践論」市村出版), 2012、『スポーツ組織の経営資源』(山下ら編「スポーツ経営学」大修館書店), 2000、『健康・スポーツの社会学』共著 (建帛社), 1996。

RAITA, Kyoko

来田 享子

スポーツ史
Sport History

スポーツ史専攻。特にオリンピック・ムーブメントの歴史に焦点をあて、スポーツ組織の権力のダイナミクス、ジェンダーなどの観点から国内外の史料を検討している。また、この検討で得られた歴史的知見をベースに、より多様な人々のスポーツの権利を保障するために必要とされる社会環境やスポーツそのものの変容についても考えている。
(主な著作) 「指標あるいは境界としての性別—なぜスポーツは性を分けて競技するのか」杉浦・建石・吉田・来田編『身体・性・生—個人の尊重とジェンダー』尚学社 (2012)、「1960-1979年のIOCにおけるオリンピック競技大会への女性の参加問題をめぐる議論—IOC 総会議事録の検討を中心に—」(スポーツとジェンダー研究 Vol.12, 2014)。

IEDA, Shigeharu

家田 重晴

学校保健学
School Health

これまで、保健行動に影響する要因についての研究、学校における健康教育内容体系に関する検討、交通安全教育・子どもの危機管理に関する研究などをしてきた。近年は主に、喫煙防止教育や脱タバコ対策に関する研究や活動をしている。
(主な著書) 家田重晴編著『保健科教育 改訂第3版』杏林書院, 2010、勝亦絃一・家田重晴編『新しい体育の授業づくり』大日本図書, 2012。

YAMADA, Norimasa

山田 憲政

知覚・運動科学、スポーツ心理学、
スポーツ・バイオメカニクス
Perception and motor system,
Sport Psychology,
Sport Biomechanics

身体運動を、心理・力学を統合する情報概念から包括的に捉え、アスリートの知覚、知覚と動きのダイナミクス、運動学習のメカニズム、運動情報の伝達メカニズムにアプローチする。
(主な著作) 『トップアスリートの動きは何が違うのか』(化学同人) 2011、『運動制御と運動学習』(分担) (共同医書出版) 1997。

スポーツ認知・行動科学

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

MATSUMOTO, Takaaki

松本孝朗

環境生理学・運動生理学
Environmental Physiology,
Exercise Physiology

環境が生態機能に及ぼす影響について研究する分野を環境生理学という。中でもヒトの暑熱適応、特に熱帯地住民の長期暑熱順化を主テーマとして取り組んできた。最近では運動・スポーツ・健康を中心とし、運動時の人の体温調節・エネルギー代謝への雨・風の影響、運動後の疲労回復法、ボクシングの減量、熱中症の予防など、幅広い研究を行っている。

(主な著書) 『体温Ⅱ 体温調節システムとその適応』(分担) NAP、2010、『からだと温度の事典』(分担) 朝倉書店、2010、(総説) 暑熱への適応、日本醫事新報、No.3893、37-39、1998。

UMEMURA, Yoshihisa

梅村義久

運動生理学
Exercise Physiology

運動又はトレーニングに対する身体の生理学的な適応に関する研究で、特に骨及び筋について検討している。骨に関する研究においては、骨強度を高める運動様式や運動方法及び骨の適応について研究をしている。筋については、筋・腱複合体の弾性などについて検討している。

(主な著作) (1) Optimal exercise protocol for osteogenic response. J Phys Fitness Sports Med, 5: 1-6, 2016. (2) Past sporting activity during growth induces greater bone mineral content and enhances bone geometry in young men and women. J Bone Miner Metab, 33: 569-576, 2015.

ARAMAKI, Yu

荒牧勇

スポーツ脳科学
Sports Neuroscience

スポーツや日常動作に関する運動・認知メカニズムについて脳科学の手法でアプローチします。MRI 脳構造・機能画像によるスポーツ競技ごとの脳の特長やトップアスリートの脳の特徴、身体トレーニング介入による脳の変化、スポーツ時の脳波計測、経頭蓋電気刺激を用いた運動・感覚・認知の操作などが研究テーマです。

(主な業績) Mizuno T, Aramaki Y. Cathodal transcranial direct current stimulation over the Cz increases joint flexibility. Neurosci Res (2016). Aramaki Y et al. Movement initiation-locked activity of the anterior putamen predicts future movement instability in periodic bimanual movement. Journal of Neuroscience (2011). (主な競争的研究費) 科研費基盤 (B) (2012-2015)、挑戦的萌芽研究 (2012-2013, 2016-2017)、内閣府 ImPACT 研究費など。

OHYA, Toshiyuki

大家利之

運動生理学
Exercise Physiology

エリート競技選手の体力特性の解明や高強度運動パフォーマンス向上の為にトレーニング方法の開発について、エネルギー供給機構の観点からアプローチしている。その中でも特に、サッカーやバスケットボールなどのゴール型球技の選手に着目して研究を行っている。

(主な著作) Effect of duration of active or passive recovery on performance and muscle oxygenation during intermittent sprint cycling exercise. Int J Sports Med, 34: 616-622, 2013.

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

| | |
|---|--|
| <p>WATANABE, Takemasa 渡 邊 丈 眞 公衆衛生学 Public Health and Preventive Medicine</p> | <p>「何かができる・できない」という能力あるいは「何かをする・しない」という行動は、生活している環境の修飾を受けている。人とその生活環境との関わりを考究することにより、その人たちへの健康支援サービスはより豊かなものになる。運動・スポーツと健康との関わりについて、ヒト集団を対象として疫学的・行動科学的研究を実施している。</p> |
| <p>SAKAMOTO, Tatsuo 坂 本 龍 雄 スポーツ健康科学 Sports and Health Science</p> | <p>わが国では数次にわたり国民健康づくり対策が展開されてきた。2013年度から取り組まれている「健康日本21（第2次）」では、生活習慣病の一次予防が最重要課題と位置づけられている。この専攻分野では、疾患の医学的な発症メカニズムだけでなく、疾患予防のための生活習慣のあり方、とりわけ運動・スポーツの意義について理解を深める。 (主な著書)『よくわかる食物アレルギーの基礎知識』(分担)(独立行政法人環境再生保全機構), 2014、『長びく咳の治療指針』(分担)(総合医学社), 2013など。</p> |
| <p>SHIMIZU, Takuya 清 水 卓 也 スポーツ医学 Sports Medicine</p> | <p>近年、スポーツ傷害は、core stabilization を基盤とする運動連鎖の破綻により生じるという考え方が提示されている。運動連鎖における四肢の動作パターンと、スポーツ傷害の関係を解析することを、主な研究テーマとしている。ほかに、スポーツ傷害の発生状況から、発生要因を明らかにすることもテーマとしている。 (主な著書)『疲労骨折—スポーツに伴う疲労骨折の原因・診断・治療・予防』(分担)(文光堂), 1998、「ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング」(分担)(文光堂), 2012。</p> |
| <p>MITSUYAMA, Hirohito 光 山 浩 人 スポーツ医学、整形外科学 Sports Medicine, Orthopedic Surgery</p> | <p>競技スポーツのみならず生涯を通じた健康スポーツの観点からも関節機能は運動レベルや日常生活における活動性ひいては生活の質に直結している。関節機能を軟骨代謝や靭帯機能さらに筋肉・腱との関連から明らかにする。また関節機能と運動連鎖を解析し運動能力の向上とスポーツ傷害の予防・治療のための研究を行う。</p> |
| <p>KURAMOCHI, Rieko 倉 持 梨 恵 子 アスレティック・トレーニング Athletic Training</p> | <p>アスリートは常に怪我の危険と隣り合わせである。アスレティック・トレーニングはアスリートが抱えるスポーツ外傷・障害の予防を目標とし、その評価、応急処置、アスレティック・リハビリテーション、コンディショニングを包括的に扱う。特に運動器のスポーツ外傷・障害の要因を探求し、怪我をしにくい身体づくりのための方策を模索する。</p> |

教員名 及び 専攻分野

専攻分野の内容

SAKURAI, Shinji

桜井 伸二

スポーツバイオメカニクス
Sport Biomechanics

Bio (生命あるいは生体) と Mechanics (力学あるいは機序) の合成語であるバイオメカニクスは、狭義には生体の構造や機能を力学的観点から解明する科学であり、広義には「身体の運動」の全般に関する科学である。力学、解剖学、生理学の基礎知識と、ビデオ画像解析、フォースプレート、筋電図などの分析法を用いて、歩・走・跳・投・打などスポーツの動作をより深く理解しようと試みる。

(主な著書) 桜井伸二編著『投げる科学』(大修館書店)、深代千之・桜井伸二他編著『スポーツバイオメカニクス』(朝倉書店)。

TAKAHASHI, Shigehiro

高橋 繁浩

コンディショニング研究
Sport Conditioning

競技選手にとってのコンディショニングとは、競技会に向けて心身の状態をより好ましい方向に整えることを目指すことである。そのための栄養、休養、リラクゼーション、トレーニングとしての身体活動などを含む、総合的で短期的な働きかけについて、実際の競技の場における事例や研究報告を提示しながら授業を展開していく。トレーニングの実践方法についても理解を深める。

TAUCHI, Kenji

田内 健二

スポーツバイオメカニクス・
トレーニング科学
Sport Biomechanics,
Training Science

バイオメカニクス分野の動作分析、あるいは生理学分野の体力の測定評価を中心とした研究手法を用いて、身体の仕組み、あるいは運動の仕組みを理解し、どのようにすれば効果的、効率的にパフォーマンス(特に、競技パフォーマンス)を向上させられるかを学ぶ。最終的には、理論に裏付けられたトレーニング手段の構築を目指す。

巻末書類

| 巻末書類のヘッダー | 書類名 | 備考 |
|-----------------------|--------------------------|------------------------|
| 巻末—身元保証書 | 身元保証書 | 外国人留学生のみ提出 |
| 巻末—日本文学・日本語文化 ・志願書 | 文学研究科日本文学・ 日本語文化専攻志願書 | 志願する研究科（専攻）の 志願書を提出 |
| 巻末—歴史文化・志願書 | 文学研究科歴史文化専攻 志願書 | |
| 巻末—国際英語学・志願書 | 国際英語学研究科志願書 | |
| 巻末—心理学・志願書 | 心理学研究科志願書 | |
| 巻末—社会学・志願書 | 社会学研究科志願書 | |
| 巻末—法学・志願書 | 法学研究科志願書 | |
| 巻末—経済学・志願書 | 経済学研究科経済学専攻 志願書 | |
| 巻末—総合政策学・志願書 | 経済学研究科総合政策学専攻 志願書 | |
| 巻末—経営学・志願書 | 経営学研究科志願書 | |
| 巻末—工学・志願書 | 工学研究科志願書 | |
| 巻末—情報科学・志願書 | 情報科学研究科志願書 | |
| 巻末—体育学・志願書 | 体育学研究科志願書 | |
| 巻末—研究計画書 | 経営学研究科研究計画書 (表紙) | |

外国人留学生 身元保証書

この身元保証書は、外国人留学生のみ提出すること。

| | | | | | |
|--------------|-------------------|---|----|--------------|------------------------|
| 出願研究科・専攻 | 研究科 | | 専攻 | 課程 いずれかに○ | ・博士前期（修士）課程 ・博士後期課程 |
| 氏名 | フリガナ | | | | |
| | 漢字 | | | | |
| | ローマ字 | | | | |
| 生年月日 (西暦) | 年 | 月 | 日生 | 年齢・性別 | 歳 男・女 国籍 |
| 現住所 | 〒 TEL() - | | | | |

中京大学長 殿

私は上記の者が中京大学大学院留学生として日本に在留中、責任をもって下記事項を保証いたします。

1. 本人が学業に専念するよう監督すること
2. 本人が学費、生活費、帰国旅費及び医療費を支払えないときの負担
3. 本人が日本国法令上関係するあらゆる場合の身元引き受け

フリガナ
保証人氏名 _____

〒 _____

現住所 _____

電話番号 () - _____ 携帯電話番号 () - _____

職業 (詳細に) _____

年収 (税込み) _____

本人との関係 _____

日付 (西暦) 年 月 日 署名 _____ (印)

保証人は日本に居住し、独立して生計を営んでいる者で、在学期間中の本人に関する全ての事項について保証できる者とする（日本国籍を有していなくても可）。

志 願 書

| | | | |
|-----------------------------|---|--|--|
| 文学 研究科 日本文学・日本語文化 専攻 | | 大学記入 | |
| 課 程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程・博士後期課程 | 博士前期課程 試験区分 (○で囲む) | 一般・社会人・ 留学生・学内特別 |
| 選 択 科 目 (番号を記入) | 博士前期課程 (修士課程) | 専門科目 ●専攻の科目() ●左記以外の任意の科目() ①上代 ②中古 ③中世 ④近世 ⑤近代 ⑥比較文学(日中) ⑦書学 ⑧出版論 ⑨著作権論 ⑩日本語史 ⑪現代日本語 ※一般選抜及び社会人選抜志願者は専攻の1科目と専攻以外の任意の科目1科目を選択すること。 ※留学生選抜志願者は専攻の1科目のみ選択すること。 ※学内特別選抜志願者は記入不要。 | |
| | 博士後期課程 | ●専門科目() ①日本文学 ②日本語文化 ③日本語学 ●外国語() ①英語 ②漢文 ③資料解読 ※専門科目・外国語とも1科目を選択すること。 | |
| 志望指導教員 出願承諾印 | | (博士前期課程志願者のみ記入) 氏名 _____ (印) ※志望指導教員が記入し捺印すること。 ※学内特別選抜志願者は記入不要。 | |
| 氏 名 | フリガナ _____ | 生年 月 日 | 1 9 年 月 日生 () 歳 |
| | | 性別 | 男 ・ 女 |
| 現住所 (連絡先) | 〒 _____ TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | 写 真 貼 付 欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 _____ TEL() - | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出願時の在留資格 入学後の在留資格 (予定) | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| 推 薦 書 | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 推薦者職・氏名 _____ (印) | | |

注：一般選抜及び留学生選抜志願者は推薦書の記入は任意、中京大学出身者及び社会人選抜志願者は推薦書の記入不要。

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

| | |
|------------------|--------------|
| 修 士 論 文 | 題目： _____ |
| | 概要： |

注：博士前期（修士）課程修了者のみ修士論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は予定を記入）。

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 入 学 後 の 研 究 計 画 | 研究題目： |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| ----- | |

注：博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。

志 願 書

| | | | | | |
|---------------------|--|---|------------------|--------------------|--|
| 文学 研究科 歴史文化 専攻 修士課程 | | | | 大学記入 | |
| 試験区分 (○で囲む) | | 一般選抜 ・ 社会人選抜 ・ 留学生選抜 ・ 学内特別選抜 | | | |
| 選択科目 | | 専門科目：番号を記入 ●専攻の科目() ●左記以外の任意の科目() ①古代史 ②中世史(織豊期含む) ③近世史 ④近現代史 ⑤思想史 ⑥民俗学 | | | |
| | | いずれかを○で囲む 英語 ・ 古文書(くずし字)読解 | | | |
| 志望指導教員 出願承諾印 | | 氏名 _____ ⑩ | | ※志望指導教員が記入し捺印すること。 | |
| 氏名 | フリガナ | 生年 | 1 9 年 | 月 | 日生 |
| | | 月日 | | () | 歳 |
| | | 性別 | 男 ・ 女 | | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | | | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出願時の在留資格 | 入学後の在留資格 (予定) | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| 推 薦 書 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 推薦者職・氏名 _____ ⑩ | | | | |

注：一般選抜及び留学生選抜志願者は推薦書の記入は任意、中京大学出身者及び社会人選抜志願者は推薦書の記入不要。

キ
リ
ト
リ

氏名 _____

大学記入

研究題目：

入
学
後
の
研
究
計
画

注：別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | |
|------------------|---|---|-------|--|
| 国際英語学 研究科 | | 専攻 | 大学記入 | |
| 課 程 | 修 士 課 程 | | 入 学 期 | 2018年度 春学期 |
| 氏 名 | フリガナ | 生年 月 日 | 1 9 年 | 月 日生 () 歳 |
| | | 性別 | 男 ・ 女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出願時の在留資格 | | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

題目：

概要：

卒業論文又は修士論文

- 注：① 概要は400字程度で記入すること。作成途中の場合は、予定を記入すること。
② 【国際英語学専攻】学部卒業者(卒業見込者)で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
③ 【英米文化学専攻】学部卒業者(卒業見込者)で卒業論文を作成してない場合は、研究計画書を提出すること。
④ 別紙にて提出する場合は記入不要。

研究題目：

入学後の研究計画案

- 注：① 国際英語学専攻志願者のみ400字程度で記入すること。
② 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | |
|------------------------|--|---|--|
| 専攻 (○を付す) | () 実験・応用心理学専攻 () 臨床・発達心理学専攻 | 大学記入 | |
| 課程 (○を付す) | () 博士前期(修士)課程 () 博士後期課程 | 博士前期課程 試験区分 (○を付す) | () 一般選抜 () 社会人選抜 |
| 志望する 専門領域 (○を付す) | () 実験心理学・() 応用心理学・() 臨床心理学・() 発達心理学 ※同一専攻であれば二つまで選択できる。 ※1領域のみならば○を、2領域いずれでもよいとする場合は志望順位1・2を()内に記入する。 ただし、博士前期(修士)課程の場合、臨床心理学領域への受入は第1志望の者に限る。 | | |
| 氏名 | フリガナ | 生年月日 | 19 年 月 日生 () 歳 |
| | | 性別 | 男 ・ 女 |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | |
| 外国人のみ 記入 | 国籍 | 出願時の在留資格 | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| 学部・大学院在学時 指導教員名 | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

修士論文又は
卒業論文の題目

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。
② 学部卒業者（卒業見込者）で、卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。

研究題目：

入
学
後
の
研
究
計
画
案

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
② 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。
③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | | |
|----------------|--|---|------------------|-------------------------|--|
| 社会学 研究科 | | 社会学 専攻 | | 大学記入 | |
| 課 程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程・博士後期課程 | | | 試験区分 (○で囲む) | 一般選抜・留学生選抜 |
| | | | | 受験する 外国語科目 (○で囲む) | (留学生選抜志願者のみ記入) 英 語 ・ 日 本 語 |
| 志望専門 (専攻)分野 | | | | 志望指導 教 員 名 | |
| 氏 名 | フリガナ | | 生年 月 日 | 1 9 年 | 月 日生 () 歳 |
| | | | 性別 | 男 ・ 女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス: | | | | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | | 出願時の在留資格 | | |
| | | | 入学後の在留資格 (予定) | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込みまで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもしもなく記入すること。 | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

| | |
|------------|-----|
| 修士論文又は卒業論文 | 題目： |
| | 概要： |

注：① 博士前期（修士）課程修了者は修士論文について、学部卒業者は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。
 ② 学部卒業者（卒業見込者）で、卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
 ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

| | |
|-----------|-------|
| 入学後の研究計画案 | 研究題目： |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |

注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ、400字～500字程度にまとめて記入すること。
 ② 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。
 ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---------------------------|--------------------|--|
| 法 学 研究科 | | 法 律 学 専攻 | | 大学記入 | |
| 課 程 (○で囲む) | 博士前期 (修士) 課程 ・ 博士後期課程 | | | 志 望 専 門 科 目 | |
| 試験区分 (○で囲む) | 一 般 ・ 社会人 ・ 学内特別 ・ 留学生 | | | | |
| 在学期間 社会人選抜のみ (○で囲む) | 2 年 ・ 3 年 ・ 4 年 | | | 志 望 指 導 教 員 名 | |
| 博 士 前 期 課 程 の み コースの選択 (○で囲む) | ・ 研 究 コ ー ス ・ 専 門 コ ー ス | 外 国 語 又 は 論 文 科 目 で 受 験 す 目 | 博 士 前 期 課 程 一 次 試 験 | 一 般 選 抜 【研究コース】 | 外 国 語 1 科 目 () |
| | | | | 一 般 選 抜 【専門コース】 | 外 国 語 又 は 論 文 科 目 1 科 目 () |
| | | | 博 士 後 期 課 程 | | 外 国 語 2 科 目 () () |
| 氏 名 | フリガナ | | 生 年 月 日 | 1 9 年 月 日生 () 歳 | |
| | | | 性 別 | 男 ・ 女 | |
| 現 住 所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携 帯 TEL() - E-mailアドレス : | | | | 写 真 貼 付 欄 注) 3 カ月以内に 撮 影 し た も の 注) 縦 4 cm × 横 3 cm |
| 帰 省 先 | 〒 TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出 願 時 の 在 留 資 格 | | | |
| | | 入 学 後 の 在 留 資 格 (予定) | | | |
| 履 歴 事 項 | 年 (西暦) ・ 月 | 事 項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)または卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

| | |
|------------|-----|
| 修士論文又は卒業論文 | 題目： |
| | 概要： |

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。
 ② 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
 ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

| | |
|-----------|--|
| 入学後の研究計画案 | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

- 注：① 博士前期（修士）課程一般選抜及び留学生選抜志願者のみ、400字～500字程度にまとめて記入すること。
 ② 博士前期（修士）課程社会人選抜及び学内特別選抜志願者、博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。
 ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

経済学専攻 志願書

| | | | | |
|--------------------------------|---|--|------------------------|--|
| 入学期 (○で囲む) | 2018年度春学期 | 課程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程 ・ 博士後期課程 | 大学記入 |
| 試験区分 (○で囲む) | (博士前期課程志願者のみ記入) 一般・社会人・税理士・留学生・学内特別 | | 志望する 専攻分野 | |
| 在学期間 (○で囲む) | (博士前期課程社会人選抜志願者のみ記入) 2年 ・ 3年 | | 志望指導 教員名 | |
| 選択科目〈2科目選択〉 (○で囲む) | (博士前期課程「一般選抜」志願者のみ記入、2科目選択すること) ①ミクロ経済学 ②マクロ経済学 ③志望する専攻分野の科目 *筆記試験は上記2科目の他「英語」を含む | | | |
| 志望指導教員 との面談年月日 ※志願者全員記入要 | 年 月 日 ㊟ | | | |
| | *志望指導教員が記入し捺印すること | | | |
| 志望指導教員 受入承諾印 | (博士前期課程「学内特別選抜」志願者のみ記入) 氏名 _____ ㊟ | | | |
| | *志望指導教員が記入し捺印すること | | | |
| 氏名 | フリガナ _____ | 生年月日 | 19 年 月 日生 () 歳 | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| | | 性別 | 男 ・ 女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 _____ TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | | |
| 帰省先 | 〒 _____ TEL() - | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国籍 | 出願時の在留資格 | | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込みまで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

| | |
|------------|-----|
| 修士論文又は卒業論文 | 題目： |
| | 概要： |

- 注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。
- ② 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
- ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

| | |
|-----------|--|
| 入学後の研究計画案 | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

- 注：① 400字～500字程度にまとめて記入すること。
- ② 別紙にて提出する場合は記入不要。

総合政策学専攻 志願書

| | | | | | |
|--------------------------------|---|---|-----------------------------------|--|--|
| 経済学 研究科 | | 総合政策学 専攻 | | 大学記入 | |
| 課程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程・博士後期課程 | | | 試験区分 (○で囲む) | (博士前期課程志願者のみ記入) 一般・留学生・社会人・学内特別 |
| 選択科目 (○で囲む) | (博士前期課程「一般選抜」志願者のみ記入、2科目選択すること) ①経済学 ②経営学 ③政治学(行政学を含む) ④法学 ⑤英語 (博士前期課程「留学生選抜」志願者のみ記入、1科目選択すること) ①経済学 ②経営学 ③政治学(行政学を含む) ④法学 | | | | |
| 志望指導教員名 | | | 志望指導教員 受入承諾印 | (博士前期課程学内特別選抜志願者のみ記入) 氏名 _____ (印) *志望指導教員が記入し捺印すること | |
| 志望指導教員との 面談年月日 ※志願者全員記入要 | _____年 _____月 _____日 (印) | | | *志望指導教員が記入し捺印すること | |
| 氏名 | フリガナ | 生年月日 | 19 _____年 _____月 _____日生 () 歳 | 性別 | 男・女 |
| 現住所 (連絡先) | 〒 _____ TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス: | | | | 写真貼付欄 注)3カ月以内に 撮影したもの 注)縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 _____ TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国籍 | 出願時の在留資格 | | 入学後の在留資格 (予定) | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込みまで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名 _____

| | |
|------------|-----|
| 修士論文又は卒業論文 | 題目： |
| | 概要： |

注：① 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。

② 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。

③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

| | |
|-----------|--|
| 入学後の研究計画案 | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

注：① 博士前期課程一般選抜及び学内特別選抜志願者・博士後期課程志願者は400字～500字程度にまとめて記入すること。

② 博士前期課程社会人選抜及び留学生選抜志願者は別紙（A4判用紙、2,000字～4,000字の範囲内）にて研究計画書を提出するため記入不要。

③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | | |
|------------------|---------------------------------------|---|----------|--------------------|--|
| 経営学 研究科 | | 経営学 専攻 | | 大学記入 | |
| 課程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程・博士後期課程 | | | 志望指導 教員名 | 第一志望 |
| 試験区分 (○で囲む) | (博士前期課程志願者のみ記入) 一般選抜・社会人選抜・学内特別選抜 | | | | 第二志望 注)博士前期課程のみ必ず記入 |
| 氏名 | フリガナ | | 生年 月日 | 19 年 月 日生 () 歳 | 写真貼付欄 注)3カ月以内に 撮影したもの 注)縦4cm×横3cm |
| | | | 性別 | 男・女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス: | | | | |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国籍 | 出願時の在留資格 | | | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |

キ
リ
ト
リ

大学記入

氏名

| | |
|------------|-----|
| 修士論文又は卒業論文 | 題目： |
| | 概要： |

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
 ② 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること。論文未完の場合は、出願時点において予定している題目および概要を記入すること。
 ③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成してない場合は、その旨を記入すること。
 ④ 別紙にて提出する場合は記入不要。

| | |
|-----------|-------|
| 入学後の研究計画案 | 研究題目： |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |
| | ----- |

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
 ② 博士後期課程志願者は別紙にて研究計画書を提出するため記入不要。
 ③ 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | |
|----------------------------|---|---|--|--|
| 専攻 (○を付す) | <input type="checkbox"/> 機械システム工学専攻 修士課程 <input type="checkbox"/> 電気電子工学専攻 修士課程 <input type="checkbox"/> 情報工学専攻 修士課程 | | 大学記入 | |
| 試験区分 (○を付す) | <input type="checkbox"/> 一般選抜 <input type="checkbox"/> 学内特別選抜 | 志望指導教員名 | | |
| 志望指導教員との 面談年月日 | (志願者全員記入) 年 月 日 ⑩ *志望指導教員が記入し捺印すること | 志望指導教員 受入承諾印 | (学内特別選抜志願者のみ記入) 氏名 _____ ⑩ *志望指導教員が記入し捺印すること | |
| 一般選抜 英語試験選択 (いずれかに○) | <input type="checkbox"/> 本学が試験当日実施する英語試験のみを受験。 <input type="checkbox"/> これまで受験した英語試験の結果を提出。本学が試験当日実施する英語試験は受験しない。 <input type="checkbox"/> 本学が試験当日実施する英語試験を受験。さらに、これまでに受験した英語試験結果を提出。高得点のものを合否判定に使用することを希望。 | | | |
| 氏名 | フリガナ | 生年月日 | 19 年 月 日生 () 歳 | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| | | 性別 | 男 ・ 女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 _____ TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス : | | | |
| 帰省先 | 〒 _____ TEL() - | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国籍 | 出願時の在留資格 | 入学後の在留資格 (予定) | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |
| | ・ | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

題目：

概要：

卒業論文又はこれに代わる業績の概要

注：① 作成途中の場合は、予定を記入すること。
② 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | |
|------------------|--|-------------------|--|
| 専攻 (○を付す) | () 情報認知科学専攻 博士後期課程 () メディア科学専攻 博士後期課程 | 大学記入 | |
| 志望指導 教員名 | | 志望指導教員との 面談年月日 | (志願者全員記入) 年 月 日 ⑩ *志望指導教員が記入し捺印すること |
| 氏名 | フリガナ | 生年 月日 | 19 年 月 日生 () 歳 |
| | | 性別 | 男 ・ 女 |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス: | | 写真貼付欄 注) 3カ月以内に 撮影したもの 注) 縦4cm×横3cm |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出願時の在留資格 | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 | *学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。 |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

題目：

概要：

修士論文又はこれに代わる業績の概要

注：① 作成途中の場合は、予定を記入すること。
② 別紙にて提出する場合は記入不要。

志 願 書

| | | | | | |
|----------------|--|---|-----------|------------------------|---|
| 体 育 学 研 究 科 | | 体 育 学 専 攻 | | 大学記入 | |
| 課 程 (○で囲む) | 博士前期(修士)課程・博士後期課程 | | | 志望する分野 | 学系 |
| 試験区分 (○で囲む) | 一 般 ・ 社 会 人 ・ 留 学 生 | | | 志望指導教員名 | |
| 在学期間 (○で囲む) | (博士前期課程社会人選抜志願者のみ記入) 2 年 ・ 3 年 | | | 受験する 外国語 (○で囲む) | (博士前期課程留学生選抜志願者のみ記入) 英 語 ・ 日 本 語 |
| 氏 名 | フリガナ | | 生年 月 日 | 1 9 年 月 日生 () 歳 | 写真貼付欄 注) 3 カ月以内に 撮影したもの 注) 縦 4 cm × 横 3 cm |
| | | | 性別 | 男 ・ 女 | |
| 現住所 (連絡先) | 〒 TEL() - 携帯TEL() - E-mail アドレス: | | | | |
| 帰省先 | 〒 TEL() - | | | | |
| 外国人のみ 記入 | 国 籍 | 出願時の在留資格 | | | |
| | | 入学後の在留資格 (予定) | | | |
| 履 歴 事 項 | 年(西暦)・月 | 事項 <small>*学歴は高校卒業から最終学校卒業(修了)又は卒業(修了)見込まで入学年も含めて記入すること、また職歴も記入すること。 *日本在住の外国人留学生は、来日後の経歴をもれなく記入すること。</small> | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |
| | ・ | | | | |

キ
リ
ト
リ

氏名

大学記入

題目：

概要：

修士論文又は卒業論文

- 注：① 博士前期（修士）課程志願者のみ記入すること。
② 博士前期（修士）課程修了者（修了見込者）は修士論文について、学部卒業者（卒業見込者）は卒業論文について、その題目と概要を記入すること（作成途中の場合は、予定を記入）。
③ 学部卒業者（卒業見込者）で卒業論文を作成していない場合は、その旨を記入すること。
④ 別紙（A4判用紙）での提出も可。その場合「別紙参照」と明記すること。

研究題目：

入学後の研究計画案

- 注：① 別紙（A4判用紙）での提出も可。その場合「別紙参照」と明記すること。
② 博士前期課程社会人選抜志願者は別に研究計画書もしくは学習計画書（3,000字程度）を作成し、提出するので記入は不要。
③ 博士後期課程留学生選抜志願者のみ、英語で記入してもよい。

大学記入

研究計画書

キ
リ
ト
リ
(紐で綴ること)

| | |
|-------|--|
| 研究テーマ | |
| フリガナ | |
| 氏名 | |

入試に関する問い合わせ

中京大学 教学部大学院事務課

TEL (052) 835-9863 〈受付時間〉 平日 9 : 00~17 : 00

E-mail gs-office@mng.chukyo-u.ac.jp

名古屋キャンパス

文学研究科・国際英語学研究科・心理学研究科・法学研究科・経済学研究科・経営学研究科
工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻）

〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2

豊田キャンパス

社会学研究科・情報科学研究科※・体育学研究科・工学研究科（情報工学専攻）

※情報科学研究科は指導教員の研究室の設置が名古屋キャンパスの場合、名古屋キャンパスに通学する場合があります。

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101